

文部科学省 平成24年度
「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」選定事業

平成24年度 活動報告書

順天堂大学
島根大学
鳥取大学
岩手医科大学
東京理科大学
明治薬科大学
立教大学

文部科学省 平成 24 年度
「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」
選定事業

平成 24 年度活動報告書

順天堂大学
島根大学
鳥取大学
岩手医科大学
東京理科大学
明治薬科大学
立教大学

目次

第1編 事業概要報告（平成24年度）	1
1. 事業の概要	2
1-1 参加大学名（設置者名）	2
1-2 プログラム名	3
1-3 事業名称	3
1-4 本事業の概要	3
1-5 養成コース	4
1-6 がんに特化した講座の設置	5
第2編 平成24年度の取り組み	7
1. シンポジウム	8
1-1 キックオフシンポジウム	8
1-2 東京理科大学主催がんプロシンポジウム『基礎研究を先進がん医療に活かす』	10
1-3 鳥取大学・島根大学がんプロシンポジウム『がん医療における地域貢献とは』	16
1-4 順天堂大学市民公開シンポジウム『対話学・対話カフェの重要性』	18
2. ワークショップ	20
2-1 連携7大学FD研修会 in 岩手 『がん医療維新プラン・共通教育科目のカリキュラムプランニング』	20
2-2 チーム研究合宿	32
3. 各大学企画講座・連携企画講座	36
3-1 順天堂大学 大学院特別講義	36
3-2 順天堂大学 大学院特別講義	37
3-3 順天堂大学 国際シンポジウム『先導的国際がん研究の動向』	38
3-4 岩手医科大学 がんプロシンポジウム『地域を支えるがん医療教育』	44
3-5 東京理科大学『第28回薬学講座』	46
3-6 明治薬科大学 大学院特別講義	47
3-7 明治薬科大学 大学院特別講義	48
3-8 明治薬科大学 大学院特別講義	49
3-9 明治薬科大学 大学院特別講義	50
3-10 明治薬科大学 大学院特別講義	51
3-11 明治薬科大学 大学院特別講義	52
3-12 明治薬科大学 ジョイント講演会	53
3-13 順天堂大学・岩手医科大学 テレビ会議合同カンファレンス	54
3-14 順天堂大学・島根大学 テレビ会議合同特別カンファレンス	54
3-15 がんプロ医学物理連絡会	54
4. ニュースレター	55
4-1 ニュースレター創刊号	55
4-2 ニュースレター第2号	59
4-3 ニュースレター第3号	63
4-4 ニュースレター第4号	67
第3編 平成24年度開講コースシラバス	71
1. 鳥取大学（医学部付属病院 看護師キャリアアップセンター）がん看護専門（認定） 看護師養成コース（認定看護師（がん化学療法看護））	72
1-1 共通科目	72
1-2 選択共通科目	80
1-3 専門基礎科目	82
1-4 専門科目	86

1-5	臨地実習	95
1-6	総合演習	97
2.	東京理科大学 がんシステム・創薬研究者養成コース	98
2-1	シラバス	98
2-2	修士課程授業科目・単位表	106
3.	明治薬科大学 がん薬物療法のファーマシー・サイエンティスト養成教育コース	107
4.	立教大学 医学物理研究コース	115

第4編 各委員会議

1.	順天堂大学 運営委員会	118
2.	がんプロ連携7大学運営連絡会	122

第 1 編

事業概要報告(平成 24 年度)

1. 事業の概要

1-1 参加大学名（設置者名）

順天堂大学大学院医学研究科

学校法人順天堂（東京都文京区本郷2丁目1番1号）
学長 木南英紀（事業推進代表者）

島根大学大学院医学系研究科

国立大学法人島根大学（島根県松江市西川津町1060）
学長 小林祥泰

鳥取大学大学院医学系研究科

国立大学法人鳥取大学（鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101）
学長 能勢隆之

岩手医科大学大学院医学研究科

学校法人岩手医科大学（岩手県盛岡市内丸19-1）
理事長 小川彰

東京理科大学大学院薬学研究科

学校法人東京理科大学（東京都新宿区神楽坂1丁目3番地）
理事長 塚本桓世（～平成24年12月27日（木））
中根滋（平成24年12月28日（金）～）

明治薬科大学大学院薬学研究科

学校法人明治薬科大学（東京都清瀬市野塩2丁目522番地1号）
理事長 久保陽徳

立教大学大学院理学研究科

学校法人立教学院（東京都豊島区西池袋3丁目34番1号）
総長 吉岡知哉

1-2 プログラム名

文部科学省 平成24年度 「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」

1-3 事業名称

ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン

1-4 本事業の概要

順天堂大学はがん専門医療者の養成を行い、がん医療の底上げに貢献してきた。今後は、全国のがん患者に均等に医療者養成の成果を還元し得る臨床の連携、基礎と臨床が協働する医薬看理工連携が課題である。従来、地方と首都圏大学との人材交流は少なく、地方のがん医療人養成はマンパワーに問題があった。本プランでは、本学及び連携医科系大学と非医科系大学をICTと循環型人材交流で結び、地域から世界まで、さらに基礎から臨床まで俯瞰するがん研究者・医療人の養成を目的とする。具体的には（1）順天堂大学に先導的がん医療開発研究センターを整備し、これを拠点とし、（2）東京理科大学・明治薬科大学・立教大学との共同橋渡し研究の体制整備と実施、（3）島根大学、鳥取大学、岩手医科大学の構築するコンソーシアムと理薬工学系大学をICTと人材交流で繋ぎ、臨床・研究・教育に一気に風穴をあける平成のがん医療維新を引き起こしたいと考えている。

1-5 養成コース

■大学院コース

大学院・課程	コース名	養成する専門分野	修業年限
順天堂大学大学院 医学研究科 医学専攻	次世代先導的がん研究者養成コース	がん研究医	4年
島根大学大学院 医学系研究科 医科学専攻	地域がん専門医育成コース	がん化学療法	4年
鳥取大学大学院 医学系研究科 看護学専攻	がん看護専門（認定）看護師養成コース	① がん看護専門看護師 ② 認定看護師 (がん化学療法看護)	① 2年 ② 7ヶ月
岩手医科大学大学院 医学研究科 医科学専攻	緩和ケア地域連携を支援する 指導的医療人育成コース	緩和医療	2年・4年
東京理科大学 薬学研究科 薬科学専攻修士課程	がんシステム・創薬研究者養成コース	創薬医科学	2年
明治薬科大学大学院 薬学研究科 薬学専攻博士課程	がん薬物療法のファーマシー・ サイエンティスト養成教育コース	薬剤師	4年
立教大学 理学研究科 物理学専攻	医学物理研究コース	医学物理士	3年

■インテンシブコース

大学院・課程	コース名	養成する専門分野	修業年限
順天堂大学大学院 医学研究科 医学専攻	次世代先導的がん専門医療人 養成コース	がん治療	1年間 (20講義)
島根大学大学院 医学系研究科 医科学専攻	山陰がん認定医療スタッフ育成コース (島根大学・鳥取大学の合同事業)	地域がん認定医療	1年間
鳥取大学大学院 医学系研究科 医学専攻			
岩手医科大学大学院 医学研究科 医科学専攻	先導的がん臨床研究に精通した医療人 育成コース	トランスレーショナル リサーチ (TR) マネジメント	1年間 (3単位)
		レギュラトリーサイエンス	1年間 (3単位)

1-6 がんに特化した講座の設置

順天堂大学大学院 医学研究科

順天堂大学医学部 腫瘍内科学講座

本講座は、腫瘍学の卒前教育と卒後教育（がん薬物療法専門医の養成）、院内がん治療センターの運営、臨床試験の企画、実施、報告と先導的医療開発センターを拠点とした大学間の研究支援を行うことを目的としています。

順天堂大学大学院 医学研究科

順天堂大学医学部 緩和医療学研究室

本講座は、自然科学と人間科学を統合した緩和ケア学の確立と教育・実践、緩和医療医養成、緩和ケアに関心を有する医療従事者の育成、緩和ケア領域における臨床研究を行うことを目的としています。

島根大学大学院 医学系研究科

島根大学医学部医学科 緩和ケア講座

本講座は、緩和ケアの卒前・卒後の教育の確立・実践、地域における緩和ケアの体制整備、緩和ケア領域における臨床研究を行うことを目的としています。

順天堂大学大学院 医学研究科

順天堂大学医学部 放射線治療学講座

本講座は、放射線腫瘍医、医学物理士の有機的統合により高精度放射線治療の基礎および臨床研究を行い、かつ、がん治療教育の充実を図ること、また、連携大学との協力による相互の診療と各地域がん診療の充実を図ることを目的としています。

岩手医科大学大学院 医学系研究科

岩手医科大学 緩和医療学講座

本講座は、緩和ケアの卒前・卒後の教育の確立・実践、臨床研究者の育成、地域ごとの実情に沿った連携システムの整備と各専門職種からなるスキルミクス指向型の指導的医療人の育成を目的としています。

岩手医科大学大学院 医学系研究科

岩手医科大学 放射線腫瘍学講座

本講座は、放射線腫瘍学の卒前・卒後の教育の確立・実践、地域ごとの実情に沿った連携システムの整備、放射線治療に生物学的最適化戦略を開発・研究するがん放射線治療医の育成を目的としています。

第 2 編

平成 24 年度の取り組み

1. シンポジウム

1-1 キックオフシンポジウム

■概要

(1) 名称

順天堂大学 キックオフシンポジウム「がん医療維新をめざす ICT 研究教育プラン」

(2) 日時、場所、対象

開催日時：平成 24 年 6 月 18 日（月）16:00～18:30

開催場所：順天堂大学 本郷キャンパス 11 号館（センチュリータワー）801 教室
（TV会議にて連携大学接続）

参加対象：一般の方（自由参加、入場無料）

(3) 特別講演者

国立がん研究センター 研究所所長 中釜 齊

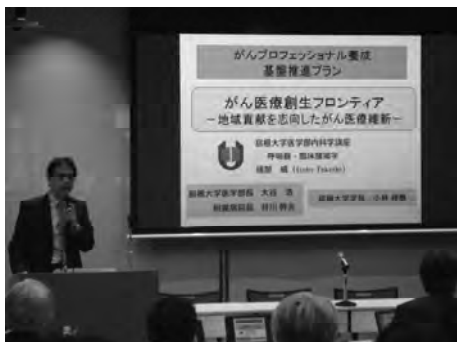
公益財団法人がん研究会有明病院 院長 門田 守人

(4) 参加者の概要

参加者数：151 名（順天堂大学会場出席者）

(5) 主催

順天堂大学・岩手医科大学・鳥根大学・鳥取大学・東京理科大学・明治薬科大学・立教大学



■資料

・ポスター

平成24年度文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン採択事業

キックオフシンポジウム

順天堂大学

がん医療維新をめざすICT研究教育プラン

趣旨

本学では、がんプロフェッショナル養成プランにて「がん生涯教育センター」を創設し、がん医療に携わる医師・医療従事者の育成をおこなってきた。今後のさらなるがん専門医療人養成をめざし、地域から世界まで俯瞰する力を持つがん研究者・医療人を養成することを目的とする。具体的には(1)基礎研究をがん患者に活かすために、臨床を視点においた基礎教育の実施(2)がん治療の均てん化・地域連携を重点とした医療人育成(3)ICTを活用して大学・地域連携だけでなく国際的ながん研究者・医療人の育成をおこなう。がんプロフェッショナル養成プランで連携をおこなっていた東京理科大学・明治薬科大学・立教大学と連携を行うほか、新たに地域医療の先駆者である島根大学・岩手医科大学・鳥取大学と連携を開始する。また、本学はアジアにも多数の協定校を持っているため、日本だけでなく国際的ながん専門医療人の養成が可能となる。

開会の挨拶 小川 秀興 学校法人 順天堂 理事長

講演 次世代のがんプロに期待するもの
 新井 一 順天堂大学大学院医学研究科長 教授
 がんプロフェッショナル基盤推進プラン事業推進責任者
 樋野 興夫 順天堂大学大学院 分子病理病態学 教授

がんトピックス
 発がん研究と予防戦略
 中釜 斉 国立がん研究センター 研究所長
 医療人に求められる複眼的思考
 門田 守人 公益財団法人がん研究会 有明病院 院長

パネルディスカッション 各大学の役割意識 座長:新井一&樋野興夫
 順天堂大学 呼吸器内科学講座 教授 高橋 和久
 岩手医科大学 産婦人科学講座 教授 杉山 徹
 島根大学 内科学講座(呼吸器・臨床腫瘍学) 教授 磯部 威
 鳥取大学 附属病院がんセンター長 教授 紀川 純三
 東京理科大学 薬学研究科長 教授 田沼 靖一
 明治薬科大学 副学長 教授 越前 宏俊
 立教大学 理学部物理学科 教授 栗田 和好

閉会の挨拶 木南 英紀 順天堂大学 学長

開催日時 2012年6月18日(月) 16:00~18:30

開催場所 順天堂大学センチュリータワー801教室

交通アクセス JR・地下鉄「お茶ノ水」駅下車 徒歩5分

参加料 一般の方(自由参加・無料) ※事前の予約は不要です。なお席に限りがありますので、ご了承下さい。

問い合わせ先 順天堂大学がんプロ事務局 TEL 03-5802-1020
 主催 / 順天堂大学/岩手医科大学/島根大学/鳥取大学/東京理科大学/明治薬科大学/立教大学
 後援 / 読売新聞グループ本社・毎日新聞社

1-2 東京理科大学主催がんプロシンポジウム『基礎研究を先進がん医療に活かす』

■概要

(1) 名称

東京理科大学主催がんプロシンポジウム『基礎研究を先進がん医療に活かす』

(2) 日時、場所、対象

開催日時：平成24年11月30日（金）13:00～

開催場所：東京理科大学 野田校舎13号館1311教室

参加対象：医学・薬学・医学物理領域の研究者、大学教員、本がんプロ運営スタッフ、大学院生

(3) 特別講演者

独立行政法人国立がん研究センター研究所 遺伝医学研究分野 分野長 吉田 輝彦

(4) 参加者の概要

参加者数：75名

(5) 主催

東京理科大学



■資料

・リーフレット

【平成24年度文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン採択事業】

がんプロシンポジウム

基礎研究を 先進がん医療に活かす

日程 平成24年11月30日(金)
13:00~18:00

場所 東京理科大学野田校舎
13号館1311教室

連携大学 順天堂大学
岩手医科大学
島根大学
鳥取大学
東京理科大学
明治薬科大学
立教大学

Program

13:00～ **1.開会の辞**

13:05～ **2.基調講演**

独立行政法人国立がん研究センター研究所

遺伝医学研究分野

吉田 輝彦 分野長

「ゲノム系情報に基づくがんの個別化医療開発・創薬に関する総論的考察」

休憩

3.各連携大学からの研究発表

14:15～ 順天堂大学 医学部病理・腫瘍学 樋野 興夫 教授
「『国際環境発がん制御研究』の推進～難治性中皮腫をモデルにして～」

14:30～ 岩手医科大学 外科分子治療研究室 西塚 哲 講師
「Colony Lysate Array (CoLA)を用いた抗癌剤耐性コロニーの分子生物学的プロファイル」

14:45～ 島根大学 医学部内科学講座呼吸器・臨床腫瘍学 磯部 威 教授
「腫瘍内科で行うトランスレーショナルリサーチ」

15:00～ 鳥取大学 医学部附属病院女性診療科群統括医長(医局長) 大石 徹郎 講師
「卵巣明細胞腺癌におけるPI3K/mTOR 阻害剤NVP-BEZ235の細胞増殖抑制効果の検討」

15:15～ 東京理科大学 薬学部薬学科 田沼 靖一 教授
「新しいin silico創薬の実践」

15:30～ 明治薬科大学 薬学研究科薬学専攻博士課程(後期) 薬物体内動態学教室 井上 裕貴 大学院生
「悪性脳腫瘍の光線力学診断と治療をめざしたABCG2阻害剤のデザイン」

15:45～ 立教大学 理学研究科博士課程(後期) 玉木 聖一 大学院生
「医学物理研究に対する立教大学の取り組み」

休憩

16:15～ **4.総括(質疑応答)、閉会の辞**

17:00～ **情報交換会**

基調講演／各連携大学からの研究発表

ゲノム系情報に基づくがんの個別化医療開発・ 創薬に関する総論的考察

独立行政法人国立がん研究センター研究所
遠征医学研究分野
吉田 輝彦 分野長

2001年のヒトゲノム配列草案の発表の頃から、生命情報関連分子を網羅的に検索する技術が長足の進歩を遂げ、生命科学の戦略が大きく変わってきた。それはゲノム・エピゲノム・トランスクリプトームに限らず、質量分析器等を駆使したプロテオーム・メタボローム領域にも及んでおり、分子網羅的(オミックス)解析は、技術史・科学史の自然な流れとも言えるし、あるいはそれだけヒトゲノム・リファレンス配列決定の波及効果は大きかったとも言えるであろう。

このような人類のゲノム研究への投資の最大の原動力となったのは、ゲノム系異常を本態とするがんの研究であった。一方、医学に目を向けると、その歴史は常に医療の個別化をさらに高度に推し進めるための努力の連続であった。今日、ゲノム系情報に基づくがんの個別化医療開発・導入に大きな期待が集まっている。「個別化医療」と並んで医学の大目標の双壁をなす「創薬」(診断・治療・予防法開発として広義で使う)についても、2001年のimatinib (Gleevec)のFDA承認の頃から大きく分子標的治療開発に舵が切れ、コンパニオン診断薬の同時開発が常態化しつつあり、大きくは個別化医療の範疇に入ると言える。このような個別化医療の最先端の現状を概観し、今後の課題を展望するために、治療と予防(先制医療)、生殖細胞系列(germline)と体細胞(がん細胞, somatic)の2つの軸から見ていく。

特に、オミックス医学の時代における重要な研究基盤として、人由来試料・情報のバイオバンクとデータベースが注目されている。がんのバイオバンクを用いて行われる研究は、従来、分子病理学的断面研究と、それに基づく創薬標的探索研究が主体であったが、電子化され、質・量に富んだ臨床情報を付随させることにより、個別化医療開発に貢献する研究の高度化・強化も可能になってきた。バイオバンクの可能性と課題についても言及する。

「国際環境発がん制御研究」の推進 ～難治性中皮腫をモデルにして～

順天堂大学
医学部病理・腫瘍学
樋野 興夫 教授

アスベスト暴露から中皮腫発症までの潜伏期間は30年から40年といわれているが、1995年の阪神・淡路大震災における解体作業、および、看護師の手術用のゴム手袋の再利用の作業での中皮腫発生の最近の報道は、曝露期間の短さの観点からも事態は深刻である。東日本大震災の際に発生した津波により生じた瓦礫の中に大量のアスベストが含まれる場合もあることが指摘されており、アスベストの問題は、喫緊の課題の一つであることはいうまでもない。また、ナノ素材に関しても、繊維状の物質にはアスベスト同様に中皮腫を引き起こす作用のあることが動物実験で確認されており、将来の発がん性の危険性が危惧される。国民の健康障害に関する重要課題解決型研究として、「アスベスト・中皮腫」の克服に向けた総合戦略は「日下の急務」である。診断薬の開発、治療薬の開発に向けた統合的な研究を目指す。また、こうした「目に見えない脅威」を科学的に検討する専門機関(国際環境発がん制御研究センター)の必要性を提唱したい。

Colony Lysate Array (CoLA) を用いた 抗癌剤耐性コロニーの分子生物学的プロファイル

岩手医科大学
外科分子治療研究室
西塚 哲 講師

癌細胞を抗癌剤存在下で培養すると耐性を持った集団がコロニーを形成する。これらのコロニーには薬剤耐性に関する情報が含まれていると想定し、独自に開発したColony Lysate Array (CoLA) 法によりタンパク発現プロファイルを試みた。薬剤耐性コロニーの形成数は薬剤濃度に依存していたが、タンパク発現程度と薬剤濃度の間には明瞭な関連はなかった。しかしながら上皮性マーカーの発現が低下したコロニーは幹細胞性マーカーの発現が高く、その逆の傾向も見られた。このことから薬剤耐性コロニーのタンパク発現は薬剤濃度非依存のstochasticな現象であり、幹細胞様の傾向も有することが示唆された。

腫瘍内科で行うトランスレーショナルリサーチ

鳥根大学
医学部内科学講座
呼吸器・臨床腫瘍学
磯部 威 教授

基礎研究成果をもとに、疾患の予防や治療、診断等の開発を目指して、人への臨床応用を研究することは、がん研究者の重要な使命である。がん化学療法は治療標的となる分子が次々と同定され、阻害薬の開発とともに治療の個別化が進んでいる。患者にとってより良い治療を行うためには、効果予測や副作用対策も含め、薬物動態、薬物代謝などの検討を含めた治療の最適化が必要である。ICTで繋ぐ本コンソーシアムにおける共同研究を今後推進するために、本シンポジウムでは腫瘍内科医として肺がん化学療法を中心とした臨床研究について述べる。


卵巣明細胞腺癌におけるPI3K/mTOR阻害剤 NVP-BEZ235の細胞増殖抑制効果の検討

鳥根大学
医学部附属病院女性診療科群
統括医長 (医局長)
大石 徹郎 講師

日本では明らかに卵巣癌が増加し、特に、明細胞腺癌の発生頻度が高くなっている。上皮性卵巣癌の約20%を占める明細胞腺癌(CCC)は化学療法に抵抗性でその予後は不良である。本症の予後改善のためには新たな治療法の確立が急務である。


CCC細胞株を用いてPI3K/mTOR阻害剤NVP-BEZ235の効果について検討した。
各細胞株のIC50値は44~777nMであった。薬剤暴露後にp-Akt蛋白発現は低下し、G1期停止およびアポトーシス細胞比率の増加を認めた。移植腫瘍の発育は有意に抑制された。
CCC細胞に対するBEZ235の有効性およびPI3K-Akt-mTOR経路を標的とした新たな治療法開発の可能性が示された。

各連携大学からの研究発表

新しい*in silico*創薬の実践

 東京理科大学
薬学部薬学科
田沼 靖一 教授

ゲノム科学の進展により、ゲノムワイドで多くの疾患関連遺伝子及び創薬ターゲットタンパク質の同定がなされ、その構造解析データも急速に蓄積されてきている。これらのデータを創薬に確実に結びつけていくには、コンピュータシミュレーション技術を駆使した新しい*in silico*創薬方法論並びにそれを実装する*in silico*創薬手法を開発することが求められる。これまでに私共は、タンパク質間相互作用を標的とした新しい*in silico*創薬方法論とその分子設計手法(COSMOS法)の開発を行った。

今回は、その実施例として、癌などのアポトーシス疾患の発症に関与するタンパク質間相互作用をターゲットとした*in silico*創薬の実践について紹介する。


悪性脳腫瘍の光線力学診断と治療をめざした
ABCG2阻害剤のデザイン

 明治薬科大学
薬学研究所薬学専攻博士課程(後期)
薬物体内動態学教室
井上 裕貴 大学院生

井上裕貴¹、高橋紀衣¹、池上洋二¹、黒野敏彦²、石川智文²(¹明治薬大、²大阪医科大学脳神経外科、³理研オミックス基盤研究領域)

近年、腫瘍細胞をより特異的に抽出可能な5-アミノレブリン酸(ALA)を導入し、悪性脳腫瘍の外科的摘出率が向上した。ALAの代謝産物で赤色蛍光を持つプロトポルフィリンIXが腫瘍細胞に特異的に蓄積する分子機構を解明し、光線力学療法(腫瘍細胞を選択的に殺傷する)に展開する研究を行ってきた。我々は、チロシンキナーゼ阻害剤が、ABCトランスポーターABC G2に作用して、プロトポルフィリンIXの癌細胞外への輸送を阻害する事を突き止めた。光線力学診断および光線力学治療は機能温存を考慮に入れた侵襲の少ない治療である。よって、その効率の向上をめざして、QSAR解析に基づいてABC G2選択的な阻害剤の分子デザインを行っている。

Ishikawa T. et al. *Pharmaceutics* 3, 615-635, 2011.

医学物理研究に対する立教大学の取り組み


 立教大学
理学研究科博士課程(後期)
玉木 聖一 大学院生

現在、立教大学では国立がん研究センター東病院、聖路加国際病院、順天堂大学と連携大学院協定を結んでおり、現場研修を順天堂、聖路加にて、陽子線治療の研究を東病院、光子線治療の研究を聖路加にて行っている。

放射線治療の流れは陽子線、光子線共に治療計画用CT、治療計画、計画検証、照射の順で行われるが、立教ではこの中で治療計画、計画検証、照射に関わる研究に携わっている。治療計画では計算速度が早く、精度の良いPencil Beam Algorithmを用いた陽子線治療計画装置の開発、計画検証では時間変化を測定可能な3次元線量分布の測定器の開発、照射では照射中にリアルタイムで患者体内での線量分布を測定可能なOnline PETやCompton Cameraの開発を行っている。立教ではこれらを通して放射線がん治療の発展に貢献する。

1-3 鳥取大学・島根大学がんプロシンポジウム『がん医療における地域貢献とは』

■概要

(1) 名称

鳥取大学・島根大学がんプロシンポジウム「がん医療における地域貢献とは」

(2) 日時、場所、対象

開催日時：平成24年12月13日（木）14:00～17:00

開催場所：鳥取大学医学部附属病院 がんセンター（TV会議にて連携大学接続）

参加対象：医師・看護師・コメディカル

(3) 参加者の概要

参加者数：28名（鳥取大学会場内出席者）

(4) 主催

鳥取大学・島根大学



■資料

・チラシ

平成24年度 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
「ICT と人で繋ぐがん医療維新プラン」
鳥取大学・島根大学がんプロシンポジウム

テーマ「がん医療における地域貢献とは」

日時：平成24年12月13日（木）16時15分～18時30分

場所：鳥取大学医学部附属病院がんセンター キャンサーボード

1. 開会（進行：紀川教授）

2. 豊島 良太 鳥取大学医学部長あいさつ

3. 基調講演

「山陰のがん医療に関わるコメディカル育成」

鳥取大学医学部病態検査学講座

教授 廣岡 保明 先生

「島根県地域医療の現状とがん専門医育成」

島根大学医学部呼吸器・臨床腫瘍学講座

教授 磯部 威 先生

「広域医療圏におけるがん医療均てん化の
アプローチと展望」

岩手医科大学外科学講座

講師 柏葉 匡寛 先生

4. 総合討論（進行：磯部教授）

5. 閉会の辞

井藤 久雄 鳥取大学副学長

主催：がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
鳥取大学医学部附属病院がんセンター

1-4 順天堂大学市民公開シンポジウム『対話学・対話カフェの重要性』

■概要

(1) 名称

市民公開シンポジウム「対話学・対話カフェの重要性」

(2) 日時、場所、対象

開催日時：平成25年3月11日（月）13:00～15:30

開催場所：順天堂大学10号館1階105カンファレンスルーム

参加対象：一般の方（自由参加、入場無料）

(3) 特別講演者

NPO法人グループ・ネクサス 理事長 天野 慎介

TBSテレビ報道局 解説委員 小嶋 修一

(4) 参加者の概要

参加者数：55名

(5) 主催

順天堂大学



■資料

・ポスター

平成24年度文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン採択事業

市民公開シンポジウム

対話学・対話カフェの重要性

趣旨

「がん対策推進基本計画」の全体目標の中に、「がん患者の多くは、がん性疼痛や、治療に伴う副作用・合併症等の身体的苦痛だけでなく、がんと診断された時から不安や抑うつ等の精神心理的苦痛を抱えている。また、その家族も、がん患者と同様に様々な苦痛を抱えている。がん医療や支援の更なる充実等により、「全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上」を実現することを目標とする。」とある。「医療者が情報提供のみを行い、患者の自己決定を促す」ことが「患者を尊重すること」ではないことにも、国民は気が付き始めている。「古き歴史と日新の科学」を踏まえて、次世代の新しい精神性として改めて問い直す時代到来である。人間の尊厳に徹した医学・医療の在り方を考え、「潜在的な需要の発掘」と「問題の設定」を提示し、「新鮮なインパクト」を与えることが「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」の使命であろう。

その観点から、市民公開シンポ「対話学・対話カフェ」を企画することにした。

開会の挨拶	順天堂大学 学長 木南 英紀
謝辞	文部科学省高等教育局医学教育課長 村田 善則
題詞	「がん医療に、期待するもの、求められるもの」 「がん患者の精神的、社会的な痛み軽減に向けて」 NPO法人グループ・ネクサス 理事長 天野 慎介 「サバイバーが見た、がん治療の“その先”」 TBSテレビ報道局 解説委員 小嶋 修一
司会	順天堂大学 病理・腫瘍学講座 教授 樋野 興夫
休憩	
パネルディスカッション	「原則を身につけた研究者・医療人の育成」 「医療崩壊に大学から立ち向かう：一乳癌専門医からの提案」 順天堂大学 乳腺・内分泌外科学研究室 教授 齊藤 光江 「がん患者への更なる貢献—研究者とのコラボで薬剤師の専門性を追及—」 東京理科大学 薬学部 医療安全学研究室 教授 小茂田 昌代 「臨床研究から生まれる患者中心の医療：協調と連携」 岩手医科大学 産婦人科学講座 教授 杉山 徹 「地域に求められる患者中心のがん医療と外来力（りき）」 島根大学 内科学講座（呼吸器・臨床腫瘍学） 教授 磯部 威
議長	順天堂大学 呼吸器内科学講座 教授 高橋 和久
閉会の挨拶	順天堂大学大学院 医学研究科長 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事業推進責任者 新井 一

日時 2013年3月11日(月) 13:00～15:30

場所 順天堂大学 本郷キャンパス
10号館1階105カンファレンスルーム
JR線、地下鉄丸ノ内線「御茶ノ水」駅下車 徒歩約5分

主催：順天堂大学 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事務局

2. ワークショップ

2-1 連携7大学FD研修会 in 岩手 『がん医療維新プラン・共通教育科目のカリキュラムプランニング』

■概要

(1) 名称

がんプロFDワークショップ「がん医療維新プラン・共通教育科目のカリキュラムプランニング」

(2) 日時、場所、対象

開催日時：平成24年9月8日（土）12:00～9月9日（日）
開催場所：ホテル安比グランド（〒028-7396 岩手県八幡平市安比高原）
参加対象：本プログラム及び講義に関わっている教員

(3) 参加者の概要

参加者数：39名

(4) 主催

岩手医科大学



■資料

・ポスター

平成24年度がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

がんプロFDワークショップ

平成24年 9月8日[土]・9日[日]

「がん医療維新プラン・共通教育科目のカリキュラムプランニング」

■目的 我々の推進する「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン」」の成功は、地域と首都圏の連携あるいは医業理工連携をいかに効率的に、かつ効果的に達成するかにかかっている。本FDでは各大学で目指すプランを発表していただき、7大学で連携推進できる共通教育科目に関して、ワークショップ形式で討議し、本プログラムで目指す人材育成の基盤を形とし、運用方針・方略を具体的に策定する。

■日時 平成24年9月8日(土)12時から・平成24年9月9日(日)

■場所 ホテル安比グランド(〒028-7396 岩手県八幡平市安比高原 TEL:0195-73-5011)
※当日は盛岡駅～ホテル安比グランド間のバスをご用意いたします。運行時刻については追って連絡いたします。

■内容 グループワーク、基調講演、他

■対象者 本プログラム及び講義に携わっている教員

ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン

— “絆”の構築 —

人の循環とICTによる人材ネットワークの整備

順天堂大学 東京理科大学 明治薬科大学 立教大学

先導的がん医療の開発研究拠点(理工・薬学連携)

鳥根大学 鳥取大学 岩手医科大学

「がん医療イノベーション」
岩手がん医療コンソーシアム

安比高原

問い合わせ先

岩手医科大学 医学部教務課 がんプロ担当(渡辺)
〒020-8505 岩手県盛岡市内丸19-1
TEL:019-651-5111(大代) 内線 3221、3223 FAX:019-651-8055
Email:ikyomu@j.iwate-med.ac.jp

【主催】

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン(ICTと人で繋ぐがん医療推進プラン)
順天堂大学・鳥根大学・鳥取大学・岩手医科大学・東京理科大学・明治薬科大学・立教大学

[岩手山]

・スケジュール

平成24年度がんプロFDワークショップ
「カリキュラムプランニング」

平成24年度がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
がんプロFDワークショップ
「がん医療維新プラン・共通教育科目のカリキュラムプランニング」
タイムスケジュール

1. 日時：平成24年9月8日（土）12：00～
平成24年9月9日（日）～11：30
2. 場所：ホテル安比グランド本館1F 竜ヶ森ホール

《1日目—9/8（土）》

時間	内容	場所
12：00～13：00	<p>【ランチミーティング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 挨拶 岩手医科大学医学部長 小林 誠一郎 氏 ◆ FD主催校挨拶 岩手医科大学解剖学講座・人体発生学分野 教授 人見 次郎 氏 ◆ 事務連絡 <p style="text-align: right;">※お弁当をご用意しております。</p>	竜ヶ森ホール
13：00～13：45	<p>【基調講演】</p> <p>「がんプロ共通カリキュラムの構築 —ICT と人の循環の実質化を目指して—」</p> <p>演者：順天堂大学大学院医学研究科呼吸器内科学 総括コーディネーター 高橋 和久 氏</p> <p>座長：岩手医科大学解剖学講座・人体発生学分野 教授 人見 次郎 氏</p>	竜ヶ森ホール
13：45～14：00	休憩（15分）	竜ヶ森ホール
14：00～18：30	<p>連携大学におけるコース概要の説明（60分：10分×6大学）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 順天堂大学（ ） 2. 島根大学（医学部内科学講座（呼吸器・臨床腫瘍学）教授 磯部威 氏） 3. 鳥取大学（医学部附属病院がんセンター 助教 大山 賢治 氏） 4. 岩手医科大学（外科学講座 講師 木村 祐輔 氏） 5. 明治薬科大学（副学長 薬物治療学 教授 越前 宏俊 氏） 6. 立教大学（理学研究科物理学科専攻 教授 栗田 和好 氏） <p>質疑応答・総合討論（30分）</p> <p>休憩（15分）</p> <p>グループワーク（GW：45分）</p> <p>FDレクチャー（60分）</p> <p>「イノベーションを促進するリーダーシップスキル I-Lab」</p> <p>演者：株式会社 ビジネスコンサルタント 大崎 桂子 氏</p> <p>座長：順天堂大学乳腺内分泌外科 教授 齋藤 光江 氏（予定）</p>	竜ヶ森ホール

平成24年度がんプロFDワークショップ
「カリキュラムプランニング」

《1日目—9/8(土)》

時間	内容	場所
14:00~18:30	休憩(15分)	竜ヶ森ホール
	グループワーク(GW:45分)	
18:30~19:00	休憩・移動	
19:00~	夕食・懇親会(情報交換会)	

《2日目—9/9(日)》

時間	内容	場所
7:30~8:30	朝食	和:七時雨 洋:アルベルク ※個々に選択
8:30~9:30	荷物整理、チェックアウト、移動(会場へ)	
9:30~11:00	【発表】各グループ(60分 15分×4班) 【総合討論・総括】(30分) 司会:岩手医科大学医歯薬総合研究所 腫瘍生物学研究部門 教授 前沢 千早 氏	竜ヶ森ホール
11:00~11:30	【閉会】 ◆挨拶(総括含む) ◆ポストアンケート記入、提出 ◆写真撮影	竜ヶ森ホール
12:15	終了:バスで盛岡駅へ	
13:05	解散(盛岡駅)	盛岡駅

※朝食会場(本館2F) 和食:七時雨、洋食:テラスレストランアルベルク

・班分け表

平成24年度がんプロFDワークショップ
「カリキュラムプランニング」

平成24年度がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
がんプロFDワークショップグループワーク（GW）班分け表

日時 平成9月8日（土）～9日（日）

【A班】			【B班】		
所属	職名	氏名	所属	職名	氏名
順天堂大学	教授・統括 コーディネーター	高橋 和久	順天堂大学	教授	樋野 興夫
順天堂大学	ポストドクター	嶋田 奈緒子	島根大学	講師	須谷 顕尚
島根大学	助教	津端 由佳里	岩手医科大学	教授	人見 次郎
鳥取大学	助教	大山 賢治	岩手医科大学	准教授	千葉 俊美
岩手医科大学	准教授	伊藤 薫樹	岩手医科大学	准教授	竹内 聡
岩手医科大学	講師	木村 祐輔	岩手医科大学	准教授	工藤 賢三
岩手医科大学	教授	那谷 耕司	立教大学	教授	栗田 和好
明治薬科大学	副科長、教授	庄司 優			
【C班】			【D班】		
所属	職名	氏名	所属	職名	氏名
順天堂大学	ポストドクター	譚 河	順天堂大学	教授	齋藤 光江
島根大学	教授	磯部 威	順天堂大学	准教授	松岡 淨
岩手医科大学	教授	杉山 徹	岩手医科大学	教授	前沢 千早
岩手医科大学	教授	有賀 久哲	岩手医科大学	主任薬剤師	佐藤 淳也
岩手医科大学	講師	柏葉 匡寛	岩手医科大学	主任薬剤師	米澤 裕司
岩手医科大学	教授	小澤 正吾	明治薬科大学	副学長、教授	越前 宏俊
岩手医科大学	薬剤師	森 恵	立教大学	大学院生	玉木 聖一
立教大学	客員教授	西尾 禎治			

・ A班発表資料

がんプロFDワークショップ グループワークA班

ミッション：様々な状況下においてがんチーム医療が実践できる医療人の育成

ビジョン：多くの職業が関わるがん診療において必要とされる異業種間のコミュニケーションを構築し、リーダーシップを発揮できる。

そのために各大学の特徴を明らかにする (何が強いで、何が弱いか、何を重しにしているか)

明治薬科大学：
専門薬剤師、研究のできる薬剤師を育成する。
薬物動態に詳しい。
臨床施設を維持していない。

岩手医科大学：
3学部連携ができる。(医・歯・薬)
地域医療の現場がある。
医学物理士がいらない。

島根大学：
テレビ会議システムを用いた連携の経験が豊富である。
患者特性として高齢者が多い。
臨床現場において様々である。
「e-Learningが得意」(CME、e-Learningなど)
がんプロに対する各診療科の温度差が大きい。
緩和ケアもや面白い。

鳥取大学：
ネットワーク構築はある程度完成している。
患者数が少ない。
すべての専門科に専門医がいるわけではない。
(特に血液内科が少ない。)

順天堂大学：
首都圏にある。
患者数が多いので、症例を集めることが可能。
臨床試験の際に有用。
放送大学のノウハウがある。
理化学研究所、がんセンターなどとの連携が円やすい。
患者層が偏っている？高齢者が少ない。
—高齢者対象の臨床試験が少し難しい？
地域医療を学ぶチャンスが少ない。

何を探索したいか：ストラテジー

1. 人の循環をどうするか。(後述)
2. e-learningをどう利用するか。
全面的利用でなく、対話式座学の補佐として用いていったらどうか。
3. 共通カリキュラムのありかたをどうするか。
各大学から得意とする分野の講義を提供し、e-learningクラウドとして活用。
原則的に単位として認定。
(認定数は各大学による)

人の循環はどうするか？

- ・ 医師は物理に弱い。立教大学との連携に期待。
- ・ 薬に関与する人材を育成する。
薬学系連携。創業開発にかかわる部分の共通講義を期待したい。
- ・ 前臨床試験をどうするか—p1～p111遂行できる人材育成。
- ・ 医-薬連携、医-医連携での共同研究の推進。

人の循環 (教員を廻す場合)

- ・ 教員を派遣する目的を明確にしないといけない。(e-learningではできないこと、など)
- ・ どこにどんな人材がいるかを把握したい

利点：教員の移動に対してはがんプロから交通費も出る。
利便式の研修ならそれは強みがある。

問題点：各自自体の忙しさと、講義のスケジュール調整が難しい。
物理系、薬学系の需要が高いので、移動が大変かも。

人の循環 (大学院生を廻す場合)

- ・ 場所を移動して学ぶ目的を明確にしなければならない
- ・ 研究と地域医療の二本立てとし。選択必修。

利点：地方へ行く学生さんは、地域医療を学べる。
首都圏に行く学生さんは、首都圏の特性を学べる

問題点：経済的問題 (学生の移動にはお金が支給されない)。
大学院生が医師のメンバーとして重用されていて、実際の出張の時間がとれない。

・B班発表資料

平成24年度がんプロFDワーク
ショップ

テーマ(B班)
臨床研究試験チームの人材育成をどのように構築するか

- ・ビジョン
 - グローバルな臨床試験が可能なチームの育成
- ・ストラテジー
 - 多職種(医師、薬剤師、看護師、医学物理士、生物統計士)における専門性の確保
 - e-learning+循環型による育成
 - 評価

テーマ(B班)
臨床試験研究チームの人材育成をどのように構築するか

- ・ 専門性の確保:認定施設
- ・ 専門職を養成のためのプログラムの作成
 - がん専門薬剤師
 - ・ 日本医療委員会所属、認定施設2年所属、50症例担当、筆記試験など
 - がん専門医師
 - ・ 各学会専門医、日本臨床腫瘍学会所属、創検、症例報告、倫理教育プログラムなど
 - がん専門看護師
 - ・ リサーチナースの機能として必要(CRC-DM)、認定看護師の育成
 - 医学物理士
 - ・ 日本医学物理士学会認定試験(e-learningで可能)、
 - 生物統計士
- ・ e-learningによる育成
- ・ 循環型による育成
 - 症例確保のため
- ・ 評価

テーマ(B班)
臨床試験研究チームの人材育成をどのように構築するか

- ・ e-learningは
 - 利点
 - ・ 専門性を高めるための知識の習得に有用
 - ・ 知識をつけるのには適している
 - ・ 理解できていない箇所を見つけるツールに有用
 - ・ 効率上がる
 - ・ ステップアップのための試験
 - ・ 各項目で確認試験を行う
 - 10分程度で試験を繰り返す
 - 欠点
 - ・ 自習には適しているが応用力をつけるのはいかが
 - ・ 理解を深めるためには対話が必要である
 - ・ 疑問点を解決できない
 - ・ 完璧に身につくものではない
 - ・ 科目ごとの更新を要する(バージョンアップ)

テーマ(B班)
臨床試験研究チームの人材育成をどのように構築するか

- ・ e-learningによる育成(大学院の単位)

必要と考える

- 従来のon demand式ではないactive e-learningを構築する
- 作成チームが必要
- メンテナンスを要する

テーマ(B班)
臨床試験研究チームの人材育成をどのように構築するか

- ・ e-learningの教材
 - テキスト作成は必要(項目のみでも可)
 - 学生が作成?(たとえば物理士の分野は物理士が作成など)
 - 外部に作成依頼するか?
 - 千歳科学技術大学のe-learningが参考になる(数学、物理など)
 - 筑波大学のe-learningの活用
 - チーム医療などの教材の作成
 - モチベーションを上げる内容作成を

テーマ(B班)

臨床試験研究チームの人材育成をどのように構築するか

- e-learningのコース
 - ベーシックコースとインテンシブコースに分ける
 - ベーシック:全員対象(必修):2年程度
 - 目標:
 - » 薬物療法専門医の知識の獲得
 - » 前段階の知識(医学部以外の卒業生を対象)
 - 内容:
 - » 研究チームに必要な知識
 - » チームにおける創造性の内容など
 - » 知識の底上げを図る
 - 専門によるコース作成
 - すべての専門職が言葉の定義を理解できる
 - » 略語の理解など
 - インテンシブ:より専門性を高める(項目の選択)
 - e-learning+循環型

テーマ(B班)

臨床試験研究チームの人材育成をどのように構築するか

- 循環型による育成
 - インテンシブコース、e-learning+循環型
 - 循環型
 - 研究
 - » 地域医療
 - » がん治療の底上げ
 - 学生
 - » 研修プログラムを作成し応用力(深い"気づき"を得ること)に還元することを目標とする
 - » ICT開催に先立って研修(含宿)を開催する
 - アカデミックアドバイザーの設置
 - e-learning
 - 含宿研修
 - 症例確保のため

テーマ(B班)

臨床試験研究チームの人材育成をどのように構築するか

- 評価
 - 学生の技量を評価
 - 評価をするための合宿
 - 自己評価
 - 他者評価

討議内容1

- 職種について
 - 国際的人材育成
 - 薬物療法に対する人材育成
 - プロトコール作成
 - 医学物理士の役割
 - 臨床との関わり
 - 学会認定
 - 機器のquality
 - 臨床放射線技師との関係
 - 生物統計
 - 臨床試験のプロトコール作成に要する

討議内容2

- 共通プログラム構築
 - 循環型の人材交流が可能となる
 - 臨床研究導入に対するモチベーションの向上につながる
 - 地方でのみ可能なことはあるか
 - 均てん化をめざす
 - 臨床試験へのサポート
 - e-learning
 - 物理は学ぶことができるか?
 - 実験は人材交流を要する
 - 拠点病院のありかた
 - 講義のDVD化
 - 夏休みなどを利用した集中講義

討議内容3

- 人材育成

・C班発表資料

共通プログラム

Key words: 多職種、コミュニケーション

- 大学の基本腫瘍学の講義で医師以外の職種に共有すべき知識を提供(専門職種からの基本的知識の座学→さらに今後の発展性あるビジョンの提供)
- 多職種への臨床試験の実現・場の提供→創薬や新規の医療機器開発への発展
- 大学、多職種の連携から生まれるSeedを発掘する
- 多職種で生きるコミュニケーション能力の習得

循環型医療人育成

- それぞれの専門性の高い施設に学生が移動する方式を基本
- 指導者も循環することも考慮

しかし中央集中が懸念される

- 地方のメリットの発掘
 - 地域医療、震災復興の経験
 - 小さな医療チームによるリーダーシップの具体化・経験
 - 島根・鳥取・岩手間での地域医療の質、背景の違いの理解
 - 首都圏から地域、地域から首都圏へ

e-Learningについて

Pros.

- 筑波のシステムは既存のもので最良?
- 施設間の距離を埋める為には必須

Cons.

- 理解度の評価方法が不明瞭だった
- 単位習得に関してルールが必要

→賛成(単位習得も)！
さらにプランにあった新規の講義を追加

C班の提案する新規共通カリキュラム

- 科目: 多職種コミュニケーションによるがん治療
- 人材育成の基本目的: 大学の基本腫瘍学の講義で他職種間、専門領域が異なる医師、メディカルスタッフが共有すべき知識を提供し、チーム医療としてのトランスレーショナルリサーチや臨床試験を企画、推進するための知識・技能・態度を習得する。
- 授業内容
 - E-Learning: 10コマ作成: 1単位90分1コマ
 - 双方向性TV講義(患者、企業、PMDAを含む): 年1回、計4コマ
 - 多職種コミュニケーション総括合宿(2泊3日): 最終年度必須2コマ

e-Learning総論

多職種コミュニケーション: 1コマ

- 目的
- コミュニケーションスキル
- リーダーシップ
- メンタリング・チュータリング
- コンフリクトマネジメント

e-Learning各論

1. がん薬物療法概論
2. 腫瘍外科学概論
3. 放射線腫瘍学・放射線物理概論
4. 臨床試験総論
5. がん医療個別化・標的治療
6. 支持療法・緩和医療・精神腫瘍学
7. がん看護
8. がん治療と薬剤師
9. 生物統計

双方向性TV講義

1. 病診薬連携と地域医療
2. がん医療コーディネーター・MSW
3. 患者が求めるがん医療(がんサバイバー)
4. 新薬、機器開発(企業、PMDA)

多職種コミュニケーション総括合宿

- 2泊3日
- 開催場所: 地方!
- 時期: 最終年度9-11月
- 内容: ①e-Learningの復習(座学)
- ②がんサバイバー(参加型)
- ③集学的医療の診療の作成ワークショップ
- ④発表と相互評価
- ⑤修了証授与

e-Learning具体化のための方策

- 初年度は講師がコンテンツ作成のための国内外研修
- WGでコンテンツの審査、統一感のあるカリキュラムの確立
- 受講者の習得度は「多職種コミュニケーション総括合宿」と評価のための学習支援法の検討
- 最終的には「がん治療認定医」「がん専門薬剤師」「認定看護師」「医学物理士」等、各機構への単位申請

・D 班発表資料



テーマ「人を循環する」

- ・ VISION
 - 個の力をチームになることで相乗し、高品質多施設多職種共同研究 (TR) で、次世代の医療をGlobalに提案する

目的と前提条件

- ・ 互いの業績公開・自己紹介で、互いの resource を十分知る！
- ・ 研究と地域医療の向上

医学物理士

- ・ 大学院生
 - 基礎医学教育：解剖学(ヒトの身体を知る)を充実
 - 医療機関での研修(1~2回/週で病院へ)の推進
 - 就職先の開拓：がんプロ参加施設から全国へ
 - ・ 大学病院から地域医療(県立)基幹病院へ、施設を固定せずに循環する形態も可能では？
 - ・ がんプロで人材プール制度を作っては？
 - ・ 本人のキャリアパスと合致するか？
- ・ 学部生
 - 医学物理士への招待？情報提供

統計関連の専門家育成

- ・ 生物統計家(少数)とデータ管理者(多数、背景不同)の育成
 - 学部学生も対象として
 - E-ラーニング、OJB
 - 統計センターの設立が必要
- ・ 教育システムと資料は連携大学で共有 [順天→から他大学]
 - プロトコル様型、諸テンプレート[例: 剖付手順書、フォーム]、マニュアル、トレーニング教材[e-training教材作成は簡単でない]
 - 教育：集中講義[1日~1週間]、e-training
 - コンサル：デザイン/例数設計/解析方法を[メールによるコンサル+ Face-to-face Meeting]で解決
- ・ 解析をどうするか？
 - プログラミング[場合によってはバリデーションも必要]→外注するのが良いがカネがかかる

医師

- ・ 学部学生
 - 医・歯・薬・福の合同教育セッション：自塾授業
 - ・ 若手医大1年次に実施
 - ・ 地域的に近いところで実施
 - 将来的には他(理工)学部との合同セッションも
 - ・ E-learningを前提として最終学年にTRなど
- ・ 大学院生
 - 循環型短期見学、長期の交換留学も
 - ・ 人材のプール制とお見合い、医局にとらわれない
 - 社会人大学院の受け入れ
 - ・ 魅力的なプログラムの公開
- ・ 教員
 - 交換講義→教員・若手の
 - ・ 例：杏理大学→順天堂乳癌外来へ
 - 長期：サバティカル？(制度として作れるか？)
 - ・ 例：齊藤、梅葉両先生がMDアンダーソンへ2か月留学の例あり

看護師

- がん専門看護師研修可能施設・大学が受け入れへ
 - 例: 順天堂大学(3名)、岩手(3名)
- 教員として配置を目指す
 - 島根・鳥取大学へ広げる

薬剤師

- 大学薬学部での教育
 - 臨床系: 社会人大学院生の教育プログラム開発と共有
 - ICTを利用した座学リソースの共有
 - 実習: がん専門薬剤師研修認定施設で3か月(人材循環)
 - 例: 順天堂から鳥取大学、岩手医大へ
 - 研究指導体制: 大学の受け入れを進める
 - チーム医療の学び: 例 順天堂での明薬大学院生
 - 研究系
 - 臨床との共同した創薬研究の推進
 - 臨床のニーズを研究者に提示する会(連活、研活)
 - 薬学部 順天堂大学と理科大など

誰を? 期間は?

- 多職種
 - 教員
 - 若手(院生、若手スタッフ)
- 具体的には、
 - 統計家 連携大学で共有する; 松岡先生らが飛び回る!
 - 医学物理士: 立教大学から関連大学で研修、全国放出、
 - 薬剤師: がん専門薬剤師研修可能大学へ
 - (例: 順天堂大→鳥取大学、岩手医大)
 - 看護師: がん専門看護師研修可能大学へ
 - (例: 皆さん順天堂大学へ!)
 - 医師: まずは教員の交換講義→教員・若手の短期見学
 - 次に長期の交換留学も(教員・若手)
 - (例: 島根大学から順天堂乳腺外来へ)

2-2 チーム研究合宿

■概要

(1) 名称

チーム研究合宿「多施設・多職種チームで研究プロトコルを作成し、実践しよう！」

(2) 日時、場所、対象

開催日時：平成25年3月2日（土）12:00～ 3月3日（日）
 開催場所：晴海グランドホテル（〒104-0053 東京都中央区晴海3-8-1）
 参加対象：大学院生

(3) 参加者の概要

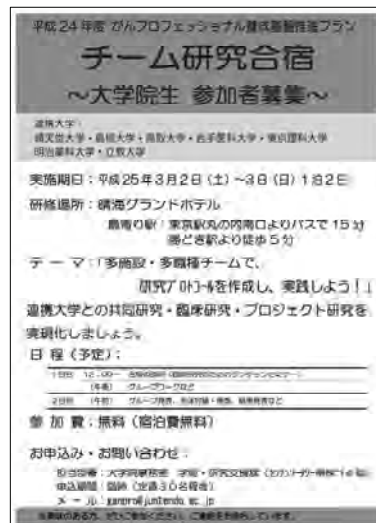
参加者数：65名

(4) 主催

順天堂大学

(5) 参加大学

順天堂大学、島根大学、鳥取大学、岩手医科大学、東京理科大学、明治薬科大学、立教大学



・スケジュール

3月2日 タイムスケジュール

開始	終了	時間	タイトル	所属	役職	氏名	会場	
12:00	12:05	5分	開会挨拶	順天堂大学 呼吸器内科学	教授	高橋 和久	アネックス A会場	
〈座学〉 12:05 ~ 13:15 (昼食を食べながら)								
12:05	12:25	20分	〈座学〉 臨床試験とは	順天堂大学 臨床研究センター	客員准教授	米本 直裕	アネックス A会場	
12:25	12:45	20分	〈座学〉 統計	大阪大学医学部 附属病院 未来医療開発部	特任講師	山本 紘司		
12:45	13:05	20分	〈座学〉 倫理	順天堂大学 臨床研究センター	准教授	松岡 淨		
13:05	13:15	10分	〈座学〉 グループワークの進め方	順天堂大学 乳腺・内分泌外科学	教授	齊藤 光江		
〈実習〉 13:15 ~ 18:30								
13:15	13:45	30分	〈実習〉 チームビルディング	株式会社ビジネス コンサルタント	講師	大崎 桂子	アネックス A会場	
13:45	13:50	5分	移動・トイレ休憩	—	—	—	実習会場 1班：401 2班：434 3班：418 4班：419 チュータ： ローズ	
13:50	14:20	30分	〈実習〉 各グループに分かれて自己紹介 と関心のある研究テーマ(宿題) の発表	—	—	—		
14:20	18:30	240分	〈実習〉 グループワーク① *教員は16時と18時にチュー ター会議20分づつ	—	—	—		
18:30	19:30	60分	夕食					
		10分	グループワークでの生物統計学 者の役割	順天堂大学 臨床研究センター	生物統計家	米本 直裕	2階 シルバー	
		10分	グループワークでの看護師の 役割	順天堂医院 看護部 業務課	保健師	中野 真理子		
		10分	臨床研究プロトコル作成に おける薬剤師の役割	明治薬科大学	副学長	越前 宏俊		
		10分	薬学研究者の役割～薬学研究の 臨床応用に向けて～	東京理科大学薬学部 TR 部門長	教授	深井 文雄		
		10分	グループワークでの医師・医学 物理士・メディカルスタッフの 役割	順天堂大学 乳腺・内分泌外科学	教授	齊藤 光江		
〈実習〉 19:30 ~ 21:30								
19:30	21:30	120分	〈実習〉 グループワーク② *教員は21時にチューター会 議20分	—	—	—	実習会場	

3月3日 タイムスケジュール

9:00	11:00	120分	〈発表会〉30分×4グループ	順天堂大学 乳腺・内分泌外科学	教授	齊藤 光江	2階ゴールド
11:00	11:30	30分	〈感想と討論会〉 *教員は審査会				
11:30	12:00	30分	結果発表・修了式・記念撮影・ 閉会の辞	順天堂大学 分子病理病態学	教授	樋野 興夫	

・グループ班分け表

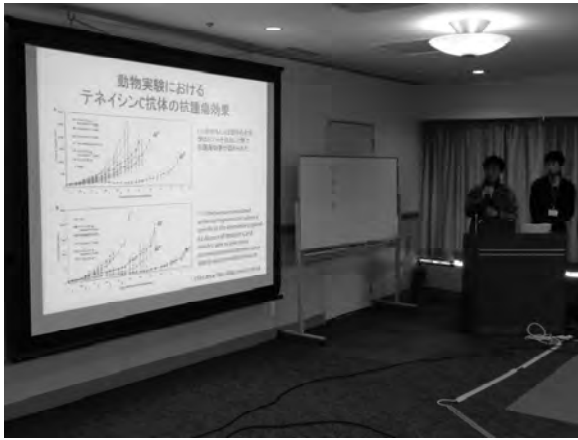
大学名	氏名	所属
1	順天堂	魚森 俊喬 乳腺・内分泌外科学
		猪狩 史江 乳腺・内分泌外科学
		橋本 夕美 公衆衛生学
	岩手	川岸 涼子 臨床腫瘍学(外科腫瘍学)
	東理	杉山 奈津子 薬学
		奥山 慎 薬学
		三枝 祐輔 理工学研究科 情報科学専攻
明治	赤津 ちづる 薬効学教室	

大学名	氏名	所属
2	順天堂	倉田 麻美 乳腺・内分泌外科学
		宿谷 威仁 呼吸器内科学
		譚 珂 分子病理病態学
	島根	津端 由佳里 内科学講座(呼吸器・臨床腫瘍学)
	岩手	朝賀 純一 薬剤部
	東理	軽部 皓充 薬学
		猪又 和樹 情報科学
明治	繰生 京子 大学院臨床薬学専攻博士課程(後期)	

大学名	氏名	所属
3	順天堂	芝 恵美子 小児思春期発達・病態学
		櫻井 弘子 血液内科学
	岩手	菅原 教史 臨床腫瘍学(血液臨床腫瘍学)
	東理	亀山 あずさ 薬学
		野原 佑介 薬学
		水沼 太郎 薬学
		小寺 優輝 情報科学
		中根 弘貴 情報科学
明治	櫛部 洋 薬学	

大学名	氏名	所属
4	順天堂	嶋田 奈緒子 呼吸器内科学
	島根	木庭 尚哉 医学部附属病院 (呼吸器・化学療法内科)
		岩手
	東理	二瓶 哲 薬剤部
		金 永進 薬学
		長縄 真学 情報科学
	立教	玉木 聖一 理学研究科物理学専攻博士課程後期
		伴 啓佑 理学研究科物理学専攻博士課程前期





・発表の様子



3. 各大学企画講座・連携企画講座

3-1 順天堂大学 大学院特別講義

■概要

(1) 名称

『The evolution of radiation therapy for the management of lymphomas』

(2) 日時、場所、対象

開催日時：平成24年10月22日（月）18:30～19:30

開催場所：順天堂大学 本郷キャンパス 11号館（センチュリータワー）403教室

参加対象：大学院生、一般教職員

(3) 演者、座長

演者：Stanford 大学 Richard Hoppe 教授

座長：順天堂大学大学院 医学研究科 放射線治療学 笹井 啓資 教授

■資料

・ポスター

平成24年度 順天堂大学大学院特別講義
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

**The evolution of radiation
therapy for the management
of lymphomas**

講演者：Richard Hoppe
(Stanford 大学 教授)

司会：笹井 啓資
(順天堂大学大学院医学研究科 放射線治療学 教授)

日時：2012年10月22日（月）18:30～19:30

会場：順天堂大学 本郷キャンパス
11号館(Century tower) 北4階 403教室
(エレベーターDで4階までお越し下さい)

問い合わせ先：順天堂大学 学術・研究支援課
TEL: 03-5802-1020



3-2 順天堂大学 大学院特別講義

■概要

(1) 名称

『Video-assisted Mediastinal Lymphadenectomy』 『Female Surgeons in Germany』

(2) 日時、場所、対象

開催日時：平成24年12月4日（火）19:00～20:00

開催場所：順天堂大学 本郷キャンパス 11号館（センチュリータワー）306教室

参加対象：大学院生、一般教職員

(3) 演者、座長

演者：Past-President of the European Society of Thoracic Surgeons (ESTS)

ELK Berlin Chest Hospital Gunda Leschber 教授

座長：順天堂大学大学院 医学研究科 呼吸器外科学 鈴木 健司 教授

■資料

- ・ポスター

平成24年度 順天堂大学大学院特別講義
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

➤ Video-assisted Mediastinal Lymphadenectomy
➤ Female Surgeons in Germany

講演者：Professor Gunda Leschber
Past-President of the European Society of Thoracic Surgeons (ESTS)
ELK Berlin Chest Hospital

司会：鈴木健司
(順天堂大学大学院医学研究科 呼吸器外科学 教授)

日時：2012年12月4日（火）19:00～20:00
会場：順天堂大学 本郷キャンパス
11号館(Century tower) 北3階 306教室
(エレベーターDで3階までお越し下さい)

問い合わせ先：順天堂大学 学術・研究支援課
TEL: 03-5802-1020



3-3 順天堂大学 国際シンポジウム『先導的国際がん研究の動向』

■概要

(1) 名称

国際シンポジウム「先導的国際がん研究の動向」

(2) 日時、場所、対象

開催日時：平成25年2月28日（木）13:00～16:30

開催場所：順天堂大学11号館8階801教室

参加対象：大学院生、一般教職員

(3) 特別講演者

文部科学省 高等教育局 企画官 渡辺 真俊

Assistant director and head of department of pathology of National Cancer institute of Thailand
Dr.Anant Karalak

Deputy Director, Health Environment Management Agency, Ministry of Health of Vietnam
TRAN THI NGOC LAN,M.D.,Ph.D.

Professor, Department of Pathology, Yonsei University, Wonju College of Medicine
Soon-Hee Jung,M.D.,Ph.D.

The Head of Pulmonology Department,Pulmonologist,Consultant of Occupational Disease
Koesoemoprodjo Winariani,M.D.

環境省 総合環境政策局 環境保健部 企画課 石綿健康被害対策室長 神ノ田 昌博

(4) 参加者の概要

参加者数：70名

(5) 主催

順天堂大学



■資料

・抄録

平成24年度 文部科学省 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン採択事業
Promotion Plan for the Platform of Human Resource Development for Cancer

国際シンポジウム

「先導的国際がん研究の動向」

アスベスト暴露による中皮腫
～環境発がんのリスク予知と予防への新しい展開～
Mesothelioma due to asbestos exposure
～Innovative Approach for Risk Identification and Prevention of Environmental Carcinogenesis～

日 ↔ 英
同時通訳

2013年 2月28日(木) 13:00～16:30

主催 → 順天堂大学 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事務局

12:30	受付	プログラム
13:00~13:15	主催者挨拶 順天堂大学大学院 医学研究科長 新井 一 挨拶 厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 労働衛生課長 椎葉 茂樹	
13:15~15:05	がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン Promotion Plan for the Platform of Human Resource Development for Cancer in Japan Masatoshi Watanabe 文部科学省 高等教育局 企画官 渡辺 貞俊 (Vice-Director, Medical Education Division, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology・Japan) 座長 新井 一 (順天堂大学大学院 医学研究科長) タイの最新がん研究の動向 Situation of Mesothelioma and Asbestos product in Thailand Anant Karalak (Assistant director and head of department of pathology of National Cancer institute of Thailand) 座長 鈴木 健司 (順天堂大学 呼吸器外科学講座 教授) ベトナムの最新がん研究の動向 Assessment of asbestos related diseases in Vietnam TRAN THI NGOC LAN.M.D.,Ph.D. (Deputy Director, Health Environment Management Agency, Ministry of Health of Vietnam) 座長 高橋 謙 (産業医科大学 環境疫学 教授) 韓国の最新がん研究の動向 Assessment Pitfall of Malignant Mesothelioma for Compensation of Asbestos Health Damage Relief System in Korea Soon-Hee Jung,M.D.,Ph.D. (Professor, Department of Pathology, Yonsei University, Wonju College of Medicine) 座長 岡 輝明 (公立学校共済組合 関東中央病院 病理科 部長) インドネシアの最新がん研究の動向 Management of Asbestos Associated Mesothelioma: a clinical experiences in Indonesia Koesoemoprodjo Winariani,M.D. (The Head of Pulmonology Department, Pulmonologist, Consultant of Occupational Disease) 座長 高橋 和久 (順天堂大学 呼吸器内科学講座 教授)	
15:05~15:15	休憩	
15:15~16:25	「日本国内の最新がん研究の動向」 日本における中皮腫の発生率 ―中皮腫診断のための問題点― The incidence of mesothelioma in Japan・Problems for the diagnosis of mesothelioma・ Takumi Kishimoto,M.D.,Ph.D. (Vice Director of Okayama Rosai Hospital) 独立行政法人 労働者健康福祉機構 岡山労災病院 副院長 岸本 卓巳 座長 森本 茂夫 (順天堂大学大学院 免疫病・がん先端治療学講座 客員教授) 世界の石綿関連疾患に関する潜在的余命損失年数(PYLL) Potential Years Life Lost (PYLL) due to Asbestos-Related Diseases in the World Ken Takahashi,M.D.,MPH,Ph.D. (Professor, Chair of Environmental Epidemiology, University of Occup & Environ Health) 産業医科大学 環境疫学 教授 高橋 謙 座長 村山 武彦 (東京工業大学大学院 環境理工学創造専攻 教授) 中皮腫の早期診断と新規治療法の開発 ―大規模研究型検診― A large-scale research screening for early diagnosis of mesothelioma and new treatment Okio Hino,M.D.,Ph.D. (Professor, Department of Pathology and Oncology, Juntendo University School of Medicine) 順天堂大学 病理・腫瘍学講座 教授 樋野 興夫 座長 安達 修一 (相模女子大学大学院 栄養科学研究科長) 日本の石綿健康被害救済制度について Asbestos-Related Health Damage Relief System in Japan Masahiro Kaminota,M.D.,MPH,Ph.D. (Director, Office for Health Hazards caused by Asbestos, Ministry of the Environment, Government of Japan) 環境省 総合環境政策局 環境保健部 企画課 石綿健康被害対策室長 神ノ田 昌博 座長 岸本 卓巳 (独立行政法人 労働者健康福祉機構 岡山労災病院 副院長)	
16:25~16:30	閉会の挨拶 順天堂大学 学長 木南 英紀	

講演 第1部



がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

Masatoshi Watanabe 文部科学省 高等教育局 企画官 渡辺 真俊

座長

Hajime Arai (Juntendo University)
新井 一 (順天堂大学大学院 医学研究科長)

タイの最新がん研究の動向

Situation of Mesothelioma and Asbestos product in Thailand

NAME : Anant Karalak

**EDUCATION :** - Doctor of Medicine, Southwestern University, Philippines, 1981.
- Diplomate of Anatomic Pathology, Institute of Pathology, Ministry of Health, 1986.**LABORATORY VISIT :** 1995 Short Course Training in Immunohistochemistry Staining,
Flinders Medical Centre, Australia.**POSITION :** - Assistant Director in National Cancer Control Center, National Cancer Institute, Bangkok
- President, The Oncological (Cancer) Society of Thailand Under the Royal Patronage of Her Majesty the Queen.
- Head of Pathology Division, National Cancer Institute, Bangkok**PUBLICATIONS:**

- 2011 : Chinchai, T; Chansaenroj, J; Junyangdikul, P; Swangvaree, S; Karalak, A; Niruthisard, S; Poovorawan, Y. Comparison between Direct Sequencing and INNO-LiPA Methods for HPV Detection and Genotyping in Thai Women. Asian Pacific journal of cancer prevention : APJCP 2011;12(4):989-94.
- 2011 : Suthipintawong, C; Siriaunkgul, S; Tungsinmunkong, K; Pientong, C; Ekalaksananan, T; Karalak, A; Kleeekkaow, P; Vinyuvat, S; Triratanachai, S; Khunamornpong, S; Chongsuwanich, T. Human papilloma virus prevalence, genotype distribution, and pattern of infection in Thai women. Asian Pacific journal of cancer prevention : APJCP 2011;12(4):853-6.
- 2010 : Woradee Lurchachaiwong; Pairoj Junyangdikul; Wichai Termrungruangert; Sunchai Payungporn; Pichet Sampatanukul; Damrong Tresukosol; Somchai Niruthisard; Prasert Trivijitsilp; Anant Karalak; Sukumarn Swangvaree; et al. Whole-genome sequence analysis of human papillomavirus type 18 from infected Thai women. Intervirology 2010;53(3):161-6.
- 2009 : Pensri Saelee; Sopit Wongkham; Anucha Puapairoj; Narong Khuntikeo; Songsak Petmitr; Sunanta Chariyalertsak; Wutthi Sumethchotimaytha; Anant Karalak. Novel PNLIPR3 and DOCK8 gene expression and prognostic implications of DNA loss on chromosome 10q25.3 in hepatocellular carcinoma. Asian Pacific journal of cancer prevention : APJCP 2009;10(3):501-6.

座長

Kenji Suzuki (Juntendo University)
鈴木 健司 (順天堂大学 呼吸器外科学講座 教授)

ベトナムの最新がん研究の動向

Assessment of asbestos related diseases in Vietnam

NAME : TRAN THI NGOC LAN

**EDUCATION BACKGROUND :**

Medical Doctor	Epidemiology and Hygiene	Medical Institute of Epidemiology and Hygiene in Russia	1977-1983
Post graduate trainee	Occupational Hygiene and Diseases	Medical Institute of Epidemiology and Hygiene in Russia	1983-1985
Master of Medical Science	Preventive Medicine	Hanoi Medical University	1997-1999
PhD in medicine	Preventive Medicine	National Institute of Hygiene and Epidemiology	2001-2005
Associate Professor	Preventive Medicine	Hanoi Public Health School	2011

座長

Ken Takahashi (University of Occup & Environ Health)
高橋 謙 (産業医科大学 環境疫学 教授)



韓国の最新がん研究の動向

Assessment Pitfall of Malignant Mesothelioma for Compensation of Asbestos Health Damage Relief System in Korea

NAME : Soon-Hee Jung



EDUCATION :

1992.02 Ph.D. Graduate School of Medicine Yonsei University
1987.02 Master Degree, Graduate School of Medicine Yonsei University
1984.02 M.D. Medicine, Yonsei University Wonju College of Medicine

BRIEF AUTOBIOGRAPHY AND ACADEMIC ACHIEVEMENTS :

Professor, Department of Pathology, Wonju College of Medicine Yonsei University, Wonju, Korea (2002-Present)
Principal Investigator, Korea Malignant Mesothelioma Surveillance System (2000-2012)
Principal Investigator, Diagnostic guidelines of asbestos-related disease by environmental exposure in Korea (2012-2015)

ACADEMIC ACHIEVEMENTS :

Soon-Hee Jung, Hyoung Ryoul Kim, Sang-Baek Koh, Suk-Joong Yong, Myoung Ja Chung, Chang-Hun Lee, Joungho Han, Min-Seob Eom, Sung-Soo Oh. A decade of malignant mesothelioma surveillance in Korea. *Am J Indust Med* 2012; 55:869-875.
Soon-Hee Jung. Pathological Diagnosis of Malignant Mesothelioma. *J Korean Med Assoc* 2009;52:456-464
Hyoung Ryoul Kim, Yeon-Soon Ahn, Soon-Hee Jung. Epidemiologic Characteristics of Malignant Mesothelioma in Korea. *J Korean Med Assoc* 2009; 52:449-455.
Soon-Hee Jung, Bihong Zhao, Li Mao, Jae Y Ro. Molecular Pathology of Squamous Cell carcinoma and Its precursors. *Molecular Pathology of Lung Diseases*. 2008 Springer Science

座長

Teruaki Oka (Kanto Central Hospital)
岡 輝明 (公立学校共済組合 関東中央病院 病理科 部長)



インドネシアの最新がん研究の動向

Management of Asbestos Associated Mesothelioma : a clinical experiences in Indonesia

NAME : Koesoemoprodjo Winariani



EDUCATION :

Consultant of Occupational Lung Disorder (2004)
Pulmonology Department, Faculty of Medicine, Airlangga University, Surabaya - Indonesia
Pulmonology and Respiratory Medicine Specialist (1990-1994)
Pulmonology Department, Faculty of Medicine, Airlangga University, Surabaya - Indonesia
Medical Doctor (1973-1981)
At Faculty of Medicine, Airlangga University Surabaya - Indonesia

WORKING EXPERIENCE :

2011 - present : Head of Department/ SMF (Functional Medical Staff) of Pulmonology and Respirology
Dr. Soetomo Teaching Hospital - Faculty of Medicine, Airlangga University Surabaya, Indonesia
2004 - 2011 : Head of Medical Inpatient Installation Dr Soetomo Teaching Hospital, Surabaya, Indonesia.
1994 - present : Pulmonologist at Dr. Soetomo Teaching Hospital, Surabaya, Indonesia
1981 - 1990 : General physician at Dr. Ramelan Hospital (Navy Hospital), Surabaya, Indonesia

座長

Kazuhisa Takahashi (Juntendo University)
高橋 和久 (順天堂大学 呼吸器内科学講座 教授)

講演 第2部



日本における中皮腫の発生率 —中皮腫診断のための問題点—

The incidence of mesothelioma in Japan · Problems for the diagnosis of mesothelioma ·

Takumi Kishimoto, M.D., Ph.D. 独立行政法人 労働者健康福祉機構 岡山労災病院 副院長 岸本 卓巳
(Vice Director of Okayama Rosai Hospital)

Dr. KISHIMOTO Takumi graduated Okayama University Medical School (M.D.) and Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences (Ph.D.). He has been the head of Internal Department at Yamaguchi Grand Medical Center, Lecturer at University of Mississippi School of Medicine (USA), Head of Clinical Research Department, KURE Kyosai Hospital (Hiroshima), and General Manager of Health Examination Department, Okayama Rosai Hospital. He is the chief researcher of the project on Asbestos and its related diseases, which is supported by Ministry of Health, Labor and Welfare (MHLW).
-Member of MHLW's Committee for Asbestos's Health Damage and Medical examination
-Adjunct member of Ministry of Environment committees on environment and asbestos

座長

Chikao Morimoto (Juntendo University)

森本 茂夫 (順天堂大学大学院 免疫病・がん先端治療学講座 客員教授)



世界の石綿関連疾患に関する潜在的余命損失年数(PYLL)

Potential Years Life Lost (PYLL) due to Asbestos-Related Diseases in the World

Ken Takahashi, M.D., MPH, Ph.D. 産業医科大学 環境疫学 教授 高橋 謙
(Professor, Chair of Environmental Epidemiology, University of Occup & Environ Health)

Ken Takahashi graduated School of Medicine of Keio University in 1983, and then received Ph.D. from UOEH and M.P.H. from the University of Pittsburgh. He is Fellow of the Collegium Ramazzini and of the Faculty of the Society of Occupational Medicine, Ireland. He has been serving on a number of occasions as consultant/advisor to the World Health Organization (WHO) and the International Labor Organization and has been recently appointed by the WHO to the Roster of Experts under the International Health Regulations (IHR, 2005), as an Expert in Chemical Safety for 2012-2015.

座長

Takehiko Murayama (Tokyo Institute of Technology)

村山 武彦 (東京工業大学大学院 環境理工学創造専攻 教授)



中皮腫の早期診断と新規治療法の開発 —大規模研究型検診—

A large-scale research screening for early diagnosis of mesothelioma and new treatment

Okio Hino, M.D., Ph.D. 順天堂大学 病理・腫瘍学講座 教授 樋野 興夫
(Professor, Department of Pathology and Oncology, Juntendo University School of Medicine)

Professor HINO Okio, M.D., Ph.D was born in Shimane Prefecture, Japan in 1954. Now he is the professor of Department of Molecular Pathogenesis at Juntendo University Faculty of Medicine and Graduate School of Medicine. He has been a member of the Department of Pathology at Japanese Foundation Cancer Institute, a fellow of Albert Einstein College of Medicine Marion Bessin Liver Research Center (NY, USA), a fellow at the Fox Chase Cancer Center (PA, USA), and General Manager of the Experimental Pathology Department at NCC.

座長

Shuichi Adachi (Sagami Women's University)

安達 修一 (相模女子大学大学院 栄養科学研究科長)



日本の石綿健康被害救済制度について

Asbestos-Related Health Damage Relief System in Japan

Masahiro Kaminota, M.D., MPH, Ph.D. 環境省 総合環境政策局 環境保健部 企画課 石綿健康被害対策室長 神ノ田 昌博
(Director, Office for Health Hazards caused by Asbestos, Ministry of the Environment, Government of Japan)

Dr. KAMINOTA Masahiro graduated from Keio University School of Medicine in 1992 (M.D.), and received M.P.H. from Harvard School of Public Health in 1998 and Ph.D. from Keio University in 2002. He has been working in the field of public health policy for more than 20 years. He successively held various posts in the Japanese Government, such as Deputy Director of Medical Economics Division (2006-2007), Deputy Director of Health Sciences Division (2007-2008), Director of Office of Pandemic Influenza Preparedness & Response (2010-2012), before the current position.

座長

Takumi Kishimoto (Okayama Rosai Hospital)

岸本 卓巳 (独立行政法人 労働者健康福祉機構 岡山労災病院 副院長)

3-4 岩手医科大学 がんプロシンポジウム『地域を支えるがん医療教育』

■概要

(1) 名称

がんプロシンポジウム「地域を支えるがん医療教育」

(2) 日時、場所、対象

開催日時：平成25年1月19日（土）

開催場所：ホテル東日本〔鳳凰の間〕（岩手県盛岡市大通り3-3-18）

参加対象：医師、看護師、薬剤師、放射線技師、医学物理士、患者家族

(3) 特別講演者

厚生労働省 医薬食品局審査管理課 課長補佐 宮田 俊男
独立法人国立がん研究センター 理事長 堀田 知光

(4) 参加者の概要

参加者数：50名

(5) 主催

岩手医科大学

(6) 後援

北東北がん医療コンソーシアム

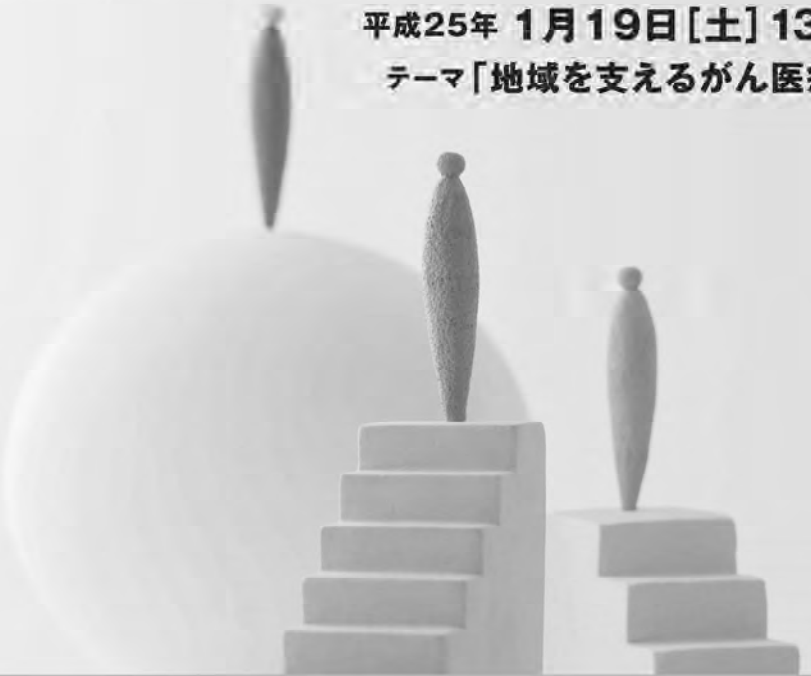


■資料

・ポスター

平成24年度がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン がんプロシンポジウム

平成25年 1月19日[土] 13:30～
テーマ「地域を支えるがん医療教育」



特別講演

演題／「厚生労働省の医療イノベーションへの取組」
 演者／厚生労働省医薬食品局審査管理課
 課長補佐 宮田俊男氏

座長／岩手医科大学産婦人科学講座教授 杉山 徹氏

演題／「これからのがん医療と人材育成」
 演者／独立法人 国立がん研究センター
 理事長 堀田知光氏


座長／岩手医科大学産婦人科学講座教授 杉山 徹氏

パネルディスカッション
 「岩手県におけるがん医療教育の現状と課題」

座長／岩手医科大学 産婦人科学講座教授 杉山 徹氏
 パネリスト／独立法人 国立がん研究センター理事長 堀田知光氏
 厚生労働省 医薬食品局審査管理課課長補佐 宮田俊男氏
 岩手県保健福祉部 医療推進課総括課長 野原 勝氏
 岩手県立大学看護学部看護学科教授 安藤広子氏
 岩手医科大学放射線医学講座教授 有賀久哲氏
 岩手医科大学内科学講座(血液・腫瘍内科分野)准教授 伊藤薫樹氏
 岩手医科大学附属病院 高度看護研修センター教員 石井真紀子氏
 岩手医科大学附属病院 薬剤部副薬剤部長 工藤賢三氏

会場 ホテル東日本 (黒湯の部)

岩手県盛岡市光通3-3-18 TEL 019-625-2131(代)



[問い合わせ先]
 岩手医科大学 医学部教務課 がんプロ担当
 〒020-8505 岩手県盛岡市内丸19-1
 TEL: 019-651-5111 (大代) 内線 3221, 5516
 FAX: 019-651-8055
 Email: lkyomu@j.wate-med.ac.jp

主催／がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
 (IGTと人で繋ぐがん医療推進プラン)
 後援／北東北がん医療コンソーシアム

3-5 東京理科大学『第28回薬学講座』

■概要

(1) 名称

東京理科大学「第28回薬学講座」

(2) 日時、場所、対象

開催日時：平成24年10月20日（月）10:30～17:00（10:00受付開始）
 開催場所：東京理科大学 神楽坂校舎 1号館17階 記念講堂

(3) 参加者の概要

参加者数：93名

(4) 主催

東京理科大学

■資料

・チラシ

平成24年度文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン採択事業

第28回 薬学講座 開催要項

期	日	平成24年10月20日（土）
時	間	10:30～17:00（10:00受付開始）
定	員	240名
場	所	東京理科大学神楽坂校舎1号館17階（記念講堂）
主	催	東京理科大学薬学部
共	催	東京理科大学生涯学習センター 東京理科大学薬学部同窓会 公益財団法人日本薬剤師研修センター 文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン採択事業

● プログラム ●

10:30～10:35	開会の辞	実行委員長	浅田 晋久
10:35～10:40	学部長挨拶	東京理科大学 薬学部長	田沼 靖一
10:40～11:50	原発事故に伴う環境の放射能汚染と人体影響	東京理科大学 薬学部 教授	小島 周二
12:50～14:00	スポーツファーマシストとアンチ・ドーピング活動	社団法人東京都薬剤師会 副会長	原 博
14:15～15:25	今後の薬剤師像	独立行政法人医薬品医療機器総合機構 審査マネジメント部 部長	磯部 総一郎
15:40～16:50	個別化医療と in silico 創薬	理論創薬研究所 所長	吉森 篤史
16:50	閉会の辞	実行委員長	浅田 晋久

● 講座のお申し込みについて ●

今回の薬学講座は日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度の認定対象研修会であり、参加される場合は3単位の修得となります。単位認定を希望する方は事前に東京理科大学生涯学習センターHP（<http://www.tus.ac.jp/manabi/>）からお申し込みください（インターネットを使えない方は下記へご連絡ください）。受付締切は平成24年10月10日（水）とさせていただきます。なお、単位認定が不要な方の事前申込は必要ありません。

● お問い合わせ先 ●

東京理科大学 生涯学習センター
 〒162-8601 東京都新宿区神楽坂 1-3
 TEL: 03-3267-9462 FAX: 03-3267-2048
 E-mail: manabi@admin.tus.ac.jp
 URL: <http://www.tus.ac.jp/manabi/>

3-6 明治薬科大学 大学院特別講義

■概要

(1) 名称

がんプロフェッショナル養成基盤事業 講演会
『アメリカの薬学教育とレジデンシー制度、がん専門薬剤師の臨床活動』

(2) 日時、場所、対象

開催日時：平成24年11月15日（木）16:00～18:00
開催場所：明治薬科大学 清瀬キャンパス 201 教室
参加対象：学部生・大学院生・教員

(3) 演者

Kaiser Permanente San Diego Medical Center Ambulatory Care Pharmacist - Hematology/Oncology
大友千絵子 Pharm.D., BCOP


(4) 参加者の概要

参加者数：明治薬科大学 大学院生、薬学部学生、教員等 30名

(5) 主催

明治薬科大学

■資料



**がんプロフェッショナル養成基盤事業
講演会のお知らせ**

**「アメリカの薬学教育とレジデンシー制度、
がん専門薬剤師の臨床活動」**

大友千絵子 Pharm.D., BCOP
Kaiser Permanente San Diego Medical Center
Ambulatory Care Pharmacist-Hematology/Oncology

日時 平成24年11月15日（木曜日）
午後4時から

場所 明治薬科大学清瀬キャンパス
講義棟2階 201教室

大友さんは本学を平成12年に卒業し、その後米国で薬剤師免許を取得し、さらにPharmDの資格した後、現在米国の病院で臨床薬剤師として活躍しています。今回、先生の一時帰国に合わせて講演会を企画しました。学生の皆さんの積極的な参加を期待しています。

主催	大学院がんプロフェッショナル養成基盤事業 海外医療研修コース
連絡先	薬物治療学 越前宏俊 教務部、大学院担当

3-7 明治薬科大学 大学院特別講義

■概要

(1) 名称

がんプロフェッショナル養成基盤事業 講演会
『がん研究における DNA 付加体研究の過去・現在そして未来』

(2) 日時、場所、対象

開催日時：平成24年12月10日（月）17:30～18:30
開催場所：明治薬科大学 清瀬キャンパス 204 教室
参加対象：本講座に興味をお持ちの方

(3) 演者

独立行政法人 国立がん研究センター研究所 発がんシステム研究分野 ユニット長 戸塚 ゆ加里

(4) 参加者の概要

参加者数：明治薬科大学 大学院生、薬学部学生、教員等 38名

(5) 主催

明治薬科大学

3-8 明治薬科大学 大学院特別講義

■概要

(1) 名称

がんプロフェッショナル養成基盤事業 講演会
『Use of immediate release fentanyl (non-IV) in cancer pain』

(2) 日時、場所、対象

開催日時：平成25年1月9日（月）10:50～12:10
開催場所：明治薬科大学 清瀬キャンパス 101 教室
参加対象：学部生・大学院生・教員

(3) 演者

米国イリノイ大学 薬学部講師 Christina Haaf, Pharm D


(4) 参加者の概要

参加者数：明治薬科大学 大学院生、学部学生、教員等 101 名


(5) 主催

明治薬科大学

■資料


**がんプロフェッショナル養成基盤事業
講演会のお知らせ**

Christina Haaf先生はイリノイ大
学薬学部および病院で臨床薬
剤師としてがん薬物治療に長
年貢献されてきました。今回、
学部学生、大学院生、教員を
対象として2日間にわたり講演
を企画しました。皆さん振るって
参加してください。



第1回
 Use of immediate release fentanyl (non-IV) in
cancer pain
 日時 平成25年1月9日(水曜日)午前10:50-12:10
 場所 明治薬科大学清瀬キャンパス 104教室

第2回
 Novel agents and small molecules for cancer
pharmacotherapy
 日時 平成25年1月12日(土曜日)午前10:30-12:00
 場所 明治薬科大学清瀬キャンパス101号教室

主催 大学院がんプロフェッショナル養成基盤事業
 海外医療研修コース
 連絡先 薬物治療学 越前宏俊 教務部、大学院担当



3-9 明治薬科大学 大学院特別講義

■概要

(1) 名称

がんプロフェッショナル養成基盤事業 講演会
『Novel agents and small molecules for cancer pharmacotherapy』

(2) 日時、場所、対象

開催日時：平成25年1月12日(土) 10:30~12:00
開催場所：明治薬科大学 清瀬キャンパス 101 教室
参加対象：学部生・大学院生・教員

(3) 演者

米国イリノイ大学 薬学部講師 Christina Haaf, Pharm D

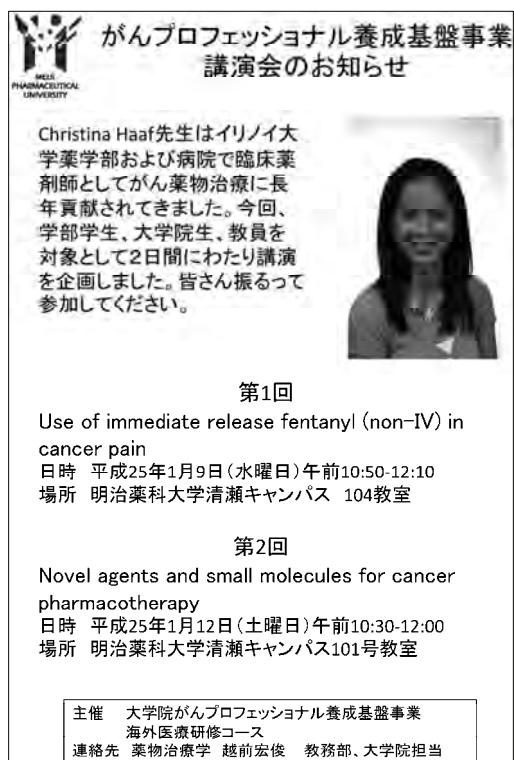
(4) 参加者の概要

参加者数：明治薬科大学 大学院生、学部学生、教員等 70名

(5) 主催

明治薬科大学

■資料



がんプロフェッショナル養成基盤事業
講演会のお知らせ

Christina Haaf先生はイリノイ大学薬学部および病院で臨床薬剤師としてがん薬物治療に長年貢献されてきました。今回、学部学生、大学院生、教員を対象として2日間にわたり講演を企画しました。皆さん振るって参加してください。

第1回
Use of immediate release fentanyl (non-IV) in cancer pain
日時 平成25年1月9日(水曜日)午前10:50-12:10
場所 明治薬科大学清瀬キャンパス 104教室

第2回
Novel agents and small molecules for cancer pharmacotherapy
日時 平成25年1月12日(土曜日)午前10:30-12:00
場所 明治薬科大学清瀬キャンパス101号教室

主催 大学院がんプロフェッショナル養成基盤事業
海外医療研修コース
連絡先 薬物治療学 越前宏俊 教務部、大学院担当

3-10 明治薬科大学 大学院特別講義

■概要

(1) 名称

がんプロフェッショナル養成基盤事業 講演会
『癌転移・薬剤耐性における EMT・幹細胞の関与 — 乳癌や肺癌を中心に —』

(2) 日時、場所、対象

開催日時：平成25年1月22日（火）16:00～17:00
開催場所：明治薬科大学 清瀬キャンパス 201 教室
参加対象：学部生・大学院生・教員

(3) 演者

順天堂大学 医学部 呼吸器内科 高橋 史行 先生


(4) 参加者の概要

参加者数：明治薬科大学 大学院生、薬学部学生、教員等 24名

(5) 主催

明治薬科大学

■資料



**がんプロフェッショナル養成基盤事業
講演会のお知らせ**

「癌転移・薬剤耐性におけるEMT・幹細胞の
関与 —乳癌や肺癌を中心に—」

演者：順天堂大学医学部呼吸器内科
高橋史行 先生

日時 平成25年1月22日（火曜日）午後4:00-5:00
場所 明治薬科大学清瀬キャンパス201号教室

Epithelial mesenchymal transition (EMT)や幹細胞は癌の転移や治療抵抗性に密接に関与していると考えられており、これらの基礎的研究は癌の予後改善に必要不可欠です。今回の講演では癌転移や薬剤耐性におけるEMT・幹細胞の基礎的研究の最新のトピックスが発表されます。

主催	大学院がんプロフェッショナル養成基盤事業 海外医療研修コース
連絡先	薬物治療学 越前宏俊 教務部、大学院担当

3-11 明治薬科大学 大学院特別講義

■概要

(1) 名称

がんプロフェッショナル養成基盤事業 講演会
『Clinical Pharmacy Training in the US』

(2) 日時、場所、対象

開催日時：平成25年2月16日（土）13:00～16:00
開催場所：明治薬科大学 清瀬キャンパス 101 教室
参加対象：学部生・大学院生・教員

(3) 演者

Clinical Pharmacy Consultant at Inova Fairfax Hospital, USA
Anna Wodlinger Jackson, PharmD, BCPS

(4) 参加者の概要

参加者数：明治薬科大学 大学院生、学部学生、教員、外部聴講者 75名

(5) 主催

明治薬科大学

■資料

 **がんプロフェッショナル養成基盤事業
講演会のお知らせ**

Anna Wodlinger Jackson先生はフィラデルフィア大学を卒業後、ノースカロライナ大学チャペルヒル校で専門薬剤師教育を受け、テンブル大学で専門薬剤師教育コースのコーディネーターをされています。今回、学部学生、大学院生、教員を対象として米国における学部から大学院、さらに生涯教育まで一貫した専門薬剤師教育システムを講演いただくことになりました。皆さん振るって参加してください。



期日 平成25年2月16日（土曜日）午後1時から4時
場所 明治薬科大学清瀬キャンパス講義棟1階、101講義室
テーマ Clinical Pharmacy Training in the US
演者 Anna Wodlinger Jackson, PharmD, BCPS
Clinical Pharmacy Consultant at Inova Fairfax Hospital, USA

主催 大学院がんプロフェッショナル養成基盤事業
連絡先 教務部、大学院担当

3-12 明治薬科大学 ジョイント講演会

■概要

(1) 名称

がんプロフェッショナル養成基盤事業 ジョイント講演会
『がん専門薬剤師の臨床活動とがん薬物治療研究の現在』

(2) 日時、場所、対象

開催日時：平成25年3月9日（土）講演1 13:00～14:45
講演2 15:00～16:45

開催場所：明治薬科大学 清瀬キャンパス 101 教室
参加対象：学部生・大学院生・教員

(3) 演者

講演1 静岡県立大学薬学部 辻 大樹 先生
講演2 浜松オンコロジーセンター 宮本 康敬 先生

(4) 参加者の概要

参加者数：明治薬科大学 大学院生、薬学部学生、教員他 73名

(5) 主催

明治薬科大学

3-13 順天堂大学・岩手医科大学 テレビ会議合同カンファレンス

■概要

(1) 名称

順天堂大学・岩手医科大学 乳腺外科間テレビ会議合同カンファレンス

(2) 日時、場所、対象

開催日時：第1回 平成24年10月31日（水）

第2回 平成25年2月27日（水）

第3回 平成25年3月27日（水）



3-14 順天堂大学・島根大学 テレビ会議合同特別カンファレンス

■概要

(1) 名称

順天堂大学・島根大学 呼吸器内科間テレビ会議合同特別カンファレンス

(2) 日時、場所、対象

開催日時：平成25年3月28日（木）



3-15 がんプロ医学物理連絡会

■概要

(1) 名称

第1回がんプロ医学物理連絡会

(2) 日時、場所、対象

開催日時：平成25年3月24日（日）

開催場所：順天堂大学 本郷キャンパス9号館2階8番教室

4. ニュースレター

4-1 ニュースレター創刊号

順天堂大学

先導的がん医療開発研究センター

2012
創刊号

Leading center for the development and research of cancer medicine

ニュースレター





順天堂大学 学長 木南 英紀

ご挨拶

文部科学省の「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」に公募していた本学を主幹とする7大学連携の取り組みである「ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン」が採択されました。

がんは、わが国の死因第一位の疾患であり、国民の生命及び健康にとって重大な問題となっている現状から、「がん対策基本法」が制定（H19.4 施行）されました。この基本法の中で、がん医療に携わる専門的な知識・技能を有する医師その他の医療従事者の育成が求められています。平成19年から本年3月まで施行された文科省事業「がんプロフェッショナル養成プラン」において、本学は「がん生涯教育センター」を大学院医学研究科に設置し、大学院において質の高いがん専門家を養成する研究教育拠点の形成を重点的に支援し、大学院教育の活性化と今後のがん医療を担う医療人の養成を行い、がん医療の底上げに貢献してきました。

今回の「ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン」では、全国のがん患者に均等に医療者養成の成果を還元し得る臨床の連携、基礎と臨床が協働する医薬看理工連携を課題としております。順天堂大学に「先導的がん医療開発研究センター」を整備し、これを拠点として地域医療を担っている東北の岩手医科大学、山陰の島根大学、鳥取大学と首都圏の本学との医科大学系コンソーシアムと理薬工学系大学の東京理科大学・明治薬科大学・立教大学とを循環型人材交流とICTで繋ぎ、さらに国立がん研究センター、理化学研究所や海外の協定大学との教育研究協働を強め、連携と補完による強固なネットワークをつくり、がんの診療現場のニーズを知り、シーズを生む研究環境、大学院教育環境を創生します。ここから、がん診療を実践する専門医療職の養成、医療現場に還元できるがん研究・開発、地域のがん医療に医療維新を引き起こしていきたく考えております。



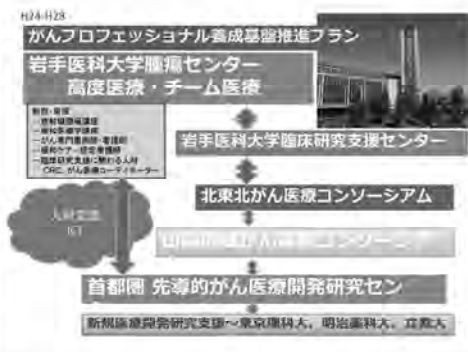
連携大学紹介

岩手医科大学

人とICTで繋ぐ地方と地方、地方と首都圏：
岩手医科大学でのがん医療維新

岩手医科大学 杉山 徹
(医学部 産婦人科学教室 教授)

本プランは、「絆」をkey wordに人の循環とICT下にかん研究開発拠点、国際化拠点と地域力の3つの歯車を回す。岩手医科大学では放射線治療や緩和ケア関連の講座を新設し、がん治療認定医・がん薬物療法専門医、がん専門薬剤師・看護師、緩和ケア認定看護師の医療職育成を加速する。一方、東京・神奈川・千葉・埼玉と同等の県土、岩手県でのがん医療の「均てん化」に不可欠なスキルミクス指向型の人材育成のためにインテンシブコース「先導的がん臨床研究に精通した医療人育成」を開講して、がん医療に携わるコーディネーター等の養成にも着手する。北東北3県の医療機関、医師会、行政と共同した「北東北がん医療コンソーシアム」の中で育成したがん専門医療人の交流を深化させ、岩手県でのがん医療の均てん化の促進に繋げる。岩手医科大学腫瘍センターと整備の緒についた臨床研究支援センターを基盤として既存の岩手医療情報ネットワークや震災復興計画として進んでいるICTを活用した岩手県診療連携と密なネットワーク構築を図る。国際的感覚育成の観点より日・欧米がんセンターと連携した研修や海外学会での発表も支援する。がん医療の均てん化を目指して臨床研究の拠点化・ネットワーク化も図り、CRCなどの支援下で国が進める次世代がん研究戦略推進プロジェクトとも連携してリバースTR研究を促進し、イノベーションの実現を目指す。文化等異なる地域「山陰地域がん診療コンソーシアム」と「北東北がん医療コンソーシアム」、そして首都圏の「先導的がん医療開発研究センター」が人とICTで繋がれば医療維新と位置付けるプロダクトが生まれる。



がん医療創生フロンティアと鳥根大学のミッション



設置する「地域がん医療に貢献するがん専門医療人養成コース」では、地域に多い高齢者ががん医療に精通し、地域連携を推進し、地域貢献のマインドを有する全人的ながん診療専門医を養成すると共に、リサーチマインドを有し、臨床試験を計画し、山陰地区からエビデンスを発信できる人材を育成します。また、山陰全域の日常のがん治療水準向上を目指し、その共通基盤となる臨床腫瘍学の知識・基本技術に習熟し、医療倫理に基づいたがん治療を実践する優れた医師及びメディカルスタッフの養成と認定を行う目的で、地域がん診療ネットワークの強化と山陰全域のがん診療の均てん化を図る、斬新的な「山陰がん認定医療スタッフ育成インテンシブコース」を設置しました。皆様と共にがん医療創生フロンティアとしての使命を果たしたいと思っております。

鳥根大学

がん医療創生フロンティアと鳥根大学のミッション

鳥根大学 磯部 威
(呼吸器・臨床腫瘍学 教授)

鳥根大学では日19年度に開始されたがんプロフェッショナル養成プランで、専門医育成体制の整備と山陰地区での地域ネットワークの構築に取り組んできました。今回のがんプロでは、その基盤を充実する目的で医学部に緩和ケア講座を設置し、「地域貢献」をテーマに新たな事業を、順天堂大学を中心とした枠組みで推進していきたいと思っております。今回大学院に新たに設置

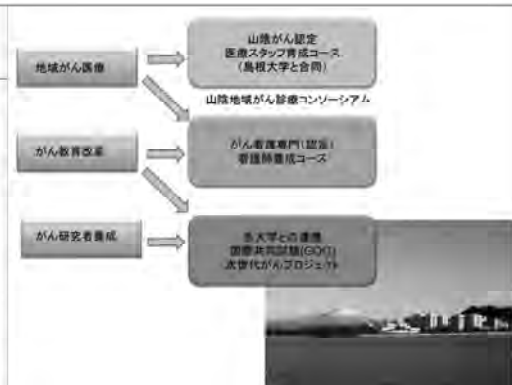
Leading center for the development and research of cancer medicine

鳥取大学

がん医療革新をめざすICT研究教育プランにおける鳥取大学のミッション

鳥取大学 紀川 純三
(医学部附属病院がんセンター センター長・教授)

鳥取大学医学部は、医学科、生命科学科、保健学科の三学科からなり、「お互いに連携を取りながら、生命の尊厳を重んじるとともに創造性に富む医療人や生命科学者を養成する」ことを理念として、地域医療への貢献や研究者養成を行っています。平成19-23年度の「がんプロフェッショナル養成プラン」では鳥根大学・広島大学と連携し、薬物療法専門医をはじめとするがん専門医やがん看護専門看護師を養成し、がん専門職の増加を図ることができました。一方、専門医の偏在と放射線物理士などのコメディカル専門職の不足が依然解決すべき問題としてあります。「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」では、順天堂大学を中心とした「がん医療革新をめざすICT研究教育プラン」に参画して、専門医の地域への定着、コメディカル専門職の育成、さらには国際的に活躍できるがん研究者の養成を目指したいと思います。そのためには、地域のがん医療機関との連携強化、医師やコメディカル専門職に対する国内外への派遣を含めた研修、各大学との共同研究の推進が必要です。鳥取大学は全力でその役割を果たす所存です。よろしく申し上げます。



シンポジウム開催報告

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン キックオフシンポジウム「がん医療革新をめざすICT研究教育プラン」を6月18日、順天堂大学センチュリータワー801教室にて開催しました。

本学 小川 秀興 理事長の開会挨拶をはじめ、今年度より連携協力をおこなった国立がん研究センター 所長 中釜 齊 先生に「発がん研究と予防戦略」について、公益財団法人がん研究会有明病院 院長 門田 守人 先生に「医療人に求められる複眼的思考」と題し、がんトピックスの基調講演を頂きました。また、今年度より連携7大学となり、新たななる船出として各大学の取り組みをコーディネータの先生方より発表いただき、パネルディスカッション形式でおこなわれました。

岩手医科大学 小川 彰 理事長をはじめ、連携大学より多数の参加があり、大盛況となりました。多大なるご協力を頂きました関係者の皆さまに、心より御礼申し上げます。





Leading center for the development and research of cancer medicine



報告

下記のとおり大盛況のうちに終了いたしました。ありがとうございました。

● 第9回市民公開講座「高度がん治療を目指して」

2012年6月30日(土) 順天堂大学本郷キャンパス有山記念講堂

今後のスケジュール

● 第3回「次世代の環境発がんを考える会」公開シンポジウム(後援開催)

「中皮腫の早期診断と新規治療法の開発」

2012年8月1日(水) 順天堂大学本郷キャンパス10号館 1F

● 東京理科大学 第28回 薬学講座

2012年10月20日(土) 10:30-17:00 (10:00開場)

東京理科大学神楽坂校舎1号館17階 (記念講堂)

編集後記

「文科省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン採択事業「がん医療革新をめざすICT研究教育プラン」」キックオフシンポジウム(主催:順天堂大学/岩手医科大学/鳥根大学/鳥取大学/東京理科大学/明治薬科大/立教大学、後援:読売新聞/毎日新聞)が順天堂で開催された。満員の大盛況であった。「次世代のがんプロに期待するもの」、「がんトピックス」、「各大学の役割意識」は、「レベルの高い格調と品性」があった。「がんトピックス」での「国立がん研究センター研究所長」&「公益財団法人がん研究会有明病院長」の「思いやりのある」ご講演は、会場に大きな華を添えた。「各大学の役割意識」では、「本プロジェクトの目標とビジョン」が明確にされ、「有言実行」の決意を感じさせるものであった。筆者は、「次世代のがんプロに期待するもの」での講演の機会が与えられ「教育・臨床・研究」の「歴史的理念」をさりげなく語った。また、パネルディスカッション「各大学の役割意識」の司会を務め、大いなる学びの時であった。

編集長・広報委員長 樋野 興夫

順天堂大学先導的がん医療開発研究センター

順天堂大学がん生涯教育センター

〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1

編集 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 広報委員会

発行 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

4-2 ニュースレター第2号

順天堂大学 先導的がん医療開発研究センター

2012
第2号

Leading center for the development and research of cancer medicine

ニュースレター

平成24年度がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

がんプロFDワークショップ

「がん医療維新プラン・共通教育科目の カリキュラムプランニング」

岩手医科大学医学部
腫瘍生物学研究部門
教授 前沢 千早



がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン」の本格稼働を前に、「共通教育カリキュラムの策定」を目的としたFDワークショップが岩手医科大学の主催により、9月8・9日の両日、ホテル安比グラント（岩手県八幡平市安比高原）に於いて開催された。今年はまだに見る厳しい残暑が続き、岩手でも前日までは連日30度超えの猛暑の日々であった。しかし、当日は一転して雨模様となり、気温もだいぶ下がり、遠方よりおいで頂いた方々には、暑さを忘れる



つかの間の避暑になったのではないかと。参加頂いた連携大学の皆様は、研究者（医学、薬学、医学物理、統計学）、臨床医、薬剤師といった多彩な職種の教員に加えて本がんに参加する学生さん、スタッフを合わせると総勢39名となり、まさに「全員参加の多職種がんチーム医療の教育プログラム」を話し合うには、ふさわしいメンバー構成となった。



がんプロFDワークショップ

「がん医療維新プラン・共通教育科目のカリキュラムプランニング」

冒頭のランチミーティングで、岩手医科大学 小林誠一郎 医学部長の歓迎の挨拶の後、早速、本がんプロの統括コーディネータである順天堂大学 高橋和久 教授から、「がんプロ共通カリキュラムの構築 — ICTと人の循環の実現化を目指して—」という演題で基調講演を頂いた。講演の最後に高橋教授からは、全国 e-learningクラウドへの参加や、循環型の医療人育成の方略等について、このFDを通じて検討されることを期待する旨の発言があった。質疑応答後、各連携大学から独自のカリキュラムについてコースの概要や特色などの説明が行われ、活発な議論がなされた。



第二部では、4班に分かれて各班6ないし7名でグループワークによる共通教育カリキュラム作成に入った。班毎に、テーマを決め活発な議論が交わされた。共通教育カリキュラム作成にあたっての問題点の洗い出しや、e-learning、多職種チーム医療に係る教育のリソース、方略などが話し合われていた。第二部と第三部の間には、本FDのゲストレクチャーとして、株式会社ビジネスコンサルタントの大崎桂子氏から、「イノベーションを促進するリーダーシップスキル、I-Lab」という演題でお話を頂いた。講演の中では、本FDのようなワークショップのグループ討議の進め方について、具体的アドバイスを頂き、第三部でのグループワークの活性化につながった。

各グループでの議論は白熱し、あっという間に夕食の時刻となり、この時点での議論はむしろ放散する方向にあったが、FDの主催コーディネータの杉山徹の、「この会の最大の趣旨は、がんプロ参加者の相互理解であります。そのためには、おいしいバーベキューで活発な議論を続けましょう」の一言で、ナイトセッション会場への移動となった。ナイトセッションでは、岩手の山海の食材を御賞味頂き、御満足頂いたものと勝手に思っているところである。

翌日は各グループとも朝早くから、昨夜の熱い議論をまとめ上げ、スライド作成、発表を行った。多職種チーム医療や臨床試験に係る、共通カリキュラムや、教員の循環交流による授業の提案などがなされ、杉山教授、高橋教授からの総括でFDの一切を終了した。主催した私どもの不手際で準備不足もあり、循環型の医療人育成プログラムやICTのコンテンツ作りなど、次回開催FDに多くの課題を残す事になってしまったが、当初の最大の目的であった連携大学間の人と人を繋ぐ事ができた、素晴らしい教育研修会になったのではないと思う。



Leading center for the development and research of cancer medicine

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン連携大学院 平成25年度 学生募集要項

大学院・課程	コース名	養成する専門分野	修業年限	日程
順天堂大学大学院 医学研究科 医学専攻	次世代先導的がん 研究者養成コース	がん研究医	4年	【後期試験】 出願期間：平成24年11月19日(月)～平成24年12月19日(木) 試験日：平成25年1月10日(木)
岩手医科大学大学院 医学研究科 医科学専攻	緩和ケア地域連携を支援する 指導的医療人育成コース	緩和医療	2年 4年	出願期間：平成25年1月30日(水)～平成25年2月20日(水) 試験日：平成25年3月1日(金)
島根大学大学院 医学系研究科 医科学専攻	地域がん専門医育成コース	がん専門医	4年	【1次募集】 出願期間：平成24年9月10日(月)～平成24年9月14日(金) 試験日：平成24年10月16日(火) 【2次募集】 出願期間：平成25年1月7日(月)～平成25年1月11日(金) 試験日：平成25年2月16日(土)
鳥取大学大学院 医学系研究科 (医学部附属病院 看護師 キャリアアップセンター)	がん看護専門(認定)看護師 養成コース	認定看護師 (がん化学療法看護)	7ヶ月	出願期間(予定)： 平成25年5月27日(月)～平成25年6月10日(月) 試験日(予定)： 平成25年6月30日(日)
東京理科大学 薬学研究科 薬学専攻修士課程	がんシステム・創薬研究者 養成コース	創薬医科学	2年	【一般】 出願期間：平成24年7月11日(水)～平成24年7月20日(金) 試験日：平成24年8月21日(火) 英語、専門科目 平成24年8月22日(水) 面接 <small>他大学等からの推薦入試、社会人特別選抜も行ってあります。詳しくは募集要項をご覧ください。</small>
明治薬科大学大学院 薬学研究科 薬学専攻修士課程	がん薬物療法のファーマシー・ サイエンティスト 養成教育コース	薬剤師	4年	*予備審査出願期間： 平成24年11月19日(月)～平成24年11月29日(木) 出願期間：平成24年12月13日(木)～平成24年12月20日(木) 試験日：平成25年1月12日(土) <small>*出願資格の認定が必要な受験者の場合、予備審査を行う。</small>
立教大学大学院 理学研究科 物理学専攻博士課程	医学物理研究コース	医学物理士	3年	出願期間：平成25年1月15日(火)～平成25年1月18日(金) 試験日：平成25年2月23日(土)

○インテンシブコース

順天堂大学大学院 医学研究科 医学専攻	次世代先導的がん 専門医療人養成コース	がん治療	1年間 (20講義)
島根大学大学院 医学系研究科医科学専攻	山陰がん認定医療 スタッフ育成コース (島根大学、鳥取大学の合同事業)	地域がん認定医療	1年間
鳥取大学大学院 医学系研究科医学専攻			
岩手医科大学大学院 医学研究科 医科学専攻	先導的がん臨床研究に 精通した医療人育成コース	トランスレーショナル リサーチ(TR) マネジメント	1年間 (3単位)
	先導的がん臨床研究に 精通した医療人育成コース	レギュラトリー サイエンス	1年間 (3単位)



出願の際は必ず「各校の募集要項」にて
詳細をご確認のうえ、出願してください。



Leading center for the development and research of cancer medicine

報告

下記のとおり大盛況のうちに終了いたしました。ありがとうございました。

● 東京理科大学 第28回 薬学講座

2012年10月20日(土) 10:30~17:00(10:00開場)

東京理科大学神楽坂校舎1号館17階(記念講堂)

今後のスケジュール

● がんプロシンポジウム

テーマ 「基礎研究を先進がん医療に活かす」

幹事校 東京理科大学

2012年11月30日(金) 13:00~18:00 東京理科大学野田校舎

編集後記

9月8日、9日安比高原で岩手医科大学の主催で、平成24年度「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」の「がんプロFDワークショップ」が開催された。岩手が生んだ新渡戸稲造(1862-1933)生誕150周年の年、生誕地で「がんプロFDワークショップ」が開催されるとは、格別な感がある。本プロジェクトの柱である「先導的がん医療開発研究」の実現の観点からも、復興支援、被災地支援は、目下の急務である。その1つとして、「環境発がん制御研究」の推進は、極めて重要なテーマである。神戸震災復興支援にあった人から中皮腫が発生したことは記憶に新しい。同様なことが今度も繰り返されることを憂うことは、「先妻後妻のがん研究者」の「社会貢献」としては、当然であろう。国民の健康障害に関する重要課題解決型研究として、「アスベスト・中皮腫」の克服に向けた総合戦略は「目下の急務」である。岩手医科大学と連携する本プロジェクトの使命でもあり、「発症前診断の確立、新規治療法の開発」に向けた統合的な研究を目指す。

編集長・広報委員長 樋野 興夫

順天堂大学先導的がん医療開発研究センター

順天堂大学がん生涯教育センター

〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1

編集 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 広報委員会

発行 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

4-3 ニュースレター第3号

順天堂大学 先導的がん医療開発研究センター

2012
第3号

Leading center for the development and research of cancer medicine

ニュースレター



11月30日(金)
がんプロシンポジウム

平成24年度がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

研究シンポジウム 「基礎研究を先進がん医療に活かす」

東京理科大学 薬学部 教授 東 達也

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン」では、がん専門医療人に加えて、先進がん医療に貢献する基礎研究者の養成も大きな目的である。そこでまずは、個々の大学の研究課題・強みを相互に理解し、それらの有機的連携を探るべく、11月30日「基礎研究を先進がん医療に活かす」と題したシンポジウムが、東京理科大学の主催により同大学薬学部（千葉県野田市）において開催された。曇天の寒い日ではあったが、75名の連携大学の皆様にご参加いただいた。医学、薬学、医学物理といった様々な分野・領域の研究者・大学教員、本がんプロ運営スタッフとともに、大学院生の参加も目立った。





東京理科大学大学院薬学研究科 牧野 公子 研究科長の挨拶の後、早速、独立行政法人国立がん研究センター研究所 遺伝医学研究分野 吉田 輝彦 先生から「ゲノム系情報に基づくがんの個別化医療開発・創薬に関する総論的考察」という演題で基調講演を頂いた。体細胞 (somatic) と生殖細胞系列 (germline) に分けての個別化治療、個別化予防 (先制医療) に続き、バイオバンク・データベースの重要性や活用などをお話いただいた。

続いて連携7大学から1題ずつの研究発表が行われた。紙面の都合で詳細は割愛させていただくが、中皮腫バイオマーカーの開発とその診断・治療への応用 (順天堂大学 樋野 興夫 先生)、抗がん剤耐性がんの細胞分子生物学的研究 (岩手医科大学 西塚 哲 先生)、呼吸器がんのトランスレーショナルリサーチ (島根大学 磯部 威 先生)、卵巣がんに対する新規薬剤 (鳥取大学 大石 徹郎 先生)、in silico抗がん剤創成手法 (東京理科大学 田沼 靖一 先生)、トランスポーター阻害に基づく悪性脳腫瘍治療戦略 (明治薬科大学 井上 裕貴 さん (大学院生))、放射線治療の高精度化に資する装置の開発 (立教大学 玉本 聖一 さん (大学院生)) と、非常に多岐にわたる内容であり、それぞれの研究の一層の追求と大学間 (医学—薬学—理学) 連携の推進・深化、さらには共同研究への発展がなされれば、先進がん医療に大きく貢献するものと期待される。発表後には活発な議論もなされ、これはシンポジウム後の情報交換会まで続いた。今回のシンポジウムは、連携大学間の共同研究の芽を生み、参加した研究者・大学院生のがん研究に対するモチベーションをさらに高めるものであったと確信している。

末筆ながら、シンポジウムにおいて貴重なご講演を賜りました先生、大学院生の皆様に厚く御礼申し上げます。



Program	
13:00~	1. 開会の辞
13:05~	2. 基調講演 独立行政法人国立がん研究センター研究所 吉田 輝彦 先生 遺伝医学研究分野 吉田 輝彦 先生 「ゲノム系情報に基づくがんの個別化医療開発 創薬に関する総論的考察」
休憩	
3. 各連携大学からの研究発表	
14:15~	順天堂大学 薬学部薬学 薬理学 樋野 興夫 先生 「抗がん剤耐性がん細胞研究」の進展—転写制御因子をターゲットに—
14:20~	岩手医科大学 がん研究センター がん分子生物学研究室 西塚 哲 先生 (Cytoskeleton Array (COLA) を用いた細胞膜タンパク質の分子生物学的研究 (TIT) (A))
14:45~	島根大学 医学部内科学腫瘍学専攻 呼吸器科 磯部 威 先生 「腫瘍内付着因子トランスレーショナルリサーチ」
15:00~	鳥取大学 医学部附属がんセンターがん研究科 がん治療学 大石 徹郎 先生 「がん治療薬の開発に向けたがん治療薬の創製」
15:15~	立教大学 薬学部薬学 薬理学 玉本 聖一 先生 「がん治療薬の開発」
15:30~	明治薬科大学 薬学部薬学 薬理学 井上 裕貴 さん (大学院生) 「がん治療薬の開発」
15:45~	東京理科大学 薬学部薬学 薬理学 田沼 靖一 先生 (大学院生) 「がん治療薬の開発」
休憩	
16:15~	4. 総括 (質疑応答)、閉会の辞
18:00~	情報交換会

Leading center for the development and research of cancer medicine

10月22日(月) Richard Hoppe 先生特別講義について

平成24年度 特別講義プログラム

『The evolution of radiation therapy for the management of lymphomas』

10月22日(月)、順天堂大学本郷キャンパスにて、スタンフォード大学 Richard Hoppe 先生をお招きし、がんプロ特別講義を開講しました。

先生には、「The evolution of radiation therapy for the management of lymphomas」と題し、ホジキンリンパ腫の歴史と概説、H Kaplanにより開発された放射線治療法から、現在の悪性リンパ腫における放射線治療の位置付けについてご講演をいただきました。先生はH Kaplanの愛弟子であり、かつ世界の悪性リンパ腫治療のオピニオンリーダーです。長年、スタンフォード大学放射線腫瘍科のchairpersonを勤められ、ホジキン病の治療体系を確立したスタンフォード大学のcoメンバーとして活躍されてきました。

この講演で不治の病だったホジキンリンパ腫の歴史を知ることができました。また、悪性リンパ腫の治療における放射線治療の現在の役割も明らかになりました。学内外から出席された方に有意義な時間になったのではないかと思います。



放射線治療学 教授 笹井 啓賢

10月31日(水) 順天堂大学 岩手医科大学 合同カンファレンスについて

順天堂大学 岩手医科大学 テレビ会議合同カンファレンス



夏のFD研修会での学びから、ICTで距離を感じずに共同研究を開始することを計画しておりました。この度、その準備が整い、10月31日(水)、将来の共同研究を目標に乳腺外科間での、ICTでつなぐ順天堂大学・岩手医科大学テレビ会議合同カンファレンスを開始しました。

今回は初回であり、まず第二期がんプロ事業で人とICTでつながる連携についてポンチ絵を用いて両医局員に説明し、互いの自己紹介をしました。次に、筑波大学外科講師の坂東先生をお呼びしていたので、筑波大作成のe-learningを用いていくことは別に、キャリアアップのためのビジョンとミッションの講義をしていただき、両校で活発な意見交換をしました。今後も毎月一回、定期的に行っていきたいと考えています。第二回目は、放射線科の先生方との合同カンファレンスで、治療方針決定に難渋する症例検討会を行う予定です。

乳腺・内分泌外科学 教授 齊藤 光江

12月4日(火) Gunda Leschber 先生特別講義について

平成24年度 特別講義プログラム

『Video-assisted Mediastinal Lymphadenectomy
・Female Surgeons in Germany』

さる12月4日、センチュリータワーで順天堂大学大学院特別講義、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン主催の講演会が開催された。本講演会で演者を務めたのはドイツの呼吸器外科医、Dr. Gunda Leschber, MDである。Dr. Gundaはベルリン出身でドイツにおける初の女性教授である。ベルリンと言えばベルリンハーモニーオーケストラを思い浮かべる方も少なくないと思われるが、つい最近まで女性の楽団員を拒否していたこの楽団がドイツにおいて女性がprestigiousな地位に就くのが如何に困難かと言うことを物語っている。

Dr. Gundaの講演は三部作と盛りだくさんで、聴衆は呼吸器外科、食道外科、呼吸器内科の各医局員と大学院生、そして順天堂大学学生と、大盛況の元に開催された。肺癌に対する縦隔鏡に関する実際とこれまでのreview、そして最後には女性に如何に外科学が魅力的であるかについて、熱く講演された。彼女は昨年の欧州呼吸器外科学会の会長でもありその言葉に重みがあり、医局員、学生のところに灯をともしたようである。順天堂大学でも女性の外科医(特に呼吸器外科)が増えて相乗効果を持って医学界に貢献できればと心を改めた次第である。



呼吸器外科学 教授 鈴木 健司



Leading center for the development and research of cancer medicine



報告 下記のとおり大盛況のうちに終了いたしました。ありがとうございました。

- **明治薬科大学 がんプロフェッショナル養成基盤推進事業 講演会**
 テーマ「アメリカの薬学教育とレジデンシー制度、がん専門薬剤師の臨床活動」
 講演者：大友千絵子 Pharm.D., BCOP
 2012年11月15日(木) 16:00～18:00 明治薬科大学清瀬キャンパス講義棟2階201教室
- **がんプロシンポジウム**
 テーマ「基礎研究を先進がん医療に活かす」
 幹事校：東京理科大学
 2012年11月30日(金) 13:00～18:00 東京理科大学野田校舎13号館1311教室
- **明治薬科大学 がんプロフェッショナル養成基盤推進事業 講演会**
 テーマ「がん研究におけるDNA付加体研究の過去・現在そして未来」
 講演者：戸塚 ゆ加里 (独)国立がん研究センター研究所 発がんシステム研究分野 ユニット長
 2012年12月10日(月) 17:30～18:30 明治薬科大学清瀬キャンパス 講義棟204教室
- **鳥取大学・島根大学がんプロシンポジウム**
 テーマ「がん医療における地域貢献とは」
 2012年12月13日(木) 16:15～18:30 鳥取大学医学部附属病院がんセンターキャンサーボード

今後のスケジュール

- **順天堂大学 国際シンポジウム(予定)**
 2013年2月28日(木) 午後 順天堂大学 センチュリータワー
- **順天堂大学 市民公開シンポジウム(予定)**
 テーマ「対話学・対話カフェの重要性」
 2013年3月11日(月) 13:00～15:30 順天堂大学10号館1階105カンファレンスルーム

編集後記

世界遺産の「中尊寺」と「毛越寺」を訪れる機会が与えられた。松尾芭蕉(1644-1694)の俳句「夏草や兵どもが夢の跡」The summer grass 'Tis all that's left Of ancient warriors' dreams)の新渡戸稲造(1862-1933)の英訳の句碑があった。新渡戸稲造の英語力には、改めて驚嘆した。新渡戸稲造の国際連盟事務次長時代(1919-1926)の大きな功績として、「オーランド諸島の領土問題」の解決と「知的協力委員会:1946年創設されたユネスコ(国際連合教育科学文化機関)の前身」を構成し知的対話を行ったことが挙げられる。委員会のメンバー中には、当時の最高の頭脳を代表するアインシュタイン、キュリー夫人もいたことは特記すべきことである。「余の尊敬する人物」(矢内原忠雄 著 岩波新書)の「博士の残した精神こそ日本国民の最も必要とするところでありませう」の言葉が、今、預言的に生きる。「日本国の天職」の自覚へと導く。

週末の午後、市民公開シンポジウムが開催された。特別講演は浅野史郎氏(慶應義塾大学総合政策学部教授・元宮城県知事)の「ATL患者になって」であった。「The Challenged=こういう障害を与えるから、これを撥ね返してみなさい」という言葉は、新鮮な大いなる学びであった。その後、筆者は、新渡戸稲造に倣って、基調講演「偉大なるお節介症候群～sense of humorの勧め～」を短く語った。

編集長・広報委員長 徳野 典夫

順天堂大学先導的がん医療開発研究センター 順天堂大学がん生涯教育センター

〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1

編集 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 広報委員会

発行 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

<http://ganpro-ict-plan.jp/index.html>

4-4 ニュースレター第4号

順天堂大学 先導的がん医療開発研究センター

2013
第4号

Leading center for the development and research of cancer medicine

ニュースレター

鳥取大学・島根大学 がんプロシンポジウム 「がん医療における地域貢献とは」

鳥取大学医学部 婦人科腫瘍科 教授 紀川 純三

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン」は、それぞれの大学が、個性や特色・得意分野を活かしながら相互に連携・補完して、がん専門医療人養成のための教育拠点を構築することを目的とし、同時に育成した専門職への再教育の場を提供し、地域医療への貢献を目指しています。がん医療の地域貢献は本プランの重要な課題のひとつです。



平成24年12月13日に鳥取大学と島根大学との共同企画シンポジウム「がん医療における地域貢献とは」を開催しました。鳥取大学医学部附属病院がんセンター内のキャンサーボード室を中継点として、「ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン」に相応しく、7つの連携大学と鳥取県のがん診療連携拠点病院をTV会議システムで結んで行いました。

12月13日(木)開催



鳥取大学・鳥根大学からプロシナシウム

「がん医療における地域貢献とは」



当日は、岩手医科大学から、杉山教授、柏葉講師、渡辺課長補佐、川守課員の4名、順天堂大学から、樋野教授、齊藤教授、松岡准教授の3名、鳥根大学から、磯部教授、中谷教授、猪俣教授、須谷講師、津端助教、棟石課長補佐、大島係長、岸田事務員、竹内事務員の9名の方々に米子へ来て頂きました。鳥取大学からは、井藤副学長をはじめ多くの参加があり、急速椅子の追加が必要でした。

シンポジウムに先立ち、鳥取大学の豊島良太医学部長とTV会議中継で順天堂大学から高橋和久教授のご挨拶がありました。まず、鳥取大学の廣岡保明教授が「山陰のがん医療に関わるコメディカル育成」の取り組みについて話され、鳥根大学の磯部威教授は「鳥根県地域医療の現状とがん専門医療」について講演されました。最後に、岩手医科大学の柏葉匡寛講師は「広域医療圏におけるがん医療均てん化のアプローチと展望」と題して、岩手医科大学の取り組みについて述べられました。その後、予定時間を過ぎる熱心な討議が行われました。

本シンポジウムでは、地方のがん医療体制の問題点が浮き彫りとなり、がん医療の集約化と均てん化との調整の困難さが指摘されました。がん医療人の地域偏在の解消と地域への定着化の取組みを行うためには、首都圏と地方とをTV会議システム等で結び、医師やコメディカルの再教育を充実させることが必要であり、今後コンソーシアムの課題として取り組むことが決まりました。なお、本シンポジウムは3eRec systemで保存され、いつでもwebで見ることができます。シンポジウム終了後には、駅前のホテルで情報交換会が行われ、楽しく語り合うことができました。順天堂大学の皆様は米子空港21時50分発の最終便でお帰りになりました。本当にありがとうございました。

がんプロフェッショナル養成基盤推進プランを核とした地域がん診療ネットワークを強化することにより、質の高いがん医療に関する情報の共有化を通して、がん医療に携わる人材の育成を効率よく行い、がん医療の地域貢献に繋がりたいと思います。参加して頂いた皆様に感謝いたします。



Leading center for the development and research of cancer medicine

1月30日(水) 東京大学 山上会館にて、
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 合同フォーラム
 が開催され、本グループも参加しました。フォーラムでは、FD講習会とポスターセッションが行われました。

FD講習会について

順天堂大学大学院 医学研究科 緩和医療学 先任准教授 奥野 滋子

平成25年1月30日に平成24年度文部科学省全国がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン合同フォーラム「大学院教育につながる医学部教育」が開催され、47大学より104名が参加した。最初に大阪大学の松浦成昭氏は、現時点で今だ曖昧な「緩和ケア」の定義を明確化し共通理解する必要性を示された。基調講演で大阪大学大学院の恒藤暁氏は、「時に癒し、しばしば苦痛を和らげ、常に慰める」ことが医療の使命であり、緩和ケアの真髄は「寄り添い」であること、そして寄り添う医療者を育成するために whole person care program を医学教育に導入することの意義について語った。昭和大学の高宮有介氏は医学教育の現状を示し、緩和ケア(医療)に関する講義コマ数は全国的に少なく、十分な緩和ケア教育が行われていないことを明らかにした。自治医科大学、京都府立医科大学、東京大学医学研究所附属病院のシラバスと各施設の工夫が紹介され、その後医学部第4学年を対象とした3コマ、5コマ、12コマの講義を想定して、シラバスを作成するグループワークを行った。コマ数が少ないと緩和ケア概論の座学に重点が置かれ、臨床実習・グループワーク・ロールプレイを盛り込むことが困難となり、講義形式だけでも70分で13コマがゆとりある講義ではないかとされた。緩和ケア教育はどの大学も講義コマ数の確保と教育方法について苦心しているところであり、全国で統一したシラバスを作成し、より質の高い緩和ケア教育を実践できるように努力していかねばならない。



Relief Care

本グループ発表ポスター





Leading center for the development and research of cancer medicine



報告

下記のとおり大盛況のうちに終了いたしました。ありがとうございました。

- 岩手医科大学 がんプロシンポジウム
テーマ「地域を支えるがん医療教育」
2013年1月19日(土) 13:00 ~ ホテル東日本 鳳凰の間
- 順天堂大学 国際シンポジウム(日英同時通訳)
テーマ「先導的国際がん研究の動向
アスベスト暴露による中皮腫 ~環境発がんのリスク予知と予防への新しい展開~」
2013年2月28日(木) 13:00 ~ 16:30 順天堂大学 センチュリータワー 8階 801教室

今後のスケジュール

- 順天堂大学 チーム研究合宿
テーマ「多施設・多職種チームで、研究プロトコルを作成し、実践しよう！」
2013年3月2日(土) ~ 3日(日) 1泊2日 明海グランドホテル
- 順天堂大学 市民公開シンポジウム
テーマ「対話学・対話カフェの重要性」
2013年3月11日(月) 13:00 ~ 15:30 順天堂大学10号館1階105カンファレンスルーム

編集後記

2月10日は、吉田富三(1903-1973)の誕生日であった。思えば、2003年「吉田富三生誕100周年」を全国で展開したのが記憶に新しい。その貴重な経験が、「がん哲学」(2004年)へと導かれた。吉田富三の当時の命題は、「今日の命題でもあり、将来の命題でもある」。筆者は、第99回日本病理学会総会(2010年)を会長として主宰する機会が与えられた。テーマは「広々とした病理学~深くて簡明、重くて軽妙、情熱的で冷静~」であった。恩師である菅野晴夫先生(癌研顧問)による「病理の百年を振り返って」の特別講演がなされた。「現在を的確に認識し未来を志向する」にあたって、如何に「歴史的な財産」の学びが必要不可欠であるのかを、実感する時であった。「病理学」を極めることは、「森を見て木の皮まで見る」ことであり、マクロからミクロまでの手順を踏んだ「丁寧な大局観」を獲得する「厳粛な訓練」の場でもある。「医師は生涯書生」・「医師は社会の優越者ではない」・「医業には自己犠牲が伴う」(吉田富三)は、まさに「医師の3ヶ条」であろう。

編集長・広報委員長 樋野 興夫

順天堂大学先導的がん医療開発研究センター 順天堂大学がん生涯教育センター

〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1

編集 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 広報委員会

発行 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

<http://ganpro-ict-plan.jp/index.html>

第 3 編

平成 24 年度開講コースシラバス

1. 鳥取大学（医学部附属病院 看護師キャリアアップセンター） がん看護専門（認定）看護師養成コース（認定看護師（がん化学療法看護））

1-1 共通科目

1. 看護管理		共通科目	
教科日名	看護管理	総時間数	コマ
目的	わが国の保健医療制度の仕組みと動向を理解し、社会や地域住民のニーズに対応する医療サービスや看護のあり方を考慮する。また、組織や医療チームにおける認定看護師の位置づけや役割機能を踏まえ、実践の場において質の高い看護サービスを効果的・効率的に提供するための戦略や他職種との共働、自身の役割機能の展開などについて検討する。 さらには、認定看護師としての活動の成果と診療報酬の成り立ちについて理解する。	15	7
講義日時	内容	担当教員	
① 9/ 5(水) 3限	保険医療制度の仕組みと動向	新 明美	
② 9/ 6(木) 3限	看護管理の基本	大草 智子	
③ 9/20(木) 3限	病院組織における看護サービスマネジメント	大草 智子	
④ 9/27(木) 3限	看護管理者が認定看護師に望む役割と資質	大草 智子	
⑤ 10/ 4(木) 3限	病院組織における認定看護師の役割	上灘 紳子	
⑥ 10/11(木) 3限	認定看護師の組織活用	中村真由美	
⑦ 10/18(木) 3限	診療報酬と看護評価	大草 智子 新 明美	
教科書 参考図書	担当教員が資料を作成 【参考図書】 ① 井部俊子, 中西睦子監修：看護管理学習テキスト, 看護管理概説, 日本看護協会出版会		
評価方法	レポートA4用紙2枚まで 課題：認定看護師に求められる役割と資質および問題点などについて記述		
配点	A:90点以上 B:80～89点 C:70～79点 D:69点以下		
試験日	平成24年10月22日（レポート提出日）		
評価者	大草智子		

2. リーダーシップ

共通科目

教科目名	リーダーシップ	総時間数	コマ
目的	集団や組織の目標や課題を達成する上で必要なリーダーシップ活動について理解する。 実践の場において、質の高い看護ケアを提供していく上で必要な認定看護師のリーダーシップの役割について考察する。	15	7
講義日時	内容	担当教員	
① 9/ 6 (木) 2限	リーダーシップ理論	早川 幸子	
② 9/13 (木) 2限	認定看護師に求められるリーダーシップ	早川 幸子	
③ 9/20 (木) 2限	リーダーシップの臨床への応用：組織変革 / 変革理論	早川 幸子	
④ 9/27 (木) 2限	リーダーシップの臨床への応用：組織の査定・組織分析	早川 幸子	
⑤ 10/ 4 (木) 2限	演習 自施設における組織の査定・組織分析と認定看護師としてのリーダーシップ役割	早川 幸子	
⑥ 10/11 (木) 2限		早川 幸子	
⑦ 10/18 (木) 2限		早川 幸子	
教科書 参考図書	担当者が資料を作成 【教科書】 ①金井壽宏：リーダーシップ入門，日経文庫，2005. ②看護管理者学習テキスト1（看護管理概説）日本看護協会出版会 【参考図書】 ①ジョン・P・コッター著：リーダーシップ論 ②小林薫著：ドラッカーのリーダーシップ論 ③スティーブン・R・コヴィー 著：7つの習慣 ④ロナルド・A・ハイフッツ著：リーダーシップとな何か		
評価方法	①レポート：テーマ（認定看護師としてのリーダーシップ特論）		
配点	A:90点以上 B:80～89点 C:70～79点 D:69点以下		
試験日	平成24年10月22日（レポート提出日）		
評価者	早川 幸子		

3. 文献検索・文献講読

共通科目

教科目名	文献検索・文献講読	総時間数	コマ
目的	実践の場において、問題解決のために研究論文を読解し、実践に活かす能力を養う。また、関連文献を系統的に検索、入手し、活用する方法とその限界について理解する。	15	7
講義日時	内容	担当教員	
① 9/3(月)4限	図書館の利用方法および文献検索の方法	石田 園子	
② 9/5(水)2限	①文献講読の意義と方法 ②事例を用いて、臨床看護研究における文献検索・クリティークの仕方	平松 喜美子	
③ 9/12(水)2限	①パワーポイントの作成方法	宮田 直輝 平松 喜美子	
④ 9/19(水)2限	①臨床看護研究の原理と方法 ②レポートの書き方 ③カンファレンスの仕方	平松 喜美子	
⑤ 9/26(水)2限	演習:文献検索の実際	平松 喜美子	
⑥ 10/3(水)2限		平松 喜美子	
⑦ 10/10(水)2限	演習 グループワーク結果のプレゼンテーション	平松 喜美子	
教科書 参考図書	担当教員が資料を作成 【参考図書】 ①イブ・A・クンバー著:医療専門職のための研究論文の読み方,金剛出版 ②佐藤忠雄:論文をどう書くか,講談社現代新書 ③鈴木庄亮:論文のまとめ方と書き方,南江堂 ④河野哲也:レポート・論文の書き方入門,慶応義塾大学出版会 ⑤篠田道子:カンファレンスの進め方,日本看護協会出版会		
評価方法	レポート;事例を紹介し,その事例をクリティークに評価する		
配点	A:90点以上 B:80~89点 C:70~79点 D:69点以下		
試験日	平成24年10月23日(レポート提出日)		
評価者	平松 喜美子		

4. 情報管理

共通科目

教科目名	情報管理	総時間数	コマ
目的	実践の場において、必要な情報を効率よく収集・解析・表示・伝達するための情報処理・管理能力を養う。 また、情報倫理の観点から、医療関連情報の適切な取り扱いについて理解する。	15	7
講義日時	内容	担当教員	
① 9/ 4 (火) 3限	医療における情報の概念および倫理	網崎 孝志	
② 9/10 (月) 4限	コンピュータと情報処理	網崎 孝志	
③ 9/10 (月) 5限	医療情報システムと医療関連情報の取り扱い	網崎 孝志	
④ 9/11 (火) 3限	コンピュータ活用の実際① /文書作成	網崎 孝志	
⑤ 9/18 (火) 3限	コンピュータ活用の実際② /データ整理法, 表計算, 基本統計	網崎 孝志	
⑥ 9/ 25 (火) 3限	コンピュータ活用の実際③ /メールと情報検索	網崎 孝志	
⑦ 10/2 (火) 3限	コンピュータ活用の実際④ /プレゼンテーション	網崎 孝志	
教科書 参考図書	担当者が資料を作成		
評価方法	①レポート：課題は授業の時に提示 ②筆記試験（小テスト）		
配点	A:90点以上 B:80～89点 C:70～79点 D:69点以下		
試験日	平成24年10月22日（レポート提出日）、小テストの日は担当者から説明		
評価者	網崎 孝志		

5. 看護倫理

共通科目

教科目名	看護倫理	総時間数	コマ
目的	実践の場において、対象の人権擁護・知る権利・自律性（自己決定）を尊重した看護を提供するため、看護倫理についての理解を深め、実践活動にどのように反映できるか考察する。	15	7
講義日時	内容	担当教員	
① 9/ 7(金) 3限	看護倫理の理論的基礎	平松喜美子	
② 9/12(水) 3限	倫理的ジレンマとその分析	平松喜美子	
③ 9/13(木) 3限	倫理原則	安藤 泰至	
④ 9/19(水) 3限	知る権利と自己決定	安藤 泰至	
⑤ 9/27(木) 4限	尊厳死・安楽死の概念	安藤 泰至	
⑥ 10/ 3(水) 3限	演習 臨床での倫理的課題： 事例を用いジョンセンによる4分割法で分析する	平松喜美子	
⑦ 10/11(木) 5限		平松喜美子	
教科書 参考図書	担当者が資料を作成 【参考図書】 ① 看護倫理のための意思決定10のステップ， 日本看護協会出版会， 2004. ② Supple編集委員会編：事例でまなぶケアの倫理， 第1版， メディカ出版， 2007.		
評価方法	レポート A4用紙2枚まで ① 臨床での倫理的課題をあげ， その問題をジョンセンによる4分割法に基づき分析しなさい。		
配点	A:90点以上 B:80～89点 C:70～79点 D:69点以下		
試験日	平成24年10月23日（レポート提出日）		
評価者	平松喜美子		

6. 指導

共通科目

教科目名	指導	総時間数	コマ
目的	組織内外の看護者に対して、実践を通して知識・技術を共有し、相手の能力を高めるための指導能力を養う。	15	7
講義日時	内容	担当教員	
① 9/ 4 (火) 4限	生涯教育理論	深田 美香	
② 9/ 4 (火) 5限	成人学習理論	深田 美香	
③ 9/11 (火) 4限	成人学習者の特性と教育指導計画	深田 美香	
④ 9/11 (火) 5限	教育指導活動の実際	深田 美香	
⑤ 9/18 (火) 4限	認定看護師の教育・指導の実際	森田 理恵	
⑥ 10/ 2 (火) 4限	演習 臨床における指導：看護スタッフに対する指導の実施，評価	深田 美香	
⑦ 10/ 2 (火) 5限		深田 美香	
教科書 参考図書	担当者が資料を作成 【参考図書】 ① バトリシア，ベナー他著：ベナー ナースを育てる，医学書院，2011. ② 三輪建二著：おとなの学びを育む，鳳書店，2009. ③ 松尾 睦著：経験からの学習—プロフェッショナルへの成長プロセス，同文館，2006. ④ 今井むつみ他著：人が学ぶということ—認知学習論からの視点—，北樹出版，2003年		
評価方法	レポート：講義の参画状況、臨床における指導についてのプレゼンテーション、およびプロフェッショナル教育に関するレポートにより評価する。		
配点	A:90点以上 B:80～89点 C:70～79点 D:69点以下 講義の参画状況、臨床における指導についてのプレゼンテーション 40点 プロフェッショナル教育に関するレポート 60点		
試験日	平成24年10月22日(レポート提出日)		
評価者	深田 美香		

7. 相談

共通科目

教科目名	相談	総時間数	コマ
目的	実践の場において、対象および組織内外の看護者や他職種に対して、コンサルテーションを行う上で必要な知識や方法論について理解する。また、自らの役割と能力を超える看護が求められる場合には、自ら支援や指導を受けることの重要性について理解する。	15	7
講義日時	内容	担当教員	
① 10/ 5 (金) 2限	コンサルテーションの概念	池田 牧	
② 10/ 5 (金) 3限	コンサルタントとしての役割と資質	池田 牧	
③ 10/ 5 (金) 4限	コンサルテーションのプロセス	池田 牧	
④ 10/19 (金) 1限	コンサルテーション (相談) 活動の実際	八塔 累子	
⑤ 10/19 (金) 2限	演習 認定看護師が行うコンサルテーション：コンサルテーション (相談) のロールプレイ	八塔 累子 田中 祐子 平松喜美子	
⑥ 10/19 (金) 3限			
⑦ 10/19 (金) 4限			
教科書 参考図書	担当者が資料を作成 【参考文献】 ① 野津浩嗣著：看護コーティング，日総研出版。 ② 吉田智美：緩和ケアと家族への援助，東原正明，近藤まゆみ編，緩和ケア，医学書院，2000。 ③ 柳沢厚生編著：ナースのためのコーティング活用術，医学書院，2003。		
評価方法	レポート A4 2枚程度 ①学生相互での相談のプロセスをレポートにまとめる		
配点	A:90点以上 B:80～89点 C:70～79点 D:69点以下		
試験日	平成24年10月22日 (レポート提出日)		
評価者	平松喜美子		

8. 臨床薬理学

共通科目

教科日名	臨床薬理学	総時間数	コマ
目的	がん化学療法を受ける患者の看護に必要な基本的知識を習得し、その知識の活用方法を理解する。	15	7
講義日時	内容	担当教員	
① 9/7(金) 5限	薬物動態概論	大坪 健司	
② 9/12(水) 4限	薬物相互作用概論	小川 勝弘	
③ 9/13(木) 5限	薬物相互作用各論	小川 勝弘	
④ 9/20(木) 5限	薬物ゲノミクス概論	高根 浩	
⑤ 9/24(月) 4限	薬物ゲノミクス各論	高根 浩	
⑥ 9/28(金) 4限	薬物動態各論	大谷 豊司	
⑦ 10/1(月) 5限	薬物情報の活用方法(添付文書, インタビューフォーム)	小川 勝弘	
教科書 参考図書	担当者が資料を作成 【参考図書】 ①医薬品情報学「第2版」 東京大学出版会 ②臨床薬理学「第3版」 医学書院		
評価方法	筆記試験		
配点	A:90点以上 B:80~89点 C:70~79点 D:69点以下		
試験日	平成24年10月9日		
評価者	大坪 健司		

1-2 選択共通科目

9. 対人関係

選択共通科目

教科目名	対人関係	総時間数	コマ
目的	実践の場において、何らかの問題に直面し悩んでいる対象に対して、対象者の話を聴きながら、共感的に対象の経験や気持ちを理解しようとする上で必要な面接の機能や進め方など基本的な知識や技法について学習する。	15	7
講義日時	内容	担当教員	
① 9/ 4 (火) 2限	対人関係の心理学	小嶋 和重	
② 9/11 (火) 2限	コミュニケーションの再確認	小嶋 和重	
③ 9/18 (火) 2限	演習 コミュニケーションスキル①	小嶋 和重	
④ 9/25 (火) 2限	チーム医療で生じる問題	小嶋 和重	
⑤ 10/ 2 (火) 2限	専門知識を生かす環境づくり	小嶋 和重	
⑥ 10/ 9 (火) 2限	解決志向的なコミュニケーション	小嶋 和重	
⑦ 10/16 (火) 2限	演習 コミュニケーションスキル②	小嶋 和重	
教科書 参考図書	担当者が資料を作成		
評価方法	レポートA4 用紙 2枚程度		
配点	A:90点以上 B:80~89点 C:70~79点 D:69点以下		
試験日	平成24年10月22日 (レポート提出日)		
評価者	小嶋 和重		

10. 医療安全管理

選択共通科目

教科目名	医療安全管理		総時間数	コマ
目的	医療現場における安全管理をめぐる取り組みの経緯，医療事故発生メカニズムについて理解する。 また，実践の場において，看護の場において，看護師および他職種との連携を図り，医療事故を防止するための情報収集・分析・対策立案・評価・フィードバックを実践する能力を養う。		15	7
講義日時	内容		担当教員	
① 9/18 (火) 5限	医療安全とリスクマネジメントの動向		足塚則子	
② 9/25 (火) 4限	医療事故のメカニズム		足塚則子	
③ 9/25 (火) 5限	効率的な医療安全管理		足塚則子	
④ 10/ 9 (火) 4限	医療事故に対する倫理と法的問題		足塚則子	
⑤ 10/ 9 (火) 5限	リスクマネジメントのプロセス		足塚則子	
⑥ 10/16 (火) 4限	演習 臨床における医療事故の分析・対策（グループワーク）		足塚則子	
⑦ 10/16 (火) 5限			足塚則子	
教科書 参考図書	担当者が資料を作成 【参考文献】 ①リスクマネージャーのための医療安全実践ガイド：日本看護協会出版会，2009. ②山内桂子・山内隆久：医療事故—なぜ起こるのか、どうすればふせげるのか、朝日文庫，2005. ③医療安全，安全学研究会訳：ナカニシア出版，1998. ④河野龍太郎著：医療におけるヒューマンエラーなぜ間違えるどう防ぐ，医学書院，2004. ⑤平木典子著：アサーション・トレーニング—さわやかに自己表現—のために，日本・精神技術研究所，1993+. ⑥川村治了，医療安全ワークブック，医学書院 ⑦荒井俊行，井上知子，高瀬浩造，平林明美，裁判事例から読み解く，日本看護協会 ⑧河野 龍太郎：医療におけるニューマンエラー，医学書院			
評価方法	レポート：自分の経験したインシデント事例について分析し，対策を立案する過程をレポートにまとめる			
配点	A:90点以上 B:80～89点 C:70～79点 D:69点以下			
試験日	平成24年10月23日（レポート提出日）			
評価者	足塚則子			

1-3 専門基礎科目

1. がん看護学総論

専門基礎科目

教科目名	がん看護学総論	総時間数	コマ
目的	がん看護に必要な基礎知識を理解する。	15	7
講義日時	内容	担当教員	
① 9/13 (木) 4限	がん看護の専門性、発展と課題	中條 雅美	
② 9/14 (金) 5限	がん医療チームにおける看護の役割 (1) 他職種の専門性の理解 (2) コミュニケーションの技術 (3) 医療チームにおける看護師の役割	中條 雅美	
③ 9/20 (木) 4限	がん患者・家族の特徴 (身体・心理・社会的・スピリチュアルな特徴、トータルケア、がん患者のQOL、がん患者の家族、サバイバーシップなど)	岡本 愛	
④ 9/26 (水) 3限	がん患者を理解するために必要な概念 ① (セルフケア理論、ストレス・コーピング理論、自己効力感)	中條 雅美	
⑤ 10/ 4 (木) 4限	がん患者を理解するために必要な概念 ② (危機理論、障害者受容過程、家族看護理論等)	中條 雅美	
⑥ 10/11 (木) 4限	がん患者とリハビリテーション (1) 治療に伴うリハビリテーション (2) 機能維持のためのリハビリテーション	山下 英樹	
⑦ 10/18 (木) 1限	がん患者とヘルスプロモーション	中條 雅美	
教科書 参考図書	担当者が資料を作成 【中條先生の担当教科書】 ①佐藤栄子編著：事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門 日総研 【参考図書】 ① 小松源助・荒川義子訳：危機介入の理論と実際、川島書店 1997. ② ラザルスR /フォルクマンS著 本明寛他訳：認知的評価と対処の研究、ストレスの心理学実務教育出版、1991. ③ 大西和子、飯野京子編集：がん看護学、NOUVELLE HIROKAWA ④ 小島操子著：看護における危機理論・危機介入 第2版—フィンク /コーン /アギュレラ /ムース /家族の危機モデルから学ぶ、金芳堂、2008		
評価方法	筆記試験		
配点	A:90点以上 B:80～89点 C:70～79点 D:69点以下		
試験日	平成24年10月22日		
評価者	中條雅美		

2. ヘルスアセスメント

専門基礎科目

教科日名	ヘルスアセスメント	総時間数	コマ
目的	がん看護実践に必要なヘルスアセスメントの方法を理解する。	15	7
講義日時	内容	担当教員	
① 9/7(金)2限	アセスメントプロセスと フィジカルアセスメント(栄養代謝機能)	南前 恵子	
② 9/14(金)2限	精神・心理的アセスメント	南前 恵子	
③ 9/21(金)2限	フィジカルアセスメント(呼吸機能・循環機能)	平松喜美子	
④ 9/24(月)2限	フィジカルアセスメント(脳/神経機能、感覚・運動機能) 演習を含む	松浦 治代	
⑤ 9/24(月)3限	フィジカルアセスメント(脳/神経機能、感覚・運動機能) 演習を含む	松浦 治代	
⑥ 9/24(月)5限	社会的アセスメント(成長発達段階と役割など)	南前 恵子	
⑦ 10/1(月)1限	家族のアセスメント	鈴木 康江	
教科書 参考図書	担当者が資料を作成 演習時に注意事項 【教科書】 ①小野田千枝子監修, 実践 フィジカル・アセスメント 金原出版 【鈴木先生の参考図書】 ①小林奈美著, グループで学ぶ家族看護論, カルガリー式家族看護モデル実践のファーストステップ, 医歯薬出版		
評価方法	筆記試験		
配点	A:90点以上 B:80~89点 C:70~79点 D:69点以下		
試験日	平成24年10月23日		
評価者	平松喜美子		

3. 腫瘍学概論

専門基礎科目

教科目名	腫瘍学概論	総時間数	コマ
目的	がん看護実践に必要ながんに関連する医学的知識を理解する	15	7
講義日時	内容	担当教員	
① 9/ 5 (水) 4限	がんの診断方法：診断方法（画像、腫瘍マーカー、血液検査、病理など）	廣岡 保明	
② 9/ 5 (水) 5限	がん細胞の特徴：(2)細胞の発育過程（分裂、生殖、アポトーシス、シグナル伝達など）	久郷 裕之	
③ 9/ 6 (木) 4限	がんの集学治療	池口 正英	
④ 9/ 6 (木) 5限	がん細胞の特徴：(3)がん細胞の特徴（発生のメカニズム、増殖、浸潤、転移）	佐藤 建三	
⑤ 9/ 7 (金) 4限	がんの予防と検診(1)がんのリスク因子(2)がん検診の有効性	大石 徹郎	
⑥ 9/10 (月) 3限	がんの疫学 (1)統計（罹患率、死亡率）(2)がん登録システム	黒沢 洋一	
⑦ 9/14 (金) 3限	がん細胞の特徴：(1)細胞の構造（核、細胞質、細胞膜）	庄盛 浩平	
教科書 参考図書	担当者が資料を作成 【参考図書】 ①阿部薫他監訳：臨床腫瘍学マニュアルメディカル・サイエンス・インターナショナル ②河原栄監訳：ルービン基本病理学，西村書店 ③谷口直之他監訳：がんのベーシックサイエンス，日本語版第3版，メディカル・サイエンス・インターナショナル ④がん看護コアカリキュラム，日本がん看護学会・医学書院 2008. ⑤臨床腫瘍学，第3版，癌と化学療法者		
評価方法	筆記試験		
配点	A:90点以上 B:80～89点 C:70～79点 D:69点以下		
試験日	平成24年9月18日		
評価者	廣岡 保明		

4. がんの医療サービスと社会的資源

専門基礎科目

教科目名	がんの医療サービスと社会的資源	総時間数	コマ
目的	がん患者の療養の場の特性を理解し、療養生活に必要な支援を提供できる能力を身につける。	15	7
講義日時	内容	担当教員	
① 9/19(水) 4限	1) がんのチーム医療：チーム医療の必要性とあり方	大山 賢治	
② 9/27(木) 5限	1) がんのチーム医療(臨床腫瘍医, 臨床薬剤師, がん看護専門看護師, 他のがん領域の認定看護師, 理学療法士など)	上田 恵巳	
③ 10/12(金) 5限	2) がんの医療政策(診療報酬, がん診療連携拠点病院, 相談支援センターなど)	木山 由美子	
④ 10/17(水) 3限	3) がん患者と家族が活用できる社会資源(高額療養費制度, 在宅悪性腫瘍指導管理料, 在宅酸素療法など) 4) がんと医療経済(就労問題など)	新 明美	
⑤ 11/ 1(木) 5限	4) がんと医療経済(治療費)	新 明美	
⑥ 11/ 6(火) 4限	3) がん患者と家族が活用できる社会資源(身体障害者手帳, 介護保険)	金坂 尚子	
⑦ 11/ 7(水) 4限	3) 患者と家族が活用できる社会資源(がんサロン, 患者会等)	木山 由美子	
教科書 参考図書	担当者が資料を作成 【参考図書】 ①小島操子: がん対策推進基本計画を看護の視点で読み解く, 看護管理17(11), 970-977, 2007. ②厚生労働省HP: がん対策推進アクションプラン, 2005. がん対策基本法: がん対策推進基本計画, 診療報酬改定. ③平野明美: がん医療におけるソーシャルサポート, がん専門病院におけるソーシャルワーク, がん看護5(3), 190-193, 2000.		
評価方法	レポート		
配点	A:90点以上 B:80~89点 C:70~79点 D:69点以下		
試験日	平成24年11月26日(レポート提出日)		
評価者	木山 由美子		

1-4 専門科目

1. がん化学療法概論

専門科目

教科目名	がん化学療法概論		総時間数	コマ
目的	薬剤の開発プロセスとがん化学療法の適応基準，治療効果の判定方法を理解する。		15	7
講義日時	内容		担当教員	
① 9/14 (金)4限	1) メディカルオンコロジーの領域と専門性		小谷 昌広	
② 9/19 (水)5限	3) がん化学療法とEBM		島田 宗昭	
③ 9/21 (金)4限	2) がん化学療法の適応基準		佐藤 慎也	
④ 9/21 (金)5限	5) がん化学療法薬の開発から標準治療の確立まで		浪花 潤	
⑤ 10/1 (月)3限	6) がん化学療法による治療効果の評価		若月 俊郎	
⑥ 10/12 (金)4限	7) 臨床試験における倫理的課題		山本 智香	
⑦ 10/15 (月)4限	4) 臨床試験と治療コーディネーター		戸田なぎ子	
教科書 参考図書	担当者が資料を作成			
評価方法	筆記試験			
配点	A:90点以上 B:80～89点 C:70～79点 D:69点以下			
試験日	平成24年10月29日			
評価者	佐藤慎也			

2. がん化学療法薬の知識

専門科目

教科目名	がん化学療法薬の知識		総時間数	コマ
目的	がん化学療法で用いる薬剤の特性と作用機序を理解する。		15	7
講義日時	内容		担当教員	
① 9/26(水) 4限	がん化学療法で用いる薬剤の特性と作用機序①		板持 広明	
② 9/26(水) 5限	がん化学療法で用いる薬剤の特性と作用機序②		板持 広明	
③ 9/28(金) 2限	がん化学療法で用いる薬剤の副作用管理と取り扱い (抗がん剤)		秦 英司	
④ 9/28(金) 3限	がん化学療法における支持療法		斎藤 博昭	
⑤ 10/ 1(月) 4限	がん化学療法で用いる薬剤の副作用管理と取り扱い (分子標的療法薬)		長谷川一将	
⑥ 10/ 5(金) 5限	がん化学療法で用いる薬剤の副作用管理と取り扱い (ホルモン療法)		大谷 豊司	
⑦ 10/19(金) 5限	がん化学療法中にみられる精神症状 (うつ、せん妄、適応障害)に対する治療		山田 武史	
教科書 参考図書	担当者が資料を作成			
評価方法	筆記試験			
配点	A:90点以上 B:80～89点 C:70～79点 D:69点以下			
試験口	平成24年11月5日			
評価者	板持 広明			

3. 主な疾患のがん化学療法

専門科目

教科目名	主な疾患のがん化学療法		総時間数	コマ
目的	主な疾患の病態とその治療を理解し、がん化学療法の目的と適応について理解する。		30	15
講義日時	内容		担当教員	
① 10/ 1(月) 2限	がん化学療法の主な適応疾患（病態、治療方法、薬剤の理解） / 標準治療と最近の動向：消化器がん（食道がん）		建部 茂	
② 10/ 3(水) 4限	がん化学療法の主な適応疾患（病態、治療方法、薬剤の理解） / 標準治療と最近の動向：①造血器腫瘍（血液幹細胞移植含む）		本倉 徹	
③ 10/ 3(水) 5限	がん化学療法の主な適応疾患（病態、治療方法、薬剤の理解） / 標準治療と最近の動向：①泌尿器がん		八尾 昭久	
④ 10/ 9(火) 3限	がん化学療法の主な適応疾患（病態、治療方法、薬剤の理解） / 標準治療と最近の動向：消化器がん（大腸がん）		蘆田 敬吾	
⑤ 10/10(水) 4限	がん化学療法の主な適応疾患（病態、治療方法、薬剤の理解） / 標準治療と最近の動向：①肺がん		中村 廣繁	
⑥ 10/10(水) 5限	がん化学療法の主な適応疾患（病態、治療方法、薬剤の理解） / 標準治療と最近の動向：②肺がん		清水 英治	
⑦ 10/12(金) 2限	がん化学療法の主な適応疾患（病態、治療方法、薬剤の理解） / 標準治療と最近の動向：消化器がん（肝臓がん）		神納 敏夫	
⑧ 10/12(金) 3限	がん化学療法の主な適応疾患（病態、治療方法、薬剤の理解） / 標準治療と最近の動向：②造血器腫瘍		野村 憲一	
⑨ 10/15(月) 2限	がん化学療法の主な適応疾患（病態、治療方法、薬剤の理解） / 標準治療と最近の動向：消化器がん（胃がん）		池口 正英	
⑩ 10/17(水) 2限	がん化学療法の主な適応疾患（病態、治療方法、薬剤の理解） / 標準治療と最近の動向：頭部がん		片岡 英幸	
⑪ 10/17(水) 4限	がん化学療法の主な適応疾患（病態、治療方法、薬剤の理解） / 標準治療と最近の動向：①乳がん		石黒 清介	
⑫ 10/17(水) 5限	がん化学療法の主な適応疾患（病態、治療方法、薬剤の理解） / 標準治療と最近の動向：②乳がん		石黒 清介	
⑬ 10/18(木) 4限	がん化学療法の主な適応疾患（病態、治療方法、薬剤の理解） / 標準治療と最近の動向：①婦人科がん		佐藤 誠也	
⑭ 10/18(木) 5限	がん化学療法の主な適応疾患（病態、治療方法、薬剤の理解） / 標準治療と最近の動向：②婦人科がん		紀川 純三	
⑮ 11/ 2(金) 5限	がん化学療法の主な適応疾患（病態、治療方法、薬剤の理解） / 標準治療と最近の動向：消化器がん（膵臓がん）		松木 和也	
教科書 参考図書	担当者が資料を作成 【参考図書】 ① 国立がん研究センター内科レジデント編：がん診療 レジデントマニュアル 医学書院 ② Roland T Skeel著：がん化学療法ハンドブック, <i>メディカルサイエンス・インターナショナル</i> ③ 日本がん看護学会：がん化学療法・バイオセラピー, 看護実践ガイドライン, 医学書院, 2009. ④ 臨床腫瘍学, Third edition, 癌と化学療法社, 2003. ⑤ 濱口恵子, 本山清美編：がん化学療法ケアガイド, 中山書店, 2007.			
評価方法	筆記試験			
配点	A:90点以上 B:80～89点 C:70～79点 D:69点以下			
試験日	平成24年11月12日			
評価者	廣岡保明			

4. がん化学療法を受ける患者・家族のアセスメント

専門科目

教科日名	がん化学療法を受ける患者・家族のアセスメント	総時間数	コマ
目的	がん化学療法を受ける患者・家族の置かれている状況をふまえて、看護援助を効果的に実施するためのアセスメント方法を理解する。	15	7
講義日時	内容	担当教員	
① 10/26(金) 2限	1) がん化学療法を受ける患者・家族の置かれている状況	竹歳 祥江	
② 10/26(金) 3限	2) がん化学療法と身体的アセスメント	竹歳 祥江	
③ 11/10(土) 2限	3) がん化学療法と精神・心理的アセスメント (不安・抑うつ、適応障害、せん妄など)	鈴木志津枝	
④ 11/10(土) 3限	4) がん化学療法と社会的アセスメント	鈴木志津枝	
⑤ 11/10(土) 4限	5) がん化学療法とスピリチュアルなアセスメント	鈴木志津枝	
⑥ 11/16(金) 3限	6) 化学療法中の患者・家族の身体・心理・社会的アセスメント(事例検討)	田中 祐子 平松喜美子	
⑦ 11/16(金) 4限			
教科書 参考図書	担当者が資料を作成 【参考図書】 ①近藤まゆみ編：がんサバイバーシップ ②がん看護コアカリキュラム ③国立がん研究センター中央病院看護部編集：がん化学療法看護スキルアップテキスト 南江堂		
評価方法	レポート 課題：がん化学療法を受けている患者・家族の心理・社会的問題について理論を用いてアセスメントを展開		
配点	A:90点以上 B:80～89点 C:70～79点 D:69点以下		
試験日	平成24年11月26日(レポート提出日)		
評価者	田中祐子		

5. がん化学療法レジメンの特徴と看護

専門科目

教科目名	がん化学療法レジメンの特徴と看護		総時間数	コマ
目的	レジメンの特徴をふまえ、それに応じた看護を理解する。		15	7
講義日時	内容		担当教員	
① 10/15(月) 3限	がん化学療法の施行前の看護のポイント		青砥由美子	
② 10/26(金) 4限	がん化学療法レジメンの特徴と看護①与薬方法と与薬時の注意点		安達 直美	
③ 10/30(火) 3限	がん化学療法レジメンの特徴と看護②副作用の出現の仕方と特徴		北村 裕美	
④ 11/ 1(月) 3限	がん化学療法レジメンの特徴と看護③レジメンに伴う支持療法		三谷 洋美	
⑤ 11/ 1(月) 4限	がん化学療法レジメンの特徴と看護③レジメンに伴う支持療法		三谷 洋美	
⑥ 11/13(火) 3限	がん化学療法の施行中の看護のポイント		奥野 映子	
⑦ 11/13(火) 4限	がん化学療法の施行後の看護のポイント		奥野 映子	
教科書 参考図書	担当者が資料を作成 【教科書】 ①濱口恵子, 本山清美: がん化学療法ケアガイド, 中山出版 【参考図書】 ①飯野京子, 森文子: がん化学療法ナーシングマニュアル, 医学書院, 2009 ②小澤桂子・足利幸乃: ステップアップがん化学療法看護, 学研			
評価方法	筆記試験			
配点	A:90点以上 B:80~89点 C:70~79点 D:69点以下			
試験日	平成24年11月20日			
評価者	平松喜美子			

6. 薬剤の投与管理とリスクマネジメント

専門科目

教科目名	薬剤の投与管理とリスクマネジメント		総時間数	コマ
目的	がん化学療法薬の投与管理と安全な取り扱いを理解する。		30	15
講義日時	内容		担当教員	
① 10/29(月) 2限	2) 曝露対策：(1) リスク分類		大山 賢治	
② 10/29(月) 3限	1) 投与経路別の管理と事故防止 (1) 経静脈的投与：血管のアセスメント、穿刺手技、アクセス用具 (VADs:Vascular access device) の種類と特徴、適応、取扱上の注意点、皮下埋込式ポート		大山 賢治	
③ 10/30(火) 2限	2) 曝露対策：(2) 適切な防護（個人防護用具）、安全で適切な調剤、飛散への対応、排泄物の取り扱い、廃棄等		武田 賢一	
④ 11/ 2(金) 2限	2) 曝露対策：(2) 適切な防護（個人防護用具）、安全で適切な調剤、飛散への対応、排泄物の取り扱い、廃棄等		武田 賢一	
⑤ 11/ 6(火) 2限	1) 投与経路別の管理と事故防止 (3) 経口の投与		武田 賢一	
⑥ 11/ 8(木) 5限	1) 投与経路別の管理と事故防止 (1) 経静脈的投与②：血管のアセスメント、穿刺手技、アクセス用具 (VADs:Vascular access device) の種類と特徴、適応、取扱上の注意点、皮下埋込式ポート		大山 賢治	
⑦ 11/12(月) 5限	1) 投与経路別の管理と事故防止 (1) 経静脈的投与③：血管のアセスメント、穿刺手技、アクセス用具 (VADs:Vascular access device) の種類と特徴、適応、取扱上の注意点、皮下埋込式ポート		大山 賢治	
⑧ 11/13(火) 2限	2) 曝露対策：(2) 適切な防護（個人防護用具）、安全で適切な調剤、飛散への対応、排泄物の取り扱い、廃棄等		武田 賢一	
⑨ 11/13(火) 5限	1) 投与経路別の管理と事故防止 (2) 経動脈的投与：血管のアセスメント、穿刺手技、アクセス用具 (VADs:Vascular access device) の種類と特徴、適応、取扱上の注意点、皮下埋込式ポート		大山 賢治	
⑩ 11/16(金) 2限	がん化学療法中の感染管理：CDC (Centers of Disease Control and Prevention/アメリカ疾病予防局) ガイドラインに基づいた感染管理		武田 賢一	
⑪ 11/20(火) 2限	1) 投与経路別の管理と事故防止(4) その他の経路（皮下、筋肉、腔内注射など		武田 賢一	
⑫ 11/22(木) 2限	演習		秦 英司 大谷 豊司 田中 祐子 平松喜美子	
⑬ 11/22(木) 3限	がん化学療法の安全な取り扱い方			
⑭ 11/22(木) 4限	がん化学療法の安全な取り扱い方に関するスタッフ指導（計画立案・実施）			
⑮ 11/21(水) 5限	3) 救急時の対応・システム整備：血管外漏出時、腫瘍崩壊症候群、過敏症等		大山 賢治	
教科書 参考図書	担当教員が資料を作成 【参考図書】 ① 抗悪性腫瘍剤の院内取扱い指針、じほう、日本病院薬剤師会監修：2009。 ② 佐々木康綱編集：抗がん剤安全使用ハンドブック、医薬ジャーナル社、2001。 ③ 白戸四朗：抗悪性腫瘍剤を主とする細胞同棲薬剤の問題点、医療廃棄物研究。 ④ 佐藤禮子監訳：がん化学療法・バイオセラピー看護実践ガイドライン、医学書院、2009。			
評価方法	筆記試験			
配点	A:90点以上 B:80～89点 C:70～79点 D:69点以下			
試験日	平成24年11月26日			
評価者	大山 賢治			

7. がん化学療法に伴う症状の緩和とセルフケア支援

専門科目

教科目名	がん化学療法に伴う症状の緩和とセルフケア支援	総時間数	コマ
目的	がん化学療法に伴う症状の緩和技術とセルフケア支援を理解する。	45	22
講義日時	内容	担当教員	
① 10/26(金) 5限	1) セルフケア能力などのアセスメント	平松喜美子	
② 10/30(火) 4限	2) マネジメントのために必要な知識と技術： (1)薬物療法：皮膚障害④発疹，口内炎の支持療法に用いられる主な薬物とその使い方	北村 裕美	
③ 10/31(水) 2限	1) 副作用症状のアセスメント（症状の発生機序，患者の症状体験）	上田 恵巳	
④ 10/31(水) 3限	2) マネジメントのために必要な知識と技術： (1)薬物療法：①末梢神経障害の支持療法に用いられる主な薬物とその使い方	上田 恵巳	
⑤ 10/31(水) 4限	3) 患者・家族指導とセルフケア支援 (服薬指導，教材開発等) 入院/外来/在宅	田中 祐子	
⑥ 10/31(水) 5限	3) セルフマネジメントの評価方法（QOLなど）	平松喜美子	
⑦ 11/ 1(木) 2限	(1) 薬物療法：腎機能障害の支持療法に用いられる主な薬物とその使い方	田中 祐子	
⑧ 11/ 2(金) 3限	2) マネジメントのために必要な知識と技術 (2)非薬物療法（補完・代替療法）：栄養（食欲不振・味覚障害）	成瀬 隆弘	
⑨ 11/ 5(月) 3限	2) マネジメントのために必要な知識と技術 (2)非薬物療法（補完・代替療法）：メーキャップ技術 かつら	内尾 啓子	
⑩ 11/ 5(木) 4限	2) マネジメントのために必要な知識と技術： (1)薬物療法：②骨髄抑制の支持療法に用いられる主な薬物とその使い方	瀧田のぞみ	
⑪ 11/ 6(火) 3限	2) マネジメントのために必要な知識と技術 (2)非薬物療法（補完・代替療法）：リラクゼーションの理論と技法	小嶋 和重	
⑫ 11/ 6(火) 5限	2) マネジメントのために必要な知識と技術： 支持療法に用いられる主な薬物とその使い方，ｶﾞﾄﾞﾗｲﾝの活用	大槻 明広	
⑬ 11/ 7(水) 2限	事例検討 がん化学療法中の主要な副作用を緩和するためのアセスメントと必要な看護（骨髄抑制，末梢神経障害，便秘・下痢・悪心・嘔吐，皮膚障害）	田中 祐子 平松喜美子	
⑭ 11/ 7(水) 3限	2) マネジメントのために必要な知識と技術： (1)薬物療法：③便秘，下痢の支持療法に用いられる主な薬物とその使い方	東堤 慶子	
⑮ 11/ 8(金) 2限	事例検討	田中 祐子 平松喜美子	
⑯ 11/ 8(木) 3限	2) マネジメントのために必要な知識と技術	原 修治	
⑰ 11/ 8(木) 4限	(2)非薬物療法（補完・代替療法）：リンパマッサージの理論と技法		
⑱ 11/ 9(金) 2限	事例検討	田中 祐子 平松喜美子	
⑲ 11/12(月) 3限	事例発表	田中 祐子 平松喜美子	
⑳ 11/12(月) 4限	事例発表	田中 祐子 平松喜美子	
㉑ 11/15(木) 2限	(2)非薬物療法（補完・代替療法）：アロマセラピー	児島 由来	
㉒ 11/15(木) 3限	緩和技術・セルフケア支援に対する看護スタッフ指導の実際	田中 祐子	
教科書 参考図書	担当者が資料を作成 【参考図書】①佐々木康編：抗がん剤安全使用ハンドブック，医薬ジャーナル。 ② 栗原稔他編：がん化学療法の有害反応対策ハンドブック，先端医学社。 ③ 渡辺孝子他編：がん治療の副作用対策と看護ケア，先端医学社。 ④ マリン・ドット著，大西和子監：がん治療の副作用対策，照林社。 ⑤ 澤桂子・足利幸乃監修：ステップアップがん化学療法看護，Gakken，2008。 ⑥ 濱口恵子，本山清美編：がん化学療法ケアガイド，中山書店，2007。 ⑦ 看護学雑誌，特集がん化学療法セルフケア支援のABC，2003。 ⑧ セルフケア理論，メジェカ出版。		
評価方法	筆記試験		
配点	A:90点以上 B:80～89点 C:70～79点 D:69点以下		
試験日	平成24年11月26日		
評価者	平松喜美子		

8. がん化学療法に伴う患者・家族の意思決定を支える看護援助

専門科目

教科日名	がん化学療法に伴う患者・家族の意思決定を支える看護援助	総時間数	コマ
目的	がん化学療法を受ける患者・家族の意思決定プロセスについて理解し、場面に応じた看護師の役割を知る。	15	7
講義日時	内容	担当教員	
① 11/ 5(月) 2限	1), 4) 患者・家族の意思決定プロセスと意思決定に関する要因のアセスメント	谷村 千華	
② 11/12(月) 2限	2) インフォームドコンセントにおける看護師の役割	谷村 千華	
③ 11/19(月) 1限	5) 意思確認のコミュニケーション	深田 美香	
④ 11/19(月) 2限	6) 意思決定を支える看護援助②：情報提供の在り方と看護師の役割（代替・補完医療を含む）	深田 美香	
⑤ 11/19(月) 3限	3) 意思決定に伴う倫理的問題 演習 事例検討：倫理的ジレンマを生じた事例	中條 雅美	
⑥ 11/19(月) 4限			
⑦ 11/19(月) 5限			
教科書 参考図書	担当者が資料を作成 【参考図書】 ①A. Coulter 阿部恭子訳：意思決定の共有－概要と将来の問題－，がん看護，10(6)，546-550，2005. ②井上容子，足利幸乃：がん化学療法のインフォームドコンセントに伴う看護を考える。		
評価方法	レポート A4用紙2枚程度 体験した事例で意思決定場面についてそのプロセス，状況のアセスメント，看護介入について記述する		
配点	A:90点以上 B:80～89点 C:70～79点 D:69点以下		
試験日	平成24年11月26日(レポート提出日)		
評価者	中條雅美		

9. 外来・在宅がん化学療法と看護援助

専門科目

教科目名	外来・在宅がん化学療法と看護援助		総時間数	コマ
目的	他職種と共働し、患者・家族に切れ目のない看護支援を提供する方法を理解する。		15	7
講義日時	内容		担当教員	
① 10/29(月) 4限	1) 外来/在宅におけるがん化学療法看護の現状 (治療環境, ソーシャルサポートを含む)		木山由美子	
② 10/29(月) 5限	2) 外来/在宅でがん化学療法を受ける患者と家族を支援する看護師の役割		田中 祐子	
③ 11/ 2(金) 4限	3) 外来/在宅でがん化学療法を受ける患者の相談 (電話相談、専門外来など) とトリアージ		田中 祐子	
④ 11/ 5(月) 5限	4) 外来/在宅がん化学療法における他部門との共働 (ソーシャルワーカー、訪問看護師、介護福祉士、ケアマネージャーなど)		金坂 尚子	
⑤ 11/ 7(水) 5限	5) 継続看護の体制について (入院から外来/在宅治療への移行, 地域連携拠点病院との連携)		金坂 尚子	
⑥ 11/14(水) 2限	演習 外来/在宅がん化学療法中の患者事例を用いたアセスメントと援助の実際		木山由美子 田中 祐子 平松喜美子	
⑦ 11/14(水) 3限				
教科書 参考図書	担当者が資料を作成 【参考図書】 ①垣添忠生監修: QOL向上を目指した癌の外来化学療法マニュアル, メディカルレビュー社. ②濱口忠子, 本山清美編: がん化学療法ケアガイド, 中山書店, 2007. ③特集 がんの外来化学療法, 癌と化学療法, 27(11), 2003. ④特集 外来がん化学療法のすすめ, がん看護, 8(5), 2003.			
評価方法	レポート A4用紙2枚程度			
配点	A:90点以上 B:80~89点 C:70~79点 D:69点以下			
試験日	平成24年11月26日 (レポート提出日)			
評価者	田中祐子			

1-5 臨地実習

臨地実習 I		実習	
教科目名	臨地実習 I	総時間数	コマ
目的	①がん化学療法が行われている病棟や外来において、がん化学療法薬を安全かつ的確に取り扱い、経静脈投与、管理を適切に行う（各自の施設でおこなってもよい） ②がん化学療法を安全・確実に実施するためのシステムについて理解し、自施設のシステムにおける課題を明確にする。	45	1週間
実習期間	内容	担当教員	
12月12日（水）～ 12月18日（火）	実習要項参照	中條 雅美 田中 祐子 平松喜美子	
教科書 参考図書	適宜紹介		
評価方法	実習成果物		
配点	A:90点以上 B:80～89点 C:70～79点 D:69点以下		
試験日			
評価者	中條雅美		

臨地実習Ⅱ

実習

教科目名	臨地実習Ⅱ		総時間数	コマ
目的	①がん化学療法が行われている病棟や外来において、がん化学療法中の患者を（3事例程度）受け持ち、看護実践を行う。 ②がん化学療法看護について、看護スタッフに具体的な指導を行う ③がん化学療法看護に専門的に関わっている看護師（専門看護師、認定看護師など）の活動をとおして、認定看護師の役割を考える。		135	4週間
実習期間	内容		担当教員	
1月15日（火）～ 2月8日（金）	実習要項参照		中條 雅美 田中 祐子 平松喜美子	
教科書 参考図書	適宜紹介			
評価方法	実習成果物			
配点	A:90点以上 B:80～89点 C:70～79点 D:69点以下			
試験日				
評価者	中條雅美			

1-6 総合演習

総合演習		演習	
教科目名	総合演習	総時間数	コマ
目的	演習を通して認定看護師の実践の基礎となる思考過程や技術を習得する	60	30
講義日時	内容	担当教員	
① 10/24(水) 2限	最新のトピックスに関すること	平松 喜美子	
② 10/24(水) 3限	ゴードンの機能的健康パターンについて		
③ 10/24(水) 4限	看護過程の展開 , クリティカルシンキング		
④ 10/24(水) 5限			
⑤ 10/25(木) 2限	コミュニケーション, 面接技法	中條 雅美	
⑥ 10/25(木) 3限	演習: コミュニケーション, 面接技法	中條 雅美	
⑦ 10/25(木) 4限		田中 祐子	
⑧ 10/25(木) 5限			
⑨ 11/20 (火) 3限	発表および討論 (コミュニケーション, 面接技法)	中條 雅美	
⑩ 11/20 (火) 4限		田中 祐子	
⑪ 11/20 (火) 5限			
⑫ 12/19 (水) 2限	提示した事例の看護過程をまとめる	平松 喜美子	
⑬ 12/19 (水) 3限		田中 祐子	
⑭ 12/19 (水) 4限			
⑮ 12/20 (木) 2限	発表・討論 提示した事例の看護過程について	平松 喜美子	
⑯ 12/20 (木) 3限		田中 祐子	
⑰ 12/20 (木) 4限			
⑱ 2/12 (火) 2限	主要概念を用いた看護過程の展開①臨地実習の事例の分析	平松 喜美子	
⑲ 2/12 (火) 3限		田中 祐子	
⑳ 2/12 (火) 4限			
㉑ 2/13 (水) 2限	主要概念を用いた看護過程の展開①臨地実習の事例の分析	平松 喜美子	
㉒ 2/13 (水) 3限		田中 祐子	
㉓ 2/13 (水) 4限			
㉔ 2/14 (木) 2限	主要概念を用いた看護過程の展開①臨地実習の事例の分析	平松 喜美子	
㉕ 2/14 (木) 3限		田中 祐子	
㉖ 2/14 (木) 4限			
㉗ 2/14 (木) 5限			
㉘ 2/15 (金) 2限	発表・討論 主要概念を用いた看護過程の展開①臨地実習の事例の分析	平松 喜美子	
㉙ 2/15 (金) 3限		中條 雅美	
㉚ 2/15 (金) 4限		田中 祐子	
教科書 参考図書	①江川隆子 編集: ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断, NOUVELLE HIROKAWA		
評価方法	記録物		
配点	A:90点以上 B:80~89点 C:70~79点 D:69点以下		
試験日			
評価者	中條雅美		

2. 東京理科大学 がんシステム・創薬研究者養成コース

2-1 シラバス

科目名称	基礎生物化学特論		
科目名称 (英語)			
授業名称	基礎生物化学特論		
教員名	田沼 靖一、深井 文雄、内海 文彰、宮崎 智、秋本 和憲		
開講年度学期	2012年度 前期		
曜日時限	木曜 3限		
開講学科	薬学研究科 薬科学専攻		
単位	2.0	学年	1 学年
科目区分	創薬科学・生命薬科学分野	履修形態	選択
授業の概要・目標	専門的学術雑誌等に掲載されている最新の生化学と将来の展開について議論する。		
履修上の注意	生化学1と2、分子生物学、分子細胞生物学を履修していることが望ましい。		
準備学習・復習	各回の内容について、学術雑誌等で関連する分野の研究について調べておいたほうが良い。また、授業が終わった後でその部分の理解を深めるために復習をすることが望ましい。		
成績評価方法	セミナー形式のプレゼンテーション、あるいはレポートなどから総合的に評価する。		
教科書	特に用いない。		
参考書	特に用いない。		
授業計画	<p>1 基礎生化学ゼミ (1) 生化学の分野において医療に関連する学術専門雑誌から幾つかの報告について詳しく解説し、その意義と問題点等について明らかにする。</p> <p>2 基礎生化学ゼミ (2) 生化学の分野において薬学に関連する学術専門雑誌から幾つかの報告について詳しく解説し、その意義と問題点等について明らかにする。</p> <p>3 基礎生化学ゼミ (3) 生化学の基礎及び応用について、特に医療への貢献の可能性を視野に入れたうえでの発展的総合討論を行う。</p> <p>4 基礎生化学ゼミ (4) 遺伝子工学の分野において医療に関連する学術専門雑誌から幾つかの報告について詳しく解説し、その意義と問題点等について明らかにする。</p> <p>5 基礎生化学ゼミ (5) 遺伝子工学の分野において薬学に関連する学術専門雑誌から幾つかの報告について詳しく解説し、その意義と問題点等について明らかにする。</p>		

授業計画	<p>6 基礎生化学ゼミ (6) 遺伝子工学の基礎及び応用について、特に医療への貢献の可能性を視野に入れたうえでの発展的総合討論を行う。</p> <p>7 基礎生化学ゼミ (7)【担当：宮崎】 ゲノム情報の収集と活用法について学ぶ。</p> <p>8 基礎生化学ゼミ (8)【担当：宮崎】 次世代シーケンサーをもとにした情報解析技術について習得する。</p> <p>9 基礎生化学ゼミ (9)【担当：宮崎】 マイクロアレイデータの習得法およびデータ解析手法について講義する。</p> <p>10 基礎生化学ゼミ (10)</p> <p>11 基礎生化学ゼミ (11)</p> <p>12 基礎生化学ゼミ (12)</p> <p>13 基礎生化学ゼミ (13)【担当：秋本】 PCRを用いた様々な解析手法について講義する。</p> <p>14 基礎生化学ゼミ (14)【担当：秋本】 RNAiを用いた様々な解析手法について講義する。</p> <p>15 基礎生化学ゼミ (15)【担当：秋本】 生化学の応用について、特に臨床医療への貢献の可能性を視野に入れたうえでの発展的総合討論を行う。</p>
備考	なし
993BK03	

科目名称	基礎薬物治療学特論		
科目名称 (英語)			
授業名称	基礎薬物治療学特論		
教員名	岡 淳一郎、高澤 涼子、樋上 賀一、廣田 孝司、山下 親正		
開講年度学期	2012年度 後期		
曜日時限	木曜3限		
開講学科	薬学研究科 薬科学専攻 (修士課程)		
単位	2.0	学年	1・2年
科目区分	専門科目	履修形態	選択
授業の概要・目標	<p>薬学部で学習した知識を基盤として発展させ、各種疾患に対する薬物治療について、病態生理・解剖学・薬物動態・製剤化 (DDS)・作用機序・薬物治療の個別化と分子標的薬の各観点から、担当教員の研究成果に基づく専門性を生かして、より具体的に内容を理解できるように説明を行う。薬物治療に関する分子レベルから臨床までの現状と問題点を把握し、今後開発されるべき新しい治療薬についての独自の考察ができるようになることを目標とする。</p> <p>本特論により、将来治療薬開発に係る医療分野に必要な知識を身につけることが可能である。</p>		
履修上の注意	本特論をきっかけにして、興味を持ったテーマについて、さらに深く自ら学び考えを深めることで、上記の目標を達成すること。		
準備学習・復習	薬学部で受講した関連講義の内容を復習しておくこと。各回の内容についてよく復習し、配布資料をもとにさらに深く自ら学び考えを深めること。		
成績評価方法	授業中の討論への参加状況 (20%程度) とレポート (80%程度) で総合的に評価する。		
教科書	なし		
参考書	初回及び随時紹介する。		
授業計画	<p>第1回 老化研究の現状【樋上 賀一】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老化研究の現状を説明できる。 ・寿命制御に関連する遺伝子を説明できる。 <p>第2回 抗老化・寿命延長作用を有するカロリー制限について【樋上 賀一】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カロリー制限の分子メカニズムに関して説明できる。 <p>第3回 健康寿命の延伸について【樋上 賀一】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥満症・糖尿病やメタボリックシンドロームなどの病態を説明できる。 ・代謝制御を介する肥満症、糖尿病やメタボリックシンドロームに対する治療法や健康寿命延伸法に関して説明できる。 <p>第4回 薬物動態【廣田 孝司】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物動態に関わる代表的なパラメーターを理解する。 ・患者固有の薬動的パラメーターを用いて投与設計ができる。 (時間外学習の指示) 学部3年生の薬剤学 (後半の生物薬剤学分野) と薬物動態学を事前に復習しておくこと。 <p>第5回 臨床薬物動態【廣田 孝司】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床での治療 (または毒性) 発現時に見られる薬物動態的課題 (排泄、分布、組織内滞留性) について理解できる。 		

授業計画	<p>第6回 薬物動態と安全性 【廣田 孝司】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の開発段階での、薬物代謝予測と毒性予測について理解できる。 <p>第7回 吸入システム設計（肺の生理学的・解剖学的特徴）【山下 親正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吸入システムを設計するためには肺の生理学的・解剖学的な知識が必要であり、これらの内容を理解し、説明できる。 <p>第8回 吸入システム設計（吸入剤と吸入デバイス）【山下 親正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吸入システムは製剤とデバイスの組み合わせからなっており、肺分布に及ぼす製剤学的及びデバイス側の要因を理解し、説明できる。 <p>第9回 吸入システム設計（前臨床試験、レギュレーション）【山下 親正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吸入システムを構築するためには、各種動物ごとに経肺投与システムを確立して前臨床試験を実施する必要があり、更に申請時にはレギュレーションに適合することが要求されるので、各種動物における経肺投与システムとレギュレーションの内容を理解し、説明できる。 <p>第10回 中枢疾患治療薬の作用機序 (1)【岡 淳一郎】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳の機能と神経活動について説明できる。 （時間外学習の指示）学部3年生の薬理学1を事前に復習しておくこと。 <p>第11回 中枢疾患治療薬の作用機序 (2)【岡 淳一郎】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経疾患治療薬の作用機序を説明できる。 <p>第12回 中枢疾患治療薬の作用機序 (3)【岡 淳一郎】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患治療薬の作用機序を説明できる。 <p>第13回 薬物治療の個別化と分子標的薬 (1)【高澤 涼子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんの分子標的治療薬の概要を理解できる。 ・ターゲット別に、がん分子標的治療薬の研究の経緯、作用機序を、具体的な薬剤を例に挙げて説明できる。[増殖因子受容体、細胞内シグナル関連、血管新生関連、細胞表面のマーカー] <p>第14回 薬物治療の個別化と分子標的薬 (2)【高澤 涼子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ターゲット別に、がん分子標的治療薬の研究の経緯、作用機序を、具体的な薬剤を例に挙げて説明できる。[免疫のマーカー、細胞周期・アポトーシス・ネクローシス、がん遺伝子・がん抑制遺伝子・small RNA、転移・微小環境、その他] <p>第15回 復習および理解度を評価する（レポート課題）。</p> <p>*各回の授業は基本的に講義形式で行う。第4回の一部は演習形式で行う。</p>
備考	なし
993BK04	

科目名称	基礎衛生薬学特論		
科目名称 (英語)			
授業名称	基礎衛生薬学特論		
教員名	鍛冶 利幸、武田 健		
開講年度学期	2012年度 後期		
曜日時限	火曜 2限		
開講学科	薬学科、生命創薬科学科		
単位	2.0	学年	3年
科目区分	専門科目	履修形態	YP：必修 YM：選択
授業の概要・目標	<p>薬学は「薬を創り」「薬の作用機構を解明し」「薬を正しく有効に使う」ための科学であるとして一般に認識されているが、「疾病予防と健康増進」もまた薬学の重要な役割である。そして、それを担う薬学の領域が環境・衛生薬学である。医学部における環境・衛生薬学に近い分野として予防医学があるが、その大部分は医師が行う実践的な疾病予防対策と病因解明のための疫学である。環境・衛生薬学は、疾病の原因究明や化学物質の生体影響とその分子機構の解明を通じて疫病予防と健康増進に寄与しようとするところに特徴がある。</p> <p>化学物質は医薬品だけでなく、食品添加物、農薬、化粧品など多様な用途で多量に使用され、人の豊かな生活を支えている。しかしながら、化学物質は生体にとっては異物であり、人の健康を傷害する可能性が常にある。「化学物質の生体影響」では、第一に、化学物質の毒性発現の決定要因とされる化学物質の体内動態について学習する。その中で特に重要な物質代謝については、シトクロム P450 を中心とする薬物代謝酵素系、解毒および代謝的活性化反応などを学習する。第二に、慢性毒性（微量化学物質の長期間摂取による健康障害）の中で特に重要な発癌について学習する。第三に、化学物質の毒性に関連する事項、例えば毒性試験法、生体防御因子、毒性評価の概念、法的防止措置、予防対策などについて学習する。第四に、主な中毒原因物質、中毒症状、解毒法などについて学習する。</p> <p>ある薬に有害な作用が見つければ、人はそれを排除して生きることができる。しかしながら、例えば環境汚染物質は水環境や大気環境を経て食品に蓄積するので環境汚染物質を完全に排除して生活することは不可能である。「化学物質の生体影響」では、人と化学物質の接点から人の健康と化学物質の毒性・安全性を理解し、人の疾病予防と健康増進に貢献するための基礎を身につけることを目標としている。</p>		
履修上の注意	薬学は「薬の科学」であるが、同時に「健康の科学」でもある。疾病予防と健康増進を目的とする衛生薬学は、「健康の科学」としての薬学の主要な構成部分である。「化学物質の生体への影響」を「栄養と健康」「生活環境と健康」「社会・集団と健康」とシリーズで学んでこそ、人の健康の維持・増進に貢献するための薬学を修得することができる。そうした大きな目を持って、個々の問題を学んでほしい。		
準備学習・復習	事前にシラバスを確認し、受講後にはノートと教科書を照らし合わせて復習すること。		
成績評価方法	出席状況を前提として、単位試験の成績で評価することを原則とする。		
教科書	衛生薬学 -健康と環境- 平塚 明、姫野誠一郎、永沼 章 編 (丸善)		
参考書	衛生薬学 佐藤政男、中川靖一、川嶋洋一、鍛冶利幸、名取泰博 編 (南江堂) コンパス衛生薬学 -健康と環境- 鍛冶利幸、佐藤雅彦 編 (南江堂)		

授業計画	<p>第1講義 「化学物質の生体影響」概説 薬学における「化学物質の生体影響」の位置付けとこの授業の内容について学習する。 1. 人と化学物質の関係を概説し、自分の考えを述べることができる。</p> <p>第2講義 化学物質の体内動態について学習する。 1. 代表的な有害化学物質の吸収、分布、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。 (薬コアカリ SBOs) C12 (1) 1-1</p> <p>第3講義～第5講義 化学物質の代謝について学習する。 1. 第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。 2. 第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。 (薬コアカリ SBOs) C12 (1) 1-2～3</p> <p>第6講義～第7講義 慢性毒性の中で特に重要な発癌とその関連事項について学習する。 1. 発がん性物質などの代謝活性化の機構を列挙し、その反応器呼応を説明できる。 2. 変異原性試験 (Ames 試験など) の原理を説明し、実施できる。 3. 発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。 4. 代表的ながん遺伝子と癌抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。 (薬コアカリ SBOs) C12 (1) 2-1～4</p> <p>第8講義～第10講義 化学物質の毒性に関連する毒性試験法、生体防御因子、毒性評価の概念、法的防止措置、予防対策等について学習する。 1. 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。 2. 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す化学物質を列挙できる。 3. 重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。 (薬コアカリ SBOs) C12 (1) 3-1～3</p> <p>第11講義 化学物質に対する生体側の応答について学習する。 1. 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。 2. 毒性試験の結果を評価するのに必要な量－反応関係、閾値、無毒性量 (NOAEL) などについて概説できる。 (薬コアカリ SBOs) C12 (1) 3-4～5</p> <p>第12講義～第13講義 1. 化学物質の安全摂取量 (1日許容摂取量など) について説明できる。 2. 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制 (化審法など) を説明できる。 3. 環境ホルモン (内分泌攪乱化学物質) が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。 (薬コアカリ SBOs) C12 (1) 3-6～8</p> <p>第14講義～第15講義 化学物質による中毒とその処置について、基本的事項を学習する。 1. 代表的な中毒原因物質の解毒処理法を説明できる。 2. 化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。 (薬コアカリ SBOs) C12 (1) 4-1～2</p>
備考	なし
993BK05	

科目名称	医薬科学特論		
科目名称 (英語)			
授業名称	医薬科学特論		
教員名	小茂田 昌代、海保 房夫、嶋田 修治		
開講年度学期	2012年度 前期		
曜日時限	集中講義		
開講学科	薬科学専攻修士課程		
単位	2.0	学年	1~2年
科目区分	医薬科学分野	履修形態	選択
授業の概要・目標	<p>本科目は、「臨床試験に関する論文を批判的に吟味するスキル」「臨床試験をデザインする基本的スキル」を身につけることを目的とする。</p> <p>新薬が承認されるまでには、患者を対象とした臨床試験がデザインされ実施されるため、臨床開発や創薬研究に興味がある学生には非常に重要なスキルである。具体的には、「臨床論文の批判的吟味」「症例検討」「臨床試験デザイン」を演習形式で学ぶ。薬学科6年選択「薬物治療最前線」と相乗りする形で実施されるため、両学科生と一緒にSGDを行うことで、お互いに補完しあい、患者をイメージできる創薬研究者の育成を目指す。</p>		
履修上の注意	がんプロコースの学生は必ず履修すること。その他の学生も履修を歓迎する。土曜日の集中授業形式で行うため、授業日程を確認すること。		
準備学習・復習	事前に課題にはしっかり準備をして臨み、授業で十分に理解できなかった項目については事後に確実に復習すること。		
成績評価方法	SGD、発表態度、レポートなどから総合的に判定する。		
教科書	講義中に指定する。		
参考書	講義中に指定する。		
授業計画	<p>第1回 6月2日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学的医根拠に基づくガイドラインを理解できる。【担当：小茂田】 <p>第2回～5回 6月2日(土)</p> <p>臨床論文の批判的吟味、症例検討(薬物治療のエビデンスを処方提案に活かすための演習)</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学的根拠に基づくガイドラインを活用できる。 臨床研究論文を批判的に吟味できる。 症例を提示できる。 症例について薬学的問題点を指摘できる。 <p>コアカリ SBOs：アドバンスト演習のため該当なし【担当：小茂田、海保、嶋田】</p> <p>第6回～9回 6月9日(土)</p> <p>臨床論試験デザイン演習(薬物治療のエビデンスを創るために臨床研究デザインを学ぶ演習)</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床研究デザインの種類と違いを説明できる。 薬学的問題点を整理できる。 薬学的問題解決に向けた臨床研究をデザインできる。 <p>コアカリ SBOs：アドバンスト演習のため該当なし【担当：小茂田、海保、嶋田】</p>		

授業計画	<p>第10回～14回 6月16日(土)</p> <p>がんチーム医療演習</p> <ul style="list-style-type: none">・がん専門薬剤師制度を概説できる。・緩和薬物療法における薬剤の使い分けを理解できる。・がん薬物療法の概略を説明できる。がんレジメン管理の重要性を説明できる。・がん治療におけるチーム医療の重要性を理解し、抗がん剤のレジメン管理など適正使用への関わりを理解できる。 <p>コアカリ SBOs：アドバンスト演習のため該当なし【担当：小茂田、海保、嶋田】</p> <p>第15回</p> <p>がんチーム医療演習の課題レポート作成。【担当：小茂田、海保、嶋田】</p>
備考	集中授業であるため、途中からの参加は原則認めない。
993BK07	

2-2 修士課程授業科目・単位表

別表第4（第5条・第7条関係）

修士課程授業科目・単位表

薬学研究科
(薬科学専攻)

専門分野 (部門)	授業科目	単位	必修 選択	の別	標準 履修年次	備考
創薬科学 生命薬科学 医薬科学	基礎有機化学特論	2	選	択	1~2	
	基礎物理化学特論	2	選	択	1~2	
	基礎生物化学特論	2	選	択	1~2	
	基礎薬物治療学特論	2	選	択	1~2	
	基礎衛生薬学特論	2	選	択	1~2	
	基礎天然物薬品学特論	2	選	択	1~2	
	医薬科学特論	2	選	択	1~2	
	薬科学研究技法演習 A	2	選	択	1	
	薬科学研究技法演習 B	2	選	択	2	
	薬科学研究論文演習 A	2	選	択	1	
	薬科学研究論文演習 B	2	選	択	2	
	薬学特別実験 1	8	必	修	1	
	薬学特別実験 2	8	必	修	2	

【履修方法】

- ・特論科目：4科目 8単位以上
- ・演習科目：3科目 6単位以上
- ・薬学特別実験 1、2：2科目 16単位

合計 30 単位以上を修得すること。

3. 明治薬科大学 がん薬物療法のファーマシー・サイエンティスト養成教育コース

3-1 シラバス

明治薬科大学大学院 薬学専攻シラバス

2012 年度 前期 (医療薬学分野 特論)

科目名：薬物治療学 I 特論
Pharmacotherapy I

科目責任者：越前 宏俊

講義概要（学問分野、主たる講義項目）と目標：

薬剤師が薬物治療を患者の病態に基づいて理解し、その時点での最良のエビデンスを知悉し薬物療法に関して薬物選択から治療計画の立案に関与できる能力を涵養することと、治療経過のモニタリングに関与出来る知識と技能・能力を養成することを目標とする。教育方法においては Case study による自己学習能力の養成を重視する。

講義計画：

回数	担当者	テーマ	内 容
1	越前 宏俊	循環器疾患の薬物治療	N Engl J Med の Case record を用いた授業
2	越前 宏俊	循環器疾患の薬物治療	N Engl J Med の Case record を用いた授業
3	越前 宏俊	循環器疾患の薬物治療	N Engl J Med の Case record を用いた授業
4	越前 宏俊	血液疾患の薬物治療	N Engl J Med の Case record を用いた授業
5	越前 宏俊	神経疾患の薬物治療	N Engl J Med の Case record を用いた授業
6	越前 宏俊	消化器疾患の薬物治療	N Engl J Med の Case record を用いた授業
7	越前 宏俊	炎症性疾患の薬物治療	N Engl J Med の Case record を用いた授業
8	越前 宏俊	内分泌疾患の薬物治療	N Engl J Med の Case record を用いた授業
9	越前 宏俊	悪性疾患の薬物治療	N Engl J Med の Case record を用いた授業
10	越前 宏俊	小児科疾患の薬物治療	N Engl J Med の Case record を用いた授業

テキスト：N Engl J Med のアーカイブ

参考書：

Koda-Kimble and Young's Applied Therapeutics: The Clinical Use of Drugs, 10th ed. Brian K. Alldredge et al. Lippincott Williams & Wilkins, 2012.

成績評価の方法：出席、レポート

明治薬科大学大学院 薬学専攻シラバス
2012年度 前期(医療薬学分野 演習)

科目名：薬物治療学Ⅰ演習

科目責任者：越前 宏俊

演習の概要と目標：

講義により得た薬物治療学の知識を、演習を通して確認し、そのうえで個々の病態についての最新の知識を獲得する技法を会得することを目標とする。

講義計画：

回数	担当者	テーマ	内 容
1	越前 宏俊	循環器疾患の薬物治療	特論テーマの症例の SOAP 作成
2	越前 宏俊	循環器疾患の薬物治療	特論テーマの症例の SOAP 作成
3	越前 宏俊	循環器疾患の薬物治療	特論テーマの症例の SOAP 作成
4	越前 宏俊	血液疾患の薬物治療	特論テーマの症例の SOAP 作成
5	越前 宏俊	神経疾患の薬物治療	特論テーマの症例の SOAP 作成
6	越前 宏俊	消化器疾患の薬物治療	特論テーマの症例の SOAP 作成
7	越前 宏俊	炎症性疾患の薬物治療	特論テーマの症例の SOAP 作成
8	越前 宏俊	内分泌疾患の薬物治療	特論テーマの症例の SOAP 作成
9	越前 宏俊	悪性疾患の薬物治療	特論テーマの症例の SOAP 作成
10	越前 宏俊	小児科疾患の薬物治療	特論テーマの症例の SOAP 作成

テキスト：N Engl J Med のアーカイブ

参考書：

Koda-Kimble and Young's Applied Therapeutics: The Clinical Use of Drugs, 10th ed. Brian K. Alldredge et al. Lippincott Williams & Wilkins, 2012.

成績評価の方法：出席、プレゼンテーションの内容、レポート

明治薬科大学大学院 薬学専攻シラバス
2012年度 前期(医療薬学分野 特論)

科目名：病態生理学特論
Medical Physiology

科目責任者：石橋 賢一

講義概要（学問分野、主たる講義項目）と目標：

【目標】

内科疾患を中心に、病気の原因と悪化因子などが細胞のレベルで説明できる。

【授業計画】

過去3年間の論文から病因や病態のメカニズムをあきらかにしたものをを選び、背景を説明したあと、グループに分かれて何がわかっていないかを中心に討論する。そのあと論文があきらかにした点について講義する。再び論文の問題点、疑問点についてグループで討論する。最後に全体で討論する。これを3つくらいの論文についてくりかえす。最後に最近の関連した話題について講義する。これによって学生は論文の吟味だけでなくその分野のホットトピックスについても精通できる。

講義計画：

回数	担当者	テーマ	内 容
1	石橋 賢一	ストレス・毒への細胞反応	細胞適応、障害、死。肥大、増殖、萎縮、化生
2	石橋 賢一	急性・慢性炎症	炎症の分子基盤、創傷治癒、肉芽腫
3	石橋 賢一	組織再生	幹細胞、細胞周期、増殖因子、血管新生
4	石橋 賢一	循環障害・血栓症	止血、凝固、DIC、塞栓、梗塞、ショック
5	石橋 賢一	遺伝性疾患	メンデル遺伝、染色体異常、非メンデル遺伝
6	石橋 賢一	免疫疾患	自己免疫疾患、移植免疫、免疫欠損症
7	石橋 賢一	新生物	癌の分子基盤、発癌機構、転移機構、癌免疫
8	石橋 賢一	感染症	細菌感染、ウイルス感染、真菌感染、寄生虫
9	石橋 賢一	環境・栄養障害	金属毒、薬害、熱中症、栄養欠乏、肥満
10	外部講師	発生・成長障害	発生生物学の臨床応用

テキスト：プリント

参考書：

Kumar V et al.: Pathologic Basis of Disease, 18th edition (2010)

Alberts B et al.: Molecular Biology of the Cell, 5th edition (2008)

Longo D, et al: Harrison's Principles of Internal Medicine, 18th Edition (2011)

成績評価の方法：出席、レポート

教員からメッセージ：病理総論について復習しておいてください。

明治薬科大学大学院 薬学専攻シラバス
2012年度 前期(医療薬学分野 演習)

科目名：病態生理学演習

科目責任者：石橋 賢一

演習の概要と目標：

【目標】

演習を通じて、病気の原因やメカニズムをあきらかにする研究とはどのように行われるかを体得することができる。

【授業計画】

過去1年間の Nature, Cell, Science の論文から病気と関連したのを選択する。当番のプレゼンターが背景を詳細に説明する。その後の論文の図の説明は聴衆の中からボランティアが説明する。その後、全員で討論する：「次にどんな実験をするか」、「レフリーの立場に立って、この論文を批判的に解説せよ」、「この論文で最も弱い部分はどこか、そしてそれを補うために何をすべきか」等々。これを3つくらいの論文で比較する。

講義計画：

回数	担当者	テーマ	内 容
1	石橋 賢一	血管の異常	血管内皮、平滑筋の細胞学的側面
2	石橋 賢一	感染症	ウイルス受容体、自然免疫、結合組織反応
3	石橋 賢一	腫瘍	癌遺伝子、増殖因子、癌免疫、幹細胞
4	石橋 賢一	自己免疫疾患	サイトカイン、細胞性免疫、免疫応答遺伝子
5	石橋 賢一	代謝異常	新規ホルモン、受容体、シグナリング、遺伝子発現
6	石橋 賢一	中毒	解毒機序、細胞毒性、生体反応、代謝
7	石橋 賢一	変性疾患	オートファジー、アポトーシス、プロテオソーム
8	石橋 賢一	先天性疾患	発生、細胞分化、細胞毒、小胞体ストレス
9	石橋 賢一	薬物障害	細胞毒、代謝酵素、解毒機構、構造機能相関
10	石橋 賢一	特発性疾患	原因不明疾患へのアプローチ

テキスト：プリント。ジャーナルからの論文と、それに関するレビューや editorial が参考になる。

参考書：

Kumar V et al.: Pathologic Basis of Disease, 18th edition (2010)

Alberts B et al.: Molecular Biology of the Cell, 5th edition (2008)

Longo D, et al: Harrison's Principles of Internal Medicine, 18th Edition (2011)

成績評価の方法：出席、発表態度、質疑応答、レポート

教員からメッセージ：

研究の背景が理解できるように、関連する生物学や病気の知識（病理学）も復習してください。

明治薬科大学大学院 薬学専攻シラバス
2012年度 後期(医療薬学分野 特論)

科目名：医薬品情報学特論
Clinical Drug Information

科目責任者：岸野 吏志

講義概要（学問分野、主たる講義項目）と目標：

医薬品を適正に使用するためには、膨大な医薬品情報の中から適切な情報を取捨選択し、活用する必要がある。そこで、医療チームの一員として、薬剤師に求められている Evidenced Based Medicine (EBM) の実践に必要な基礎知識とその実践方法について理解を深める。EBM を実践する上で必要な基礎知識として、臨床上的問題点の定式化、適切なデータベースの選択、各種データベースを利用した文献検索法、検索された論文の批判的吟味等について、解説する。

講義計画：

回数	担当者	テーマ	内 容
1	岸野 吏志	EBM の基礎 (1)	EBM とは
2	岸野 吏志	EBM の基礎 (2)	治療方針決定の根拠
3	岸野 吏志	EBM の基礎 (3)	治療効果の指標
4	岸野 吏志	EBM の実際 (1)	臨床研究の研究デザイン (1)
5	岸野 吏志	EBM の実際 (2)	臨床研究の研究デザイン (2)
6	岸野 吏志	EBM の実際 (3)	薬物治療の批判的吟味 (1)
7	岸野 吏志	EBM の実際 (4)	薬物治療の批判的吟味 (2)
8	大野 恵子	EBM の実践 (1)	医薬品情報の収集
9	大野 恵子	EBM の実践 (2)	医薬品情報の適用（活用）
10	未定	特別講義	未定

テキスト：プリント

参考書：

Malone P, Kier K, Stanovich J: Drug Information: A Guide for Pharmacists, Fourth Edition, McGraw-Hill, 2011.

成績評価の方法：試験の成績（100%）で評価する。

教員からメッセージ：論文講読が基本です。

明治薬科大学大学院 薬学専攻シラバス
2012年度 後期(医療薬学分野 演習)

科目名：医薬品情報学演習

科目責任者：岸野 吏志

演習の概要と目標：

【目標】

本演習を通じて、医薬品情報学特論で修得した知識を実践して、臨床上の問題点の定式化、適切なデータベースを利用した文献検索、得られた文献の評価を行い、臨床上の問題点の解決に活かすことができる。

【授業計画】

実際に、各学生が自ら設定した臨床的な問題点について、データベースを用いて文献検索し、得られた文献の評価を行う。その結果についてはプレゼンテーションし、さらに討論を通じて理解をより深める。

講義計画：

回数	担当者	テーマ	内 容
1	岸野 吏志	EBM の論文を読む (1)	論文の構成を理解する。
2	岸野 吏志	EBM の論文を読む (2)	論文の内容を理解し、要点を理解する。
3	岸野 吏志	EBM の論文を読む (3)	実際に論文を読んでもみる。
4	岸野 吏志	臨床問題を解決するための論文を読む (1)	各人が読んだ論文を紹介し、その内容について討論する (1)
5	岸野 吏志	臨床問題を解決するための論文を読む (2)	各人が読んだ論文を紹介し、その内容について討論する (2)
6	岸野 吏志	臨床問題を解決するための論文を読む (3)	各人が読んだ論文を紹介し、その内容について討論する (3)
7	岸野 吏志	臨床問題を解決するための論文を読む (4)	各人が読んだ論文を紹介し、その内容について討論する (4)
8	大野 恵子	医薬品情報検索を実践し、臨床問題を解決する (1)	各人の臨床的疑問に対する医薬品情報検索事例を紹介し、その解決過程を討論する (1)
9	大野 恵子	医薬品情報検索を実践し、臨床問題を解決する (2)	各人の臨床的疑問に対する医薬品情報検索事例を紹介し、その解決過程を討論する (2)
10	岸野 吏志	まとめ	総合討論

テキスト：医薬品情報学特論での講義プリント

参考書：

Malone P, Kier K, Stanovich J: Drug Information: A Guide for Pharmacists, Fourth Edition, McGraw-Hill, 2011.
成績評価の方法：プレゼンテーションと討論の内容（100%）で評価する。

教員からメッセージ：

論文講読と英文和訳は違います。必要に応じて、各自無線 LAN 対応のノート型 PC を持参すること。

明治薬科大学大学院 薬学専攻シラバス
2012年度 後期(基礎薬学分野 特論)

科目名：分析化学特論
Analytical Biochemistry

科目責任者：櫻庭 均

講義概要（学問分野、主たる講義項目）と目標：

臨床で用いられる分析化学的研究法とその実際例について解析する。臨床における分析化学について理解することを目的とする。

講義計画：

回数	担当者	テーマ	内 容
1	櫻庭 均	臨床分析化学の基礎 (1)	臨床試料の採取と選択
2	櫻庭 均	臨床分析化学の基礎 (2)	臨床化学分析方法
3	櫻庭 均	免疫学的解析	臨床における免疫学的解析
4	櫻庭 均	遺伝子解析	臨床における遺伝子解析
5	櫻庭 均	酵素学的解析	臨床における酵素解析
6	櫻庭 均	アミノ酸解析	臨床におけるアミノ酸解析
7	櫻庭 均	分子間相互作用解析	表面プラズモン共鳴を利用した解析
8	櫻庭 均	機器分析	MRI、CT、エコー
9	櫻庭 均	新薬開発への応用 (1)	新薬開発における分析化学
10	櫻庭 均	新薬開発への応用 (2)	新薬開発の実例

テキスト：プリント、映画

参考書：なし

成績評価の方法：レポート

教員からメッセージ：臨床での分析化学について学び、理解して下さい。

明治薬科大学大学院 薬学専攻シラバス
2012年度 後期(基礎薬学分野 演習)

科目名：分析化学演習

科目責任者：櫻庭 均

演習の概要と目標：

演習を通じて、分析化学特論で取得した知識を、実践的なものとするを目的とする。

講義計画：

回数	担当者	テーマ	内 容
1	櫻庭 均	臨床分析化学の基礎 (1)	臨床試料に関する調査
2	櫻庭 均	臨床分析化学の基礎 (2)	臨床化学分析方法に関する調査
3	櫻庭 均	免疫学的解析	免疫学的解析に関する調査
4	櫻庭 均	遺伝子解析	遺伝子解析に関する調査
5	櫻庭 均	酵素学的解析	酵素学的解析に関する調査
6	櫻庭 均	アミノ酸解析	アミノ酸解析に関する調査
7	櫻庭 均	分子間相互作用解析	表面プラズモン共鳴に関する調査
8	櫻庭 均	機器分析	MRI、CT、エコーに関する調査
9	櫻庭 均	新薬開発への応用 (1)	新薬開発に関する調査 (1)
10	櫻庭 均	新薬開発への応用 (2)	新薬開発に関する調査 (2)

テキスト：プリント

参考書：なし

成績評価の方法：レポート

教員からメッセージ：

分析化学特論で学んだ知識を生かして、自ら調査することで理解を深めてください。

4. 立教大学 医学物理研究コース

4-1 シラバス

理学研究科物理学専攻「医学物理研究コース」

本コースは、本学大学院理学研究科物理学専攻博士課程後期課程に在学し、放射線の本質を理解し、最先端の放射線計測技術の成果を臨床現場のニーズに合わせて活用できる能力を有する医学物理研究者及び医学物理士を養成することを目的として設置するコースである。

- ◆対象者：理学研究科物理学専攻博士課程後期課程在学者
- ◆募集人数：若干名

登録を希望する者は、以下の手順に従うこと。

1. 登録：

希望者は事前に「医学物理研究コース登録申請書」を下記の申請期間内に提出すること。
提出された書類に基づき、理学研究科で審査を行い、登録者を確定する。

- 申請期間：後期課程1年次 ①正規登録 2012年4月10日(火)、11日(水)、12日(木) 10時～17時
②追加登録 2012年9月20日(木)、21日(金) 10時～16時
後期課程2年次 ③追加登録 2012年4月10日(火)、11日(水)、12日(木) 10時～17時
後期課程3年次 ④追加登録 2012年4月10日(火)、11日(水)、12日(木) 10時～17時
- 提出場所：学部事務3課(4号館2階)
- 結果通知：4月登録(上記①、③、④)は4月末日に理学部掲示板にて。
9月登録(上記②)は10月上旬に理学部掲示板にて。

2. 指定科目：物理学専攻に設置された以下の科目を履修すること。

区分	所定 単位数	開講 学期	科目名	単位数	備考
必修	10	前期	医学概論 ※ b	2	
			放射線計測特論	2	
		後期	放射線物理学 ※ b	2	
			電子工学特論	2	
			放射線計測演習	1	
集中	インターンシップ(医学物理士) ※ a	1			
選択必修 A (関連基礎科目)	4	前期	原子核特論	2	
			宇宙放射線特論	2	
			原子核物理学 ※ b	2	
			原子・分子物理学 ※ b	2	
		前期集中	原子・分子物理特論	2	
選択必修 B (医療物理解連科目)	4	前期	放射線生物学特論	2	
			情報処理学	2	
		後期	放射線治療物理学	2	

- ※ a 履修登録不要。1週間程度の実習を行い、レポートを提出する。申請要領、レポート提出要領については別添提示する。
- ※ 学部または前期課程在学中に上記科目を修得した者が、当プログラムに登録した場合は、それぞれプログラムの指定科目を修得したもとして科目の単位を認定する。

3. 注意事項：

本コースは、大学院博士課程後期課程の所定の研究指導を修了することがコースの修了要件となる。

以上

第4編

各委員会議

1. 順天堂大学 運営委員会

1-1 平成 24 年度第 1 回がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン運営委員会

(1) 日時、場所

開催日時：平成 24 年 5 月 8 日（火）14：00～

開催場所：8 号館 3 番教室

(2) 議題

1. がんプロフェッショナル養成プラン「実践的・横断的がん生涯教育センターの創設」の最終評価を受けて
2. がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「ICT と人で繋ぐがん医療維新プラン」について
3. 今後の事業予定（順天堂大学と各連携大学の役割）
4. 順天堂大学がんプロ運営委員会の役割・意義
5. 各運営小委員会の役割
6. シンポジウムについて
7. HP について
8. その他

1-2 平成 24 年度第 2 回がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン運営委員会

(1) 日時、場所

開催日時：平成 24 年 6 月 12 日（火）14：00～

開催場所：10 号館 2 階 203 カンファレンスルーム

(2) 議題

1. シンポジウムについて
2. 全国がんプロ協議会について
3. e-learning について
4. 各運営小委員会報告
5. その他

1-3 平成24年度第3回がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン運営委員会

(1) 日時、場所

開催日時：平成24年7月10日（火）14：00～

開催場所：10号館2階203カンファレンスルーム

(2) 議題

1. PD申請について
2. シンポジウム開催結果
3. e-learningについて
4. 各運営小委員会報告
5. その他

1-4 平成24年度第4回がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン運営委員会

(1) 日時、場所

開催日時：平成24年9月11日（火）14：00～

開催場所：10号館2階203カンファレンスルーム

(2) 議題

1. 岩手医科大学FD研修会開催結果
2. カリキュラムについて
3. がんプロ経常経費について
4. 各運営小委員会報告
5. その他

1-5 平成24年度第5回がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン運営委員会

(1) 日時、場所

開催日時：平成24年10月9日（火）14：00～

開催場所：10号館2階203カンファレンスルーム

(2) 議題

1. カリキュラムについて
2. 事業評価ガイドラインについて
3. 各運営小委員会報告
4. その他
 - － 次年度予算希望
 - － 特別講義

1-6 平成24年度第6回がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン運営委員会

(1) 日時、場所

開催日時：平成24年11月13日（火）14：30～

開催場所：10号館2階203カンファレンスルーム

(2) 議題

1. 共通カリキュラム策定について
 - － 次世代がん研究者養成コース カリキュラム案
 - － 次世代がん研究者養成コース カリキュラム対応表
 - － 旧がんプロ講義 移行希望講義確認
2. 予算について
 - － 今年度予算追加申請リスト
 - － 今年度予算執行状況
3. 各運営小委員会報告
4. その他

1-7 平成24年度第7回がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン運営委員会

(1) 日時、場所

開催日時：平成24年12月11日（火）14：30～

開催場所：10号館2階203カンファレンスルーム

(2) 議題

1. 平成25年度補助金調書（予算分）作成について
2. カリキュラム・シラバス作成について
3. 新規PD・RA募集（来年度4月分）
4. 各運営小委員会報告
5. その他

1-8 平成24年度第8回がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン運営委員会

(1) 日時、場所

開催日時：平成25年1月8日（火）14：00～

開催場所：10号館2階203カンファレンスルーム

(2) 議題

1. カリキュラムについて
2. がんプロ学生の登録について
3. インテンシブコースについて
4. 今年度開催シンポジウムについて
5. 各運営小委員会報告
 - － 先導的がん医療開発センター 研究コーディネーター募集について
 - － PD研究支援者 募集について
6. その他

1-9 平成24年度第9回がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン運営委員会

(1) 日時、場所

開催日時：平成25年2月12日（火）14：00～

開催場所：10号館2階203カンファレンスルーム

(2) 議題

1. カリキュラムについて
2. 平成25年度年間行事予定
3. 平成25年度PD・RA・研究支援者採用について
4. 各運営小委員会報告
5. その他

1-10 平成24年度第10回がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン運営委員会

(1) 日時、場所

開催日時：平成25年3月12日（火）14：00～

開催場所：10号館2階203カンファレンスルーム

(2) 議題

1. 平成25年度研究拠点形成費等調書について
2. 平成24年度実績報告書について
3. カリキュラムについて
4. 各運営小委員会報告
5. その他

2. がんプロ連携7大学運営連絡会

2-1 がんプロ連携7大学運営連絡会 (24-1)

(1) 日時、場所

開催日時：平成24年4月25日（水）9：30～

開催場所：10号館2階203カンファレンスルーム

(2) 議題

1. 挨拶（学長・医学研究科長）
2. 連携大学紹介・今年度各大学の事業計画について
3. キックオフシンポジウムについて
4. ICT計画について
5. 役割分担等について
6. その他
7. 今後の予定・事務連絡

2-2 がんプロ連携7大学運営連絡会 (24-2)

(1) 日時、場所

開催日時：平成24年6月18日（水）14：30～

開催場所：11号館7階703

(2) 議題

1. e-learning について
2. ICT計画について
3. 各大学の役割分担
4. カリキュラムの進捗状況
5. FDについて
6. その他

2-3 がんプロ連携7大学運営連絡会（TV会議）（24-3）

(1) 日時、場所

開催日時：平成24年7月17日（火）11：30～

開催場所：11号館10階北

(2) 議題

1. e-learning について
2. 今年度の連携シンポジウム等について
 - － 岩手医科大学
 - － 島根大学・鳥取大学
 - － 東京理科大学
3. 全国がんプロ協議会調査について
4. 次回運営連絡会開催について

2-4 がんプロ連携7大学運営連絡会（TV会議）（24-4）

(1) 日時、場所

開催日時：平成24年9月5日（水）16：30～

開催場所：11号館16階北

(2) 議題

1. 岩手医科大学主催FD研修について
2. 全国がんプロ協議会『養成実績再調査』について（達成目標）
3. 次回運営連絡会開催・連携大学開催内容について
 - － 東京理科大学・島根大学

2-5 がんプロ連携7大学運営連絡会（TV会議）（24-5）

(1) 日時、場所

開催日時：平成24年10月9日（火）14：30～

開催場所：順天堂大学

(2) 議題

1. 共通カリキュラム作成について
2. 事業評価ガイドラインについて
3. 東京理科大学開催研究シンポジウムについて
4. 島根大学、鳥取大学合同山陰地域シンポジウムについて
5. その他
 - － 次年度予算
 - － 次回運営連絡会開催について

2-6 がんプロ連携7大学運営連絡会（TV会議）（24-6）

(1) 日時、場所

開催日時：平成24年11月13日（火）14：00～

開催場所：順天堂大学

(2) 議題

1. 共通カリキュラム策定について
2. 東京理科大学 11/30（金）開催 研究シンポジウム『基礎研究を先進がん医療に活かす』について
3. 島根大学、鳥取大学合同 12/13（木）開催 シンポジウム『がん医療における地域貢献とは』について
4. 事業評価ガイドラインについて
5. その他
 - － がんプロ HP 開設について
 - － 筑波大学 11/25（日）開催 外部評価シンポジウムのお知らせ
 - － 日本放射線腫瘍学会 11/22（木）創立25周年記念式典のお知らせ
 - － 全国がんプロ協議会 平成25年1/30（水）合同フォーラム（全国版FD・ポスター展示会）のお知らせ
 - － 次回運営連絡会開催について

2-7 がんプロ連携7大学運営連絡会（TV会議）（24-7）

(1) 日時、場所

開催日時：平成24年12月11日（火）14：00～

開催場所：順天堂大学

(2) 議題

1. H24.11.30 東京理科大学シンポジウム報告
2. H24.12.13 島根大学・鳥取大学合同シンポジウム準備状況
3. H25.1.30 合同フォーラム（全国版FD・ポスター展示会）について
4. 『e-learning 共通講義』及び『ICT 特別講義』連携各校役割分担等について
5. 平成24年度がんプロ活動報告書作成について
6. 平成25年度補助金調書（予算分）作成について
7. その他
 - － 筑波大学 11/25（日）平成24年度外部評価シンポジウム報告
 - － 本グループ外部評価について
 - － 次回運営連絡会開催・平成25年度がんプロ行事予定作成について

2-8 がんプロ連携7大学運営連絡会（24-8）

(1) 日時、場所

開催日時：平成25年1月30日（水）

開催場所：フォーレスト本郷 会議室（東京都文京区本郷6-16-4）

(2) 議題

1. H25年予算案について
2. H25年年間予定について
3. カリキュラムについて
4. その他
 - － ガイドライン・外部評価について
 - － H24年度シンポジウムについて

文部科学省 平成 24 年度
「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」選定事業

平成 24 年度活動報告書

発行：順天堂大学先導的がん医療開発研究センター
順天堂大学がん生涯教育センター
東京都文京区本郷 2-1-1

許可なく転載・複製を禁じます。

